

2018

授業科目別シラバス

－ 基本教育科目 －

佐久大学看護学部

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
人間存在と道德意識	101	1後	選	2単位 30時間	講義	月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮入宗乗（MIYAIRI, Shujo） 中嶋智子（NAKAJINA, Tomoko） 森本 彩（MORIMOTO, Aya）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
社会的存在としての人間の義務や責任、共存のための規範や意義について考えることにより、社会的行為の意味を理解する。社会に生きるために必要な規範、道德の本質について考察し道德的行動をとれる人間としての規範意識を涵養する。また、人間観や世界観について、さまざまな考えがあることについて学ぶ。 とりわけ、現代社会における「いのちの尊厳」への軽視傾向に向きあい、個々を尊重し合う社会環境の創成と自らの関わり方について視野の拡大を考える。						
到達目標						
1. 人間や人生に関わる様々のことに想いを深め、思考しようとする姿勢が醸成される。 2. 倫理学の対象と方法について日常帝に生かすことができる。 3. 歴史的に日本人の精神性に影響を与えた仏教的な生命観・死生観を学び、いのちの尊さと不思議に気付くことができる。 4. 「自分」と「他者」との垣根を越えたを思考や行動について考え、その関係性を大切に思う心が養われる。 5. 他者の思いや言葉を能く聞くことが出来、自分の思いや行動を相手に伝える姿勢が養われる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
	学習テーマ：『今、いのちを考える』…生、老、病、死の四苦をとおして。 なぜ「今」なのか。そして「いのち」とは？ この授業をとおして、「人の生命の現場」に真向いながら、人生の中で使命感を持って生きようとする「看護」の道を目指す学生と日ごろ日本人の生死（しょうじ）の現場に深く関わってきた宗教者である講師とともに『人類普遍の生命観・死生観』に加えて、とりわけ『仏教の生命観・死生観』（釈尊のおしえ）に視点を置きながら学びを深めてゆく。					
1	オリエンテーション（この講座で学ぶこと）			講義	宮入	
2	「諸行無常」と云うこと（釈尊の世界観・死生観）			講義	宮入	
3	「四苦」と云うこと…この世に生まれた限りは背負うもの			講義	宮入	
4	「四苦（生病老死）」の素顔を見る			講義	宮入	
5	「生命は何故大切か？」（1）			講義	宮入	
6	「生命は何故大切か？」（2）			講義	宮入	
7	生まれるいのち、去りゆくいのち、今を生きるいのち、そして支えるいのち（1）			講義	宮入	
8	生まれるいのち、去りゆくいのち、今を生きるいのち、そして支えるいのち（2）			講義	宮入	
9	「典座教訓」「赴粥飯法」（道元）に見る「いのちの視点」			講義	宮入	

10	「いのち」を行ずる「四摂法」について (1)	講義	宮入
11	「いのち」を行ずる「四摂法」について (2)	講義	宮入
12	『坐禅』体験をとおして「自分と向き合う」ことを学ぶ (蕃松院)	学外授業	宮入
13	『坐禅』体験のまとめ 今までに提起された疑問・質問への解答 (1)	講義	宮入
14	今までに提起された疑問・質問への解答 (2)	講義	宮入
15	まとめ あらためて『なぜ今「いのち」なのか?』	講義	宮入
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
毎回授業時に授業内容に応じた重点項目・箇所などを提示し、資料の読み直しなどによる理解の向上について指示する。1回の授業について、1時間程度予習・復習（資料の熟読）を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
指定しない。 必要に応じて、資料を配布する。			
成績評価の方法・基準			
レポート（60％） 授業参加状況（40％）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
いのちの不思議に目覚め、人として生きる意味を確かめ、他のために役立つ、誰かに必要とされる「自分」と出会おう！			

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
人間心理と人間行動	102	1前	選	2単位 30時間	講義	火4
担当教員（○印＝科目責任教員） ○金高茂昭（KANETAKA, Shigeaki）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の13時から14時30分まで、授業終了後から18時までの間 カウンセリングルーム（1号館1F）へお越しください。						
授業の概要						
人は物理的（物質的）存在であるとともに、心理的・論理的存在である。人の行動（言動）・反応は、内面の心理（認知構造等）を通して行われる。従って、人の行動を理解するためには、人の心の理（心理）を知る必要がある。また、人の心理を理解するためには人の行動を読み解く必要がある。当授業では、人の心の働きについて理解を深め、人が見せる様々な行動の意味、行動化の原因としての心の働きやメカニズムについて理解を深め、人の行動と心の働きの関連を理解していく。学習を通して、多様な人間の多様な心と行動の理解を深めていく。						
到達目標						
1．“こころ”を科学的に理解しようとする態度を身につける。 2．“無意識”の存在と働きを知り、行動に及ぼす影響を知る。 3．“こころ”についての幾つかのとりえ方・理解の仕方を学び、イメージできるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	ガイダンス			講義	金高	
2	人をみる（見る・観る・覧る・視る・診る・看る）とは、人を理解するとは					
3	科学的視座・科学の要件、人間学とは、心理学の立場・研究方法・分野					
4	類型論（C. G. ユング、クレッチマー、シェルドンの類型論）					
5	特性論（オルポート、ギルフォード等の特性論）					
6	精神分析学（S. フロイト等）と分析的心理学（C. G. ユング等）					
7	アドラー心理学〔個人心理学〕（A. アドラーによる人間理解とその方法）					
8	人間性心理学〔成長モデル心理学〕（C. ロジャースによる人間理解とその方法）					
9	行動科学としての心理学、臨床心理学、健康心理学、社会心理学					
10	ストレスと認知構造（ストレッサー、認知構造、ストレス反応）、ストレスと付き合う					
11	行動変容と心理療法（心理療法の考え方・立場、いくつかの心理療法紹介）					
12	医療・保健・福祉分野における心理学的支援（心理相談業務と福祉相談業務の類似点と差異）					
13	認知療法、論理療法、行動療法、認知行動療法 概説					
14	発達と発達課題（ピアジェ、フロイト、エリクソン、ハヴィガースト等の発達段階区分と発達課題）					
15	高齢者を理解し、支援するということについて					
	認知症、介護ストレス等について					
	総括					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業の復習をしてください。時々、小テストを行います。 図書館等を利用し、広く心理学に関する読書をしてください。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：榎本博明著『はじめてふれる人間関係の心理学』サイエンス社 2018 年 参考文献：適宜資料を配布する。
成績評価の方法・基準
筆記試験（60％） 小テスト（30％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
積極的な授業参加を求めます。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
人間関係とコミュニケーション	(A) 103 (B) 104	1前	必	2単位 30時間	講義	(A) 金1 (B) 金2

担当教員（○印＝科目責任教員）
○宮内克代（MIYAUCHI, Katsuyo）

オフィスアワー／連絡先と連絡方法
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

授業の概要
コミュニケーションの様々な形について理解し、自己と他者との関係、他者相互間の関係等について理解を深める。
対人コミュニケーションの基本的な理論や先人の知恵をを学習し、学んだ理論を実感し体得すべく、演習を行う。

到達目標
コミュニケーションの意味と仕組みが理解できるようになる。
社会人として、また看護職としての対人コミュニケーションスキルを磨くことを目標にする。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。

授業計画			
回数	授業内容	授業方法	担当教員
1	オリエンテーション	講義と演習を 有機的に組み 合わせる	宮内
2	コミュニケーションの種類		
3	コミュニケーションに影響する要因		
4	看護におけるコミュニケーション		
5	質問技法		
6	傾聴と共感		
7	関係構築技法		
8	面接の技法		
9	面接トレーニング		
10	事例研究①		
11	事例研究②		
12	多職種連携とコミュニケーション		
13	アサーティブ・コミュニケーション		
14	患者家族とのコミュニケーション		
15	まとめ		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
コミュニケーション演習の一環として、インタビューやレポートなどの課題がある。
1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：篠崎恵美子他『看護コミュニケーション』医学書院
参考文献：プリント配布

成績評価の方法・基準
筆記試験（50％） 課題（25％） 授業参加状況（25％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中に個別に発表し、講師が講評を行う。 詳細は授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
「自分の意見を相手に伝わる形にして、述べる」という経験と「さまざまな事例にどのように対処するか、考える」という体験をしてもらうので、すべてを「自分自身の問題」と考えて、積極的に授業に取り組むこと。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
健康管理と生活習慣	105	1後	選	2単位 30時間	講義	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊（PARK, Sangjun） 研究室 1号館3階1319						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 授業日以外の日は、メール（s-park●saku.ac.jp）で受け付ける。						
授業の概要						
人間が健康的に暮らし、快適に寿命を全うする上で、暮らしを取巻く環境と生活習慣、自律的健康管理の積み重ねは重要な影響因子となる。健康の回復・維持・増進や自己管理のための基礎的な知識を深め、心身の健康維持に必要とされる運動や思考、生活習慣などについて、科学的根拠に基づく対策の仕組みの理解と行動変容につながる介入のあり方を理解する。						
到達目標						
1. 学生が自己の生活習慣を見つめ、健康とのつながりを理解する。 2. 心身の健康管理のあり方を考え、また、支援者としての役割を自覚する。 3. 人の多様性を理解し、上手な対人関係のための知識を深める。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	健康とは WHOの健康の定義・公衆衛生と予防の概念・健康づくりと影響因子			講義	朴	
2	命の大切さについて 自殺問題・心の健康問題			講義		
3	働き盛り世代の健康問題について 生活習慣病・職場における自律的健康支援対策			講義		
4	ゲートキーパーについて① 自殺問題とゲートキーパーの役割			講義・演習		
5	ゲートキーパーについて② 自殺する人の心理とゲートキーパーとしての心得			講義・演習		
6	自殺に関する偏見について 自殺は合理的な選択なのか			講義		
7	心身のセルフケア① 認知行動療法を知る			講義		
8	心身のセルフケア② 認知行動療法の実践			演習		
9	心身のセルフケア③ 精神分析の概要			講義		
10	心身のセルフケア④ ストレス科学分野の研究			講義		
11	心身のセルフケア⑤ 支援者として自己管理			講義		
12	人の多様性の理解① 男女の違い			講義		
13	人の多様性の理解② 人の5つの言語の違い			講義		
14	コミュニケーションスキル ところに届く言葉の伝え方			講義		
15	まとめ 授業のポイントの振り返り			講義・演習		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業時間内のグループワークが必要になります。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
指定しない
成績評価の方法・基準
レポート（70％） 授業参加状況（30％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
成績評価の方法・基準の「レポート（70%）」とは、授業時に出される自分の心身の振り返り記録資料を指します。 授業時間内の「グループワーク（30%）」が大きな成績評価になりますので、積極的にグループワークに参加するようにしてください。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
人間環境と生物科学	106	1前	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員） ○平林公男（HIRABAYASHI, Kimio）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、授業以外の時には電子メールで受け付ける（メールアドレスは別に知らせる）。						
授業の概要 我々人類を取り巻く環境について、地球規模で理解し、環境問題や地球環境保全に関する理解を深める。環境汚染や環境破壊が人間を含め生物や自然に与える影響について理解する。						
到達目標 1．環境とは何かをグローバルな視点で理解し、説明ができる。 2．様々な地球環境の問題について説明ができ、その関連性についても理解ができている。 3．水と生命、水環境と保全などについて、現状を理解し、その問題点についても言及できる。 4．化学物質のリスク評価について説明ができる。 5．化学物質が私達の健康に与える影響について説明ができ、関連内容についても理解ができている。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	環境とは、環境問題とは何かについて学ぶ。(序章)			講義	平林	
2	公害の定義、日本の公害、世界の公害などについて学ぶ。(4, 5, 10-13 章)					
3	化学物質の生体内での蓄積(1) 生物濃縮、濃縮係数などについて学ぶ。(7 章)					
4	化学物質の生体内での蓄積(2) 単位、吸収と代謝などについて学ぶ。(7 章)					
5	化学物質の生体内での代謝経路などについて学ぶ。(8 章)					
6	化学物質とその健康影響について学ぶ。例：PCB、ダイオキシン類など(9 章)					
7	化学物質の毒性評価：毒の概念、毒の評価法などについて学ぶ。(8 章)					
8	発がん性化学物質について(1) 発見の歴史などについて学ぶ。					
9	発がん性化学物質について(2) 発がんのメカニズムなどについて学ぶ。					
10	がんの疫学などについて学ぶ。					
11	水と生命(1) 水質の決まる仕組みについて学ぶ。(1 章)					
12	水と生命(2) 日本の水の水質の特徴について学ぶ。(3 章)					
13	水質を計測する指標、水の循環などについて学ぶ。(序章、4 章)					
14	水と健康(上下水道) などについて学ぶ。(3, 4 章)					
15	水系感染症、食中毒などについて学ぶ。					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
次回の授業範囲を予習（指定したテキストは事前に読んでおく）し、用語の意味を理解しておくこと。 授業内容を毎回復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：及川紀久雄編『新 環境と生命』三共出版 参考文献：必要に応じて授業内で紹介する。
成績評価の方法・基準
筆記試験（80％） レポート（20％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
板書をするので、ノートをしっかりと、とってください。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
社会生活と法律問題	151	1後	選 (養) 必	2単位 30時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○関 良徳（SEKI, Yoshinori）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
この授業では、①私たちの日常世界で生じている法律問題とその背景について概説する。②それぞれの問題について、法律上、いかなる取り組みがなされているかを説明する。③現在の法制度や法的対応が抱えている問題点を指摘し、改善策を検討する。④身近な法律問題に自分なりの解決を示すとともに、他の受講生との討論からより公正な判断を導き出すための問題解決型学習を行う。						
到達目標						
私たちの身のまわりの法律について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的な法律問題を解決できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	自己決定と法：法律的な考え方の基礎にある「自己決定権」について学ぶ。			講義	関	
2	消費生活と法（１）：消費生活における契約と約款の問題を様々な事例から学ぶ。			講義		
3	消費生活と法（２）：消費者契約法等にかかわる事例から消費者問題を考える。			講義		
4	事例検討[１]：自己決定権に関わる事例を裁判形式で検討し、その問題点を探る。			演習・討論		
5	家族と法：家族をめぐる法的問題（夫婦別姓など）について説明する。			講義		
6	子どもと法（１）：児童虐待の問題について、その原因や法的対応について学ぶ。			講義		
7	子どもと法（２）：現在の少年法がかかえる諸問題について概説する。			講義		
8	事例検討[２]：家族に関する事例を裁判形式で検討し、各論点について考える。			演習・討論		
9	犯罪と法：犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について解説する。			講義		
10	裁判員制度：裁判員制度の意義と問題点について考える。			講義		
11	医療と法（１）：インフォームド・コンセントと安楽死・尊厳死について考える。			講義		
12	事例検討[３]：刑事事件を裁判形式で検討し、その仕組みを学ぶ。			演習・討論		
13	医療と法（２）：代理出産、臓器移植、医療事故・医療訴訟について解説する。			講義		
14	労働と法（１）：採用と退職・解雇に関わる労働法について検討する。			講義		
15	労働と法（２）：就業時間、賃金、職場環境に関する労働法について概説する。			講義		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内容の復習を行っておくこと。 事例検討の授業では、予習レポートが課される。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『ポケット六法』有斐閣 参考文献：適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
筆記試験（50％） レポート（30％） 授業参加状況（20％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
法律学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この授業では身近な問題を扱うことで将来必ず必要になる知識を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題についての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評価します。質問・相談は授業時間内または授業後に行うようにしてください。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
現代社会と家族関係	152	1後	選	2単位 30時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○金高茂昭（KANETAKA, Shigeaki）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後から12時までの間 カウンセリングルーム（1号館1F）へお越しください。						
授業の概要						
社会を形成する最小単位としての家族、その形成・形態や機能、構成員の役割などについて再認識し、核家族や高齢者家族など、家族関係を巡る現代社会が抱える諸問題について考える。また、携帯電話やパソコンが普及した今日のような高度科学技術・インターネット社会における多様な家族・家族関係のあり方やその変容を巡る問題、介護・健康問題など家族の抱える諸問題についての理解を深めていく。						
到達目標						
1．家族関係図をもとに、家族構成、家族・親族関係などを理解できるようになる。 2．個人・家族関係・社会にもたらす高度情報化ネットワークの影響について考察する。 3．核家族の問題や、高齢社会における介護の問題について考察し、高齢者看護・介護について理解を深める。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	家族とは、人間社会の変化と家族の変化				講義	金高
2	家族の類型と分類（形態による類型、構成員による類型等）					
3	家族の諸機能					
4	家族を巡る今日の問題（家族構成員の個人化・個性化等）					
5	高度科学技術・情報社会と家族（パーソナルネットワークの広がりや家族関係の変化）					
6	現代社会の将来予測（医療・福祉・保健・教育の立場から）と家族・家族関係の変化					
7	現代家族の子育て・養育問題					
8	家族の課題と危機、家族内コミュニケーションの問題					
9	家族のストレス（虐待やDV問題、摂食障害の問題等）					
10	上手く機能する家族、家族員の感情表出等					
11	エンゲル係数					
12	ジニ係数とローレンツ曲線					
13	介護問題、認知症を巡る諸問題					
14	介護保険制度利用による家族介護					
15	総括					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業の復習をしてください。時々、小テストを行います。 図書館等を利用し、広く社会問題や家族関係についての読書をしてください。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：望月雅和編『子育てとケアの原理』北樹出版 2018 年 参考文献：榎本博明著『はじめてふれる人間関係の心理学』サイエンス社 2018 年 その他必要に応じ、適宜資料を配布する。
成績評価の方法・基準
筆記試験（60％） 小テスト（30％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
積極的な授業参加を求めます。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
国際社会と国際貢献	153	1前	選	2単位 30時間	講義	月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○駒村 哲（KOMAMURA, Satoshi） 東田吉子（TSUKADA, Yoshiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
駒村：授業終了後に教室で質問を受け付ける。 東田：研究室（5号館2階201）在室時、またはメール（y-tsukada●saku.ac.jp）で事前に連絡してください。						
授業の概要						
現代の国際事情や国際社会に生じている諸問題について、発展途上国に限らず、発達した国々が持つ諸問題についても理解を深める。国の状況に応じた多様な考え方や価値観、慣習があること等を理解して、国際社会における我が国の果たす役割と貢献のあり方について考え、国際的視野を養う。						
到達目標						
（駒村） 1. 戦争と平和について基本的な事実を再確認し、論証することができる。 2. 現代国際社会の諸問題を多角的・総合的に捉える視野をもつことができる。 3. 他国に生きる人々への理解を深め、コミュニケーション能力を高めることができる。 （東田） 1. 保健・医療の発展と社会・経済活動について、日本と世界の国々とのつながりを理解できる。 2. 日本の看護の国際協力について理解できる。 3. 日本と世界とのつながりを日々の暮らしを通して具体的に理解できる。 4. 異文化について理解を深める。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	国際関係論とは何か			講義	駒村	
2	国民国家とは何か			〃	駒村	
3	国際社会とは何か			〃	駒村	
4	第1次世界大戦と第2次世界大戦について学ぶ			〃	駒村	
5	冷戦とは何か			〃	駒村	
6	国際的地域紛争について学ぶ			〃	駒村	
7	現代国家の変容について学ぶ			〃	駒村	
8	日本の国際貢献について学ぶ			〃	駒村	
9	グローバリゼーションの行方について考える			〃	駒村	
10	21世紀の国際社会と国際貢献について考える			〃	駒村	
11	国際保健・看護学の概要を理解する。 日々の生活の中で、海外とのつながりを考える。			講義／GW	東田	
12	開発途上国の健康問題と社会・経済の背景を理解する。 国の社会状況・保健システムの違い、プライマリ・ヘルスケアの状況を知る。（日本、タイ、バングラデシュ）			講義	東田	

13	ジェンダーの平等、女性のエンパワーメントについて戦後から現代に至るあゆみを理解し、他の国の状況についても考える機会とする（例：イスラムの国）	講義／GW	束田
14	日本の看護の国際協力と国際貢献について知る（サウジアラビア、ナイジェリア、タイ）	講義	束田
15	国内における国際活動、経済連携協定（EPA）による看護職の国内への受入れ状況を理解し、国内の国際化について知る。	講義／GW	束田
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
指定したテキストを事前に読んでおくこと。教員が提示する課題について調べておくこと。 テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習すること。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：国際紛争－理論と歴史 原書第10版、有斐閣 国際看護学（看護の実践と統合3）、メヂカルフレンド社 参考文献：授業内で適宜紹介する			
成績評価の方法・基準			
教員2名による総合評価とする。 駒村：筆記試験（60%）、レポート（30%）、授業参加状況（10%） 束田：テスト（60%）、授業開始時に行う小テスト（10%）、授業参加度（30%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
駒村：授業時に説明する。 束田：小テストの動向・結果については、次回講義時に学生へ伝える。			
担当教員からのメッセージ			
主体的かつ積極的に取り組むこと。			

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域社会と生活文化	154	1前	選	2単位 30時間	講義	金3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小林 収（KOBAYASHI, Osamu） 関本真奈美（SEKIMOTO, Manami）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
佐久地方における地域性や歴史文化について、地理的・歴史的な資料に基づいて学習し、地域がどのように変遷し、そこに生きてきた人々が、どのように地域をつくり上げてきたかについて考える。						
到達目標						
私たちが生活している地域が、どのように形成されてきたか、その歴史や文化を習得するばかりでなく、自らも地域の一員であることを自覚し、これからの地域社会をより良くつくり上げていく気持ちを持つ。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	佐久の山河と気候			講義	小林	
2	東山道による東西文化の流入					
3	武田氏による佐久侵攻と人々の苦しみ					
4	中山道・北国街道の整備と宿場町・城下町の発展					
5	五郎兵衛用水の開削と佐久の新田集落					
6	天明の浅間焼けと水戸浪士の通過					
7	明治維新と社会・文化の西欧化					
8	交通の発達と産業の近代化					
9	軽井沢の別荘づくりと避暑地の形成					
10	千曲川の電源開発と生活への影響					
11	第二次世界大戦と佐久地域					
12	戦後の経済成長と大量消費時代					
13	佐久の工業・商業の特色と地域経済の拡大					
14	高速交通時代と佐久の変貌					
15	佐久地域の特色と発展への視点					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
五万分の1の地形図や佐久地域の地図を学習に生かし（特に佐久以外の出身者）、学習した事象を休日などに訪れて、現地で考えを深めて欲しい。なお、1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：講義用レジュメと資料 参考文献：小林 収『信州佐久の変貌』樺出版 佐久大学図書館、佐久市・小諸市・軽井沢町・佐久穂町・長野県立図書館にあります。						

成績評価の方法・基準
レポート（60%） 授業参加状況（40%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
1. 社会的事象は情報を有機的に関連させて考えることによって理解が深まる。 2. より確かな資料によって考えること、出典のはっきりしない不確かなものは疑ってかかることが大切です。 3. 授業中に話を聞いたり、資料を見た時に疑問を持つこと。それを聞いたり、確かめようとする気持ちを持つこと。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域支援と地域活動	155	1後	選	2単位 30時間	講義	金2
担当教員（○印＝科目責任教員） ○宮内克代（MIYAUCHI, Katsuyo）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に教室で受け付ける。						
授業の概要 地域社会における保健・医療・福祉に関する地域特性の現状と課題について認識するとともに、地域支援活動の基本的意義と社会的役割についての理解を深める。実際のボランティア活動を通して体験的に学ぶことにより、地域社会に対する理解を深め、地域貢献活動への参画意識を高める。						
到達目標 自らの地域の強みと弱みを分析することにより、地域支援の方法が考察できるようになる。 地域支援としてのボランティアのあり方を学び実際に活動することにより、地域貢献を実感することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション			講義・演習	宮内	
2	ボランティア活動：活動の理念・法・関係機関					
3	ボランティア活動：地域での活動					
4	ボランティア活動：福祉教育、災害支援など					
5	地域の強みと弱み：自分の地域を分析する					
6	地域の強みと弱み：自分の地域を分析する					
7	地域の強みと弱み：発表					
8	地域の強みと弱み：発表					
9	地域の強みと弱み：発表					
10	地域で活躍する人：地域貢献をした先人を知る					
11	地域で活躍する人：地域貢献をした先人を知る					
12	地域で活躍する人：発表					
13	地域で活躍する人：発表					
14	地域で活躍する人：発表					
15	ボランティア体験					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 毎回授業時に授業内容に応じた予習復習について指示するので、1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。 少なくとも1回はボランティア活動に参加し、その内容やそこでの学び、気づきなどをレポートにまとめて提出する。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：別途指示する 参考文献：授業中に配布する
成績評価の方法・基準
レポート（50％） 授業参加状況（50％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
グループワークを通じてレポートや発表原稿を作成し、グループごとにグループごとに発表する。講師及び他の学生が講評する。詳細は授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
地域でのボランティア活動は、単に「参加する」だけでなく、授業中に指示された視点に基づいて分析・考察し、レポートにまとめて提出すること。レポートと授業中の発表で成績評価をする。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
基礎英語 I	(A) 201 (B) 202 (C) 203	1前	必	1単位 30時間	演習	(A) 月1 (B) 火2 (C) 火3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary and learning communication skills and valuable information for nursing.						
到達目標						
1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。 2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	- Class introduction. Unit 1 Risk for Injury - Unit 1 practice, activation, completion - Unit 2: Self Care Deficit - Unit 2 practice, activation, completion - Unit 3: Respiratory Disorders - Unit 3 practice, activation, completion - Review and Practice - Mid-Term Examination - Unit 4: Fluid Volume Deficit - Unit 4 practice, activation, completion - Unit 5: Insomnia - Unit 5 practice, activation, completion - Unit 6: Chronic Pain - Unit 6 practice, activation, completion - Review and Practice			演習	Mark	
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Work with the story builders to create better and fuller stories. Do preparation review for about 1 hour once for each session.						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：杉田由仁他『Nursing Case Studies』成美堂
成績評価の方法・基準
筆記試験（50%） 宿題（20%） 授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各学生の課題または試験解答用紙に直接コメントをし、その他については授業時に伝えます。 質問がある場合、またはもっと詳しく説明してほしい場合は、個々に対応する。
担当教員からのメッセージ
This class is designed to improve your understanding and production of English. You must practice, you must actively participate, and you will improve! This class will challenge your ideas about what it means to study English and what the goals of English study should be.

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
基礎英語Ⅱ	(A) 204 (B) 205 (C) 206	1後	必	1単位 30時間	演習	(A) 月1 (B) 火2 (C) 火3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary and learning communication skills and valuable information for nursing.						
到達目標						
1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。 2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	- Unit 7: Dietary Practice			演習	Mark	
2	- Unit 7 practice, activation, completion					
3	- Unit 8: Urinary Retention					
4	- Unit 8 practice, activation, completion					
5	- Unit 9: Constipation					
6	- Unit 9 practice, activation, completion					
7	- Review and Practice					
8	- Mid-Term Examination					
9	- Unit 11: Impaired Skin Integrity					
10	- Unit 11 practice, activation, completion					
11	- Unit 12: Visual Alterations					
12	- Unit 12 practice, activation, completion					
13	- Unit 14: Memory Impairment					
14	- Unit 14 practice, activation, completion					
15	- Review and Practice					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Work with the story builders to create better and fuller stories. Do preparation review for about 1 hour once for each session.						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：Text1 杉田由仁他『Nursing Case Studies』成美堂
成績評価の方法・基準
筆記試験（50%） 宿題（20%） 授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各学生の課題または試験解答用紙に直接コメントをし、その他については授業時に伝えます。 質問がある場合、またはもっと詳しく説明してほしい場合は、個々に対応する。
担当教員からのメッセージ
This class is designed to improve your understanding and production of English. You must practice, you must actively participate, and you will improve! This class will challenge your ideas about what it means to study English and what the goals of English study should be.

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
表現技法Ⅰ	(A) 221 (B) 222 (C) 223	1前	必	1単位 30時間	演習	(A) 火2 (B) 火3 (C) 月1
担当教員（○印＝科目責任教員） ○金子光代（KANEKO, Mitsuyo）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に教室で質問を受ける。また、随時対応する。 メールアドレス maryrose9241●yahoo.co.jp						
授業の概要 日本語の多様な表現技法の習得を目的とし、「話す・聞く・書く」ための基本的な技能をテキストやその他の事例から学んでいく。トレーニングシートの課題で「話す・聞く・書く」の表現技法を自ら考え、グループの中で実践しながら確認する。後期の表現技法Ⅱを深めていくための導入として、表現における基礎的な知識と技法を広く身につける。						
到達目標 1. 日本語の多様な表現技法に関する知識を養い、自ら「考え」適切に「話す・聞く・書く」ことができるようになる。 2. 日常生活や大学での他の授業、また将来の実習・看護の場面で、積極的に日本語の多様な表現技法を応用し、コミュニケーションの中で実践できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション 挨拶をする、自己紹介をする（ソーシャルスキル） ——場面に合ったふさわしい自己開示の表現を学ぶ。	演習	金子			
2	話すスキルと聴くスキル（ソーシャルスキル） ——言葉にする・伝え方・オープンクエッション・あいづちなどを学ぶ。					
3	正しい日本語を使う ——話し言葉の表現（若者言葉・ことわざ・慣用表現）を学ぶ。 書き言葉の表現（ら抜き言葉の現状、差別用語など）を学ぶ。					
4	敬語の機能を知る ——相手を尊重する気持ちを伝えるさまざまな表現を学ぶ。					
5	敬語を使う ——改まった話し方をする、正しい敬語表現で書くことを学ぶ。					
6	電話をする ——電話の役割と電話での伝え方を学ぶ。					
7	メールを書く ——メールの機能とメール特有の書き方の注意点を学ぶ。					
8	手紙を書く ——フォーマルな手紙・葉書の書き方の形式を学ぶ。					
9	レポートを書く（内容） ——レポートの種類と構成、参考文献の書き方を学ぶ。					
10	レポートを書く（表現） ——文体、表記、文法、わかりやすく書くことを学ぶ。					
11	説明する・発表する ——発表での伝え方、看護での相手に合わせた説明を学ぶ。					
12	メモをとる ——要点を押さえて書く、記録を見ながら話し伝えることを学ぶ。					
13	上手に断る（ソーシャルスキル） ——前置き言葉・別の表現を考えることを学ぶ。					
14	感情をコントロールするスキル（ソーシャルスキル） ——感情の把握とコントロールのし方や「私」を主語にした表現を学ぶ。					
15	うまく問題を解決するスキル（ソーシャルスキル） ——解決策を書き出す、「主張的」な解決策を選ぶことを学ぶ。					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 復習として、大学での授業や生活のさまざまな事象で、言語の面からの表現技法を意識してほしい。「話す・聞く・書く」で必要なときには、テキストを開いて見直したり付け足したり、さらに豊かな日本語の表現を追求してください。なお、1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：野呂幾久子・渡辺弥生・味木由佳 編著『看護系学生のための日本語表現トレーニング』三省堂 2013 参考文献：授業内で適宜紹介する。
成績評価の方法・基準 筆記試験（50％） 授業参加状況（ワーク・小テスト50％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 試験は、授業時に学んだテキスト・トレーニングシートの内容や話し合いで得られた解決策を中心に、基礎的な問題または応用問題として出題する。定期試験は返却しないが、試験前に内容を提示し、質問等に応じる。
担当教員からのメッセージ コミュニケーションは相手がいればこそ成り立つものでもあります。授業では、学生・看護を目指す人として大切なさまざまな表現技法を知り、周りの人達とともに考え練習してみましょう。授業の場は学び(真似る)、間違える場だとも言われます。そして生活のあらゆる場面で、適切な「話す・聞く・書く」の表現を使ってコミュニケーションできるように知識を深めていきましょう。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
表現技法Ⅱ	(A) 224 (B) 225 (C) 226	1後	必	1単位 30時間	演習	(A) 火2 (B) 火3 (C) 月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○金子光代（KANEKO, Mitsuyo）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受ける。また、随時対応する。 メールアドレス maryrose9241●yahoo.co.jp						
授業の概要						
前期の表現技法Ⅰでは多様な日本語の表現を場面に合わせて広く学習した。その中から後期の表現技法Ⅱでは特に、看護系学生として必要な「レポート・論文の書き方」について学んでいく。レポート・論文を書くための基本的な知識を、文章例を参考に実際のレポート・論文作成過程にしたがって解説する。またテキスト中のトレーニング問題を考え、実際に「書き・直す」ことによって実践能力を身につけていく。同時に、自分の意見を書くために必要となる、他者の論文や文献を正確に「読む」力を養う。						
到達目標						
1. 基本的なレポート・論文の書き方の概要を理解し、適切な表現技法で書くことができる。 2. レポート・論文の書き方の知識を基に、自分の意見を書く能力を培うことができる。 3. レポート・論文での情報探索が適切にできる。 4. レポート・論文を書くために必要な、他の論文や文献等の要約ができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	オリエンテーション				演習	金子
2	レポート・論文とは何か（ワーク1）、レポート・論文の種類（ワーク4）を学ぶ。 ブックレポートの書き方（文章例②）を学ぶ。読解力——文献を正しく読み取ること（ワーク6）を学ぶ。					
3	要約力——主張を正しくつかむ、的確にまとめること（ワーク7）を学ぶ。					
4	批判的思考力——他者の主張を批評すること（ワーク8）を学ぶ。					
5	課題発見力——自分の問題意識を持ち、下調べをし（ワーク10）、目的別のインターネット検索方法（ワーク13）を学ぶ。					
6	発想力——レポートに必要な考える方法（ワーク5）を学ぶ。問いと答えを膨らまし（ワーク11）、論点を絞ることを（ワーク12）を学ぶ。					
7	情報探索力——文献検索と入手の方法（ワーク14）と文献の取捨選択の方法（ワーク15）を学ぶ。					
8	情報整理力——入手した文献・メモと文献リストの整理保存（ワーク16）を学ぶ。					
9	論文構成力——序論を書く、論の展開の流れを考えること（ワーク18）を学ぶ。根拠をもとにアウトラインをつくること（ワーク19）を学ぶ。					
10	引用の種類と書き方（ワーク2）を学ぶ。事実と意見を区別し論理的な文章を書くこと（ワーク9）を学ぶ。					
11	さまざまな参考文献リストの形式を知り、書き方を学ぶ（ワーク3）。					
12	資料（グラフや図）や体験談の引用を適切に書くこと（トレーニング②・⑧）を学ぶ。					
13	表現力——わかりやすく伝える、一文を簡潔に書く（トレーニング③）・あいまい文・表記について学ぶ。					
14	文章構成力——箇条書き、章立て、下書き、文章の推敲、提出前の再確認（ワーク20）を学ぶ。					
15	課題考察力——考察を深める・自分なりの主張を導く、考えがまとまらない場合は修正・再調査すること（ワーク17）を学ぶ。					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 大学での他の授業のレポート・課題・提出物の学習に、表現技法で学んだことを積極的に活かして欲しいと思います。 「読む・書く・話す」とともに「考える」スキルを常に磨いてください。 なお、1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：桑田てるみ 編『学生のレポート・論文作成トレーニング』実教出版 2015 参考文献：木下是雄『理科系の作文技術』中央公論新社 1981 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社 2009 石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社 2011 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社 2012 その他、授業内で適宜紹介する。
成績評価の方法・基準 筆記試験（50％） 授業参加状況（ワーク・小テスト50％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 試験は、授業時に学んだテキスト・トレーニング問題の内容や話し合いで得られた解答例を中心に、基礎的な問題または応用問題として出題する。定期試験は返却しないが、試験前に内容を提示し、質問等に応じる。
担当教員からのメッセージ 大学の授業での課題レポートで、困ったりあれこれ悩んだりすることが最初はあるかもしれません。「レポート・論文の書き方」の基礎知識を学ぶことによって、課題に積極的に取り組み、考える姿勢を身につけてほしいと思います。そして、客観的な根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく伝える・書くという表現技法を、これからの大学の学びの中でさらに深めていってください。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
情報処理法	(A) 241 (B) 242	1前	必	1単位 30時間	演習	(A) 金2 (B) 金1
担当教員（○印＝科目責任教員） ○松本成司（MATSUMOTO, Seiji） 二神真理子（FUTAGAMI, Mariko） 小野美香子（ONO, Mikako） 柳澤佳代（YANAGISAWA, Kayo） 塩入とも子（SHIOIRI, Tomoko） 森本 彩（MORIMOTO, Aya）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
1. パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。 2. 情報収集・活用の基礎能力を身に付け、パソコンやインターネットとの関わり方、捉え方を学ぶ。						
到達目標						
パソコンやインターネットとの関わり方を学び、情報に対して客観的に考える力を養う。また、本学での大学生活に必要なとされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	学内ネットワークの使用方法和大学メールの使い方			講義・演習	松本 他	
2	情報のデジタル化とインターネット			演習		
3	ワープロソフトを使った電子文書作成 基礎編			講義・演習		
4	ワープロソフトを使った電子文書作成 基礎編の演習 1 課題作成(1)			演習		
5	ワープロソフトを使った電子文書作成 応用編			講義・演習		
6	ワープロソフトを使った電子文書作成 応用編の演習 2 課題作成(2)			演習		
7	表計算ソフトを使った統計処理 基礎編			講義・演習		
8	表計算ソフトを使った統計処理 基礎編の演習 1 課題作成(3)			演習		
9	表計算ソフトを使った統計処理 応用編			講義・演習		
10	表計算ソフトを使った統計処理 応用編の演習 2 課題作成(4)			演習		
11	パソコンを使ったプレゼンテーション 基礎編			講義・演習		
12	パソコンを使ったプレゼンテーション 基礎編の演習 1 課題作成(5)			演習		
13	パソコンを使ったプレゼンテーション 応用編			講義・演習		
14	パソコンを使ったプレゼンテーション 応用編の演習 2 課題作成(6)			演習		
15	情報セキュリティと情報倫理			講義		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習：テキストの次回授業に関連するところを熟読し、何が分らないか明らかにしておくこと。 復習：テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。 なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016 対応版』オーム社
成績評価の方法・基準
授業参加状況（40％） 課題作成（60％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
より良い文書を作成したり、より良いプレゼンをするためには、各ソフトのどのような機能を使うべきか、あるいは使わないべきかを常に考えながら作業しましょう。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
統計分析法	243	1後	必	1単位 30時間	演習	月4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊（PARK, Sang jun） 研究室 1号館3階1319 柳澤佳代（YANAGISAWA, Kayo） 森本 彩（MORIMOTO, Aya）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 授業日の授業終了後から放課後、授業日以外の日はメール（s-park●saku.ac.jp）で受け付ける。						
授業の概要						
我々の身近にある問題や医療・看護における問題の中には、それを科学的に解決するためにデータを集め、そのデータを人間の直感ではなく、数学的手法を用いて判断しなくてはならないことが多い。本科目ではこの手法である統計分析を学ぶにあたり、パソコンを適宜活用しながら身に付けていく。						
到達目標						
統計分析の基本概念を難解な数式を使わずに、Microsoft Excel2016を活用することで身に付けていく。また、各自でアンケート調査を行い、回答のデータ化、分析、判断の過程を経ることで、統計分析の意義・必要性を実感する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他			講義	朴 他	
2-3	統計解析の基礎：医療・看護における統計学の役割や活用方法などについて学ぶ 「疫学的研究デザインと統計」「データの種類」「代表値、散布度、分布など」			講義・演習		
4-5	統計量の算出と表現：各種データの基本的な解析方法について学ぶ 「書式や数式、関数」「度数分布表とヒストグラム」「クロス集計」			講義・演習		
6-7	統計的検定①：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅠ 「推測統計の基礎」「散布図/相関分析と回帰分析」「平均値の差の検定（t 検定）」			講義・演習		
8-9	統計的検定②：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅡ 「ピボットテーブルによるクロス集計表の作成」「クロス集計表、X2 検定」			講義・演習		
10-11	調査・研究の概要：アンケート調査の方法について学ぶ 「研究について（科学的とは/量的研究・質的研究）」「研究計画立案」 「調査票の作成例」「データの加工/分析/評価方法/その他」			講義・演習		
12-13	調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施 「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」 「発表資料の作成（パワーポイント使用）」			講義・演習		
14-15	調査結果発表会			講義・演習		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。 復習：当授業内容と前期「情報処理法」の該当分野を含め、復習しておくこと。 なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：このとおりやればすぐできるナースのためのデータ処理，技術評論社
成績評価の方法・基準
レポート（70%） 授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
成績評価の方法・基準の「レポート（70%）」とは、グループワークによる調査結果発表の発表資料を指します。 発表資料が成績評価の中心となりますので、積極的にグループワークに参加するようにしてください。

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
導入基礎演習	291	1前	必	2単位 60時間	演習	木3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉田文子（YOSHIDA, Fumiko）fy200●saku.ac.jp（研究室 5号館3階306） 小林 睦（KOBAYASHI, Mutsumi）m-kobayashi●saku.ac.jp（研究室 5号館2階207） 阿藤幸子（ATO, Sachiko）s-ato●saku.ac.jp（研究室 5号館2階209） 柳澤佳代（YONAGISAWA, Kayo）k-yanagisawa●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
木曜日17時～18時（予約順で行いますので、まずfy200●saku.ac.jpメールをください。その内容に合わせて、他の教員から連絡をします。）						
授業の概要						
高等学校から大学教育への円滑な接続を図ることを目的として、学修活動に必要な基本的な学修技術の習得を図るとともに、専門教育における学修目標を設定するための動機づけ学習を行う。具体的には、新聞講読などを通じて、保健・医療・福祉に関する社会的に重要な特定の主題や現代社会が直面する基本的な諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、専門教育への興味と関心を高める。						
到達目標						
本科目は、2つのPBLs（Project-based, Problem-based learning）をベースに学修スキル修得を目指します。 1. 各自が年間計画を立案でき、その“ふりかえり”ができる。 2. アカデミックポートフォリオを作成することができる。 3. 保健・医療・福祉への関心が持てる。 4. 意見や考えをもつことができる。 5. 意見や考えを他者に表現することができる。 6. 効果的なプレゼンテーションをすることができる。 7. VTR視聴、講義内容をノートテイキングできる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
教育目標7つのうちの、「Ⅱ群 学問を深め真理を探究していく態度・能力」を培うための初年次教育科目に該当する。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	科目の概要と進め方の説明、チーム編成、プロジェクトの立ち上げ			講義・演習	全教員	
2	看護学教育を履修する上で大切なこと、VTR視聴ノートテイキング、アカデミックポートフォリオの作成					
3 - 4	チームワーク（図書館ガイダンス1回含む）					
5	チームプロジェクトの進め方、プロジェクト課題の決定・課題解決の手段					
6/7	ビジュアルマインドマッピング					
8	プロジェクトテーマの決定、プレゼンテーション評価票配付と説明					
9	引用文献について					
10 - 15	プロジェクトワーク（チーム）					
16	アカデミックポートフォリオの作成（ふりかえりシートの記載）					
17	プロジェクトの中間報告会					
18	プロジェクト発表方法等の説明					
19 - 24	チームワーク （20回はpre-presentation weekとしてプレゼンテーションについて学びます）					
25 - 28	チームワーク・発表準備（発表順の決定、プロジェクト課題名一覧表の作成）					
29 - 30	プロジェクトプレゼンテーションと評価（学内外への授業公開） アカデミックポートフォリオの作成（ふりかえりシートの記載）					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
本科目は、講義演習科目であり、1単位30時間として計算すると、総自己学修時間は22.5時間となります。 ★ポートフォリオ作成は個人で計画的に進めてください。 全ての授業終了後に作成でなく、毎回授業で使用したシート類に記述、追加していきます。自己学修 約10時間要 ★プロジェクトテーマに沿った学修時間を各自確保し、チーム学習を進めてください。 チーム活動を円滑に行うための文献検索、発表準備に時間を要します。約12.5時間 なお、効果的な学修の進め方は、授業内で説明します。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト： アメリカ心理学会（2010）/前田樹海，江藤裕之，田中建彦（2011）．APA論文作成マニュアル．医学書院． 世界思想社編集部（2015）．大学生 学びのハンドブック[3訂版]．世界思想社．
成績評価の方法・基準
科目終了時には、以下基準についての点数を個別返却します。 ■授業進度に応じた課題提出状況（30％） 各項目の配点は、初回授業でお知らせします。 ■アカデミックポートフォリオ作成（40％） 科目独自のルーブリックを提示しますので、受講生全員の合意のもと最終決定とし、使用していきます。 ■チームプロジェクトの発表（30％） 科目独自の評価票を使用し、相互評価を行います。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
提出されたアカデミックポートフォリオ返却時に、成績一覧を添えて個別返却します。
担当教員からのメッセージ
授業初回時に、必ず、次の2つを持参してください。 ① A4サイズのDリング2穴ファイル（厚さ3～4cm程度、色は各自の好みで構いません。） ② A4サイズのルーズリーフ用紙（毎回の授業で使用します。B5サイズは使用不可。）

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
実践英語Ⅰ	211	2前	自	1単位 30時間	演習	月2
担当教員（○印＝科目責任教員） ○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要 The class will be filled with speaking and speaking activities. You will learn different strategies to build and continue conversations, to express yourself better, and to communicate even when you need help or don’ t understand. The goal of the course is to review English you have studied and use that to build conversation skills. We will use many pair and group activities, story building exercises, short worksheets and fun activities to practice and solidify understanding.						
到達目標 1. 英語を話すことに自信を持つことができる。 2. 自分の意見を英語で表現できるようになる。 3. 英語での会話に積極的になる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	Responding and Pronunciation			演習	Mark	
2	Follow-up questions					
3	Keeping or killing the conversation					
4	Getting a response					
5	Describing and Item					
6	Responding with Details					
7	Soliciting details					
8	Story Building					
9	Story Building					
10	Clarification with questions					
11	Reported Speech					
12	Making a group decision					
13	Discussion connectors					
14	Short discussion exercise					
15	Talking about movies and music					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 毎回の授業で習った会話対策を模擬会話のできるまで練習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
no text class materials will be provided with each lesson
成績評価の方法・基準
attendance and class participation(30%) short discussion exercise(30%) final exam(40%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
I will work hard to make this class fun and effective. I' m looking forward to speaking English with you, seeing you improve, and helping you grow over the course.

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
実践英語Ⅱ	212	2後	自	1単位 30時間	演習	月3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
We will apply the conversation strategies from the first semester to different medical situations. You will learn some useful medical vocabulary and practice them in role-play scenarios and fun speaking activities. The goal is to be able to communicate to your patients important medical information, but also be able to talk to your patients casually and naturally as well.						
到達目標						
1. 看護の場において英語で話すことに自信を持つこと。 2. 医療行為を英語で行えるようになること。 3. 健康状態や治療などについて英語で説明できるようになること。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	Hospital introduction ; In a patient' s room	演習	Mark			
2	Talking about hospital departments					
3	Health problems					
4	Getting a patient' s information					
5	Taking a patient' s temperature, pulse, and blood pressure					
6	Taking a patient' s temperature, pulse, and blood pressure					
7	Taking a patient' s blood sample					
8	Taking a patient' s blood sample					
9	Giving a patient a shot					
10	Giving a patient a shot					
11	Medications					
12	Giving a patient medication					
13	Giving a patient medication					
14	Presenting a patient					
15	Presenting a patient					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
毎回の授業で習った単語を復習して、医療場面の会話がができるまで練習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
no text class materials will be provided with each lesson
成績評価の方法・基準
attendance and class participation(30%) speaking activity(30%) final exam(40%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
情報管理法	251	2前	自	1単位 30時間	演習	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊（PARK, Sang jun） 研究室 1号館3階1319						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 授業日以外の日は、メール（s-park●saku.ac.jp）で受け付ける。						
授業の概要						
我々の周囲には多量の情報が溢れている。この多量の情報は正しく扱えば大変有用であるが、一歩間違えれば本人はおろか周囲や社会に多大な損害を与える危険もある。本科目では多量の情報を管理するための手法を学ぶにあたり、データやデータベースの概念を解説し、データの可視化を含め、パソコンを適宜活用しながら身に付けていく。						
到達目標						
1. 情報やデータに関する知識を学び、適切な管理方法を習得する。 2. 統計について学び、適切なデータのまとめ方ができるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション、データの管理について			講義	朴	
2	SPSS（統計ソフト）の使い方、代表値（平均・分散・中央値・パーセントタイル）			講義・演習		
3	検定の意味、代表値の推定（信頼区間）			演習		
4	2群間の比較（対応のないt検定）			演習		
5	2群間の比較（対応のあるt検定）			演習		
6	2群間の比較（順位和検定）			演習		
7	2群の関連分析（カイ2乗検定）			演習		
8	2群の関連分析（リスク比・オッズ比）			演習		
9	2群間の関連分析（散布図・相関分析）			演習		
10	2群の関連の推定（回帰分析）			演習		
11	3群間以上の比較（分散分析）			演習		
12	3群以上の関連分析（偏相関分析）			演習		
13	多変量解析（重回帰分析・ロジスティック分析）			演習		
14	多変量解析（主成分分析、因子分析＋クラスター分析）			演習		
15	まとめ			講義・演習		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業した内容については、よく復習をしておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：指定しない。 参考文献：講義の中で提示する。
成績評価の方法・基準
授業参加状況（30％） 課題（70％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ

2018

授業科目別シラバス

－ 専門教育科目 －
(講義・演習)

佐久大学看護学部

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
形態機能学Ⅰ（細胞・組織学）	301	1前	必	2単位 60時間	講義	月3, 月4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小山智史（KOYAMA, Tomonori）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎週木曜日1時限 研究室 1号館3階1320 それ以外をご希望の方は、t-koyama●saku.ac.jpまでメールをください。						
授業の概要						
人間の体がどのような構造で成り立っているかを骨格、筋肉、神経系等を基盤にして理解し、それぞれの構造が、相互にどのように連携して機能しているかを学習する。人間の日常生活の活動がこうした構造の連携と協働によって作動している仕組み、機能状況を学習する。						
到達目標						
1.細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について理解する 2.細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について図示できる 3.細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について自分の言葉で説明できる 4.自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について理解する 5.自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について図示できる 6.自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について自分の言葉で説明できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目であり、他の「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」の科目、「看護実践能力の基盤」の科目、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」等の科目にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1- 2	人体のオリエンテーション（テキストp1～61）	講義	小山			
3- 4	細胞と組織について学ぶ（テキストp63～110）	講義	小山			
5- 6	皮膚と膜について学ぶ（テキストp111～132）	講義	小山			
7- 8	骨の概観、体幹の骨格について学ぶ（テキストp133～154）	講義	小山			
9-10	体肢の骨格、関節について学ぶ（テキストp154～176）	講義	小山			
11-12	骨格模型作成①（グループワーク）	演習	小山			
13-14	骨格模型作成②（グループワーク）	演習	小山			
15-16	筋の概観、構造、肉眼的解剖学について学ぶ（テキストp177～181, p191～210）	講義	小山			
17-18	筋の運動、活動性について学ぶ（テキストp181～191, p211～216）	講義	小山			
19-20	神経系のしくみ、構造と機能について学ぶ（テキストp217～232）	講義	小山			
21-24	中枢神経(脳)の構造と機能について学ぶ（テキストp232～243）	講義	小山			
25-26	中枢神経(脊髄)、末梢神経について学ぶ（テキストp243～266）	講義	小山			
27-28	特殊感覚の構造について学ぶ（テキストp283～285）	講義	小山			
29-30	特殊感覚の機能について学ぶ（テキストp267～282, p285～294, 触覚含む）	講義	小山			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習（最低 30 分は必要です） テキストの次回授業に関連する部分を熟読、器官そのもの、器官と器官のつながりを図示してみましょう。また、何が分からないかを明らかにし、講義を集中して聴けるよう準備しましょう。						

復習（最低 30 分は必要です）

テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、講義で学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。また、予習で描いた図に、講義でわかったこと、足りないところを描き足し、間違っていたところを修正しましょう。

図示に関して

テキストのような、きれいな図を描く必要はありません。自分が分るように描いてみてください。また、その図が体のどちら側から見たものなのかを意識して描くと、より理解が進みます。

解剖模型の貸借

授業中、解剖模型を使用しながら講義をします。テキストや参考文献の絵と見比べながら学修すると、より理解が深まります。積極的に触って立体構造を理解しましょう。自己学修に必要な場合は、講義時間外でも貸し出します。学内ならどこで使用しても構いません。使用後は速やかに返却してください。破損には十分注意してください。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：エレイン・N. マリーブ著、人体の構造と機能 第4版, 医学書院

参考文献：トートラ人体の構造と機能 第4版, 丸善出版

坂井建雄 監訳, プロメテウス解剖学コア アトラス, 第1版, 医学書院（図書館にあります）

塩田浩平 訳, グレイ解剖学, 原著第2版, ELSEVIER JAPAN（図書館にあります）

岡田泰伸 監訳, ギャノン生理学, 原書23版, 丸善出版（原著22版が図書館にあります）

岡田忠 監訳, コスタンゾ明解生理学, 第1版(原著第3版), ELSEVIER JAPAN（図書館にあります）

成績評価の方法・基準**授業参加状況（5%）**

遅刻は講義開始後20分までとします。20分を超えた遅刻は欠席とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。

出席確認はmanaba®のrespon®を使用し確認します。

講義では学習状況を確認するため、質問をします。質問に答えられるよう準備しましょう。

質問に答えられない学生がいた場合、近くに着座している学生は、答えられるようにサポートしましょう。

小テスト（20%）

抜き打ちで4回実施します（50点満点/回、4回の合計点に0.1を掛けた点数を最終評価とします）。

骨格模型作成（グループワーク, 10%）

1グループ3名程度で、骨格模型を作成。骨格模型は他の授業がない空き時間、放課後も利用して作ること。

評価基準は「指定期間内に作成」「指定内容が骨格模型に記載されている」の2点。出来栄は評価対象としません。

定期試験（65%）

前期で学んだ内容全部を範囲とした筆記試験を実施します（200点満点、0.325を掛けた点数を最終評価とします）。

最終評価

授業参加状況 + 小テスト + 骨格模型作成 + 定期試験 の合計点で評価されます（100点満点に換算します）。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストはテスト終了後に模範解答を示します。採点後の答案は翌週以降の講義で返却します。質問がある場合、オフィスアワー等を利用して、研究室まで質問に来てください（講義の間の休み時間でも結構です）。

骨格模型は完成後、渡り廊下に全グループの作品を展示します。また、一部の骨格模型はオープンキャンパスや学園祭で展示されることがあります。

定期試験は成績判定終了後、希望があれば研究室にて答案を開示します。その際、コピーや写真等を撮ることは認めません。メモについては制限しません。質問があれば、その場で対応します。

担当教員からのメッセージ

この科目は、単位を取得するために、ただ暗記するだけでは何の意味もありません。前述しましたが、今後学んでいく多くの科目を理解し看護に活用するため、基礎知識として必要です。また在学中だけでなく、看護師として病院などの臨床現場で働くようになって、看護や医療が進歩していく中、何度も学び直すのがこの科目の特徴です。

人の命を看護する看護師が、人体の構造と機能を知らないのは、自動車を運転するのにアクセルとブレーキを知らないようなものです。まずは看護学生として「人体がどのような構造からなり、どのように機能しているのか」を形態機能学で学修し、看護を考える基礎を身に付ける必要があります。何度も振り返り、自分なりに人体の構造と機能を図示できるようになる、自分の言葉で人体の構造と機能を説明できるようになることが必要です。

以下の点に注意すること

- ・この講義を録音したい場合、小山智史に許可を得ること。許可なく録音しないでください（録画は認めません）。
- ・この講義に関することをインターネット上（SNS等）に公開しないこと。
- ・講義中に質問があるときは、挙手して質問するか、休み時間に小山智史のところまで来てください。

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
形態機能学Ⅱ（器官系）	302	1後	必	2単位 60時間	講義	木3, 木4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小山智史（KOYAMA, Tomonori）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎週木曜日1時限 研究室 1号館3階1320 それ以外をご希望の方は、t-koyama●saku.ac.jpまでメールをください。						
授業の概要						
身体各臓器、器官の構造と機能を学習すると共に、各器官の相互連携、協働作用を統合して学ぶ。また、人体の構造や機能の作動状態と人間の健康障害との関連を学習し、健康障害時に見られる徴候や症状と身体構造や機能の障害との関連を理解するための基礎的知識を習得する。						
到達目標						
1. 呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について理解する 2. 呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について図示できる 3. 呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について自分の言葉で説明できる 4. 健康障害時に見られる徴候や症状と身体構造や機能障害との関連を理解するための基礎的知識を習得する 5. 形態機能学Ⅰで学んだ知識との関連を図示し、自分の言葉で説明ができる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目であり、他の「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」の科目、「看護実践能力の基盤」の科目、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」等の科目にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1- 2	心臓血管系の構造について学ぶ(テキスト p343～350)			講義	小山	
3- 4	心臓血管系の機能について学ぶ(テキスト p350～353, p364～369)			講義	小山	
5- 6	心臓血管系と血液について学ぶ(テキスト p323～339, p353～380)			講義	小山	
7- 8	リンパ系と生体防御機構について学ぶ(テキスト p381～416)			講義	小山	
9-10	呼吸器系の構造について学ぶ(テキスト p417～426)			講義	小山	
11-12	呼吸器系の機能について学ぶ(テキスト p426～435)			講義	小山	
13-14	消化器系の構造について学ぶ(テキスト p447～450, p458～459)			講義	小山	
15-16	消化器系の機能①について学ぶ(テキスト p450～458, p459～460)			講義	小山	
17-18	消化器系の機能②について学ぶ(テキスト p460～469)			講義	小山	
19-20	消化器系の機能③について学ぶ(テキスト p469～492)			講義	小山	
21-22	泌尿器系の構造について学ぶ(テキスト p493～497, p502～504)			講義	小山	
23-24	泌尿器系の機能について学ぶ(テキスト p497～502, p504～516)			講義	小山	
25-26	内分泌系の構造について学ぶ(テキスト p295～306)			講義	小山	
27-28	内分泌系の機能について学ぶ(テキスト p306～321)			講義	小山	
29-30	生殖器系の構造・機能について学ぶ(テキスト p517～552)			講義	小山	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習（最低30分は必要です） テキストの次回授業に関連する部分を熟読、器官そのもの、器官と器官のつながりを図示してみましょう。また、何が分からないかを明らかにし、講義を集中して聴けるよう準備しましょう。						

復習（最低30分は必要です）

テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、講義で学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。また、予習で描いた図に、講義でわかったこと、足りないところを描き足し、間違っていたところを修正しましょう。

図示に関して

テキストのような、きれいな図を描く必要はありません。自分が分るように描いてみてください。また、その図が体のどちら側から見たものなのかを意識して描くと、より理解が進みます。

解剖模型の貸借

授業中、解剖模型を使用しながら講義をします。テキストや参考文献の絵と見比べながら学修すると、より理解が深まります。積極的に触って立体構造を理解しましょう。自己学修に必要な場合は、講義時間外でも貸し出します。学内ならどこで使用しても構いません。使用後は速やかに返却してください。破損には十分注意してください

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：エレイン・N. マリーブ著、人体の構造と機能 第4版, 医学書院

参考文献：トートラ人体の構造と機能 第4版, 丸善出版

坂井建雄 監訳, プロメテウス解剖学コア アトラス, 第1版, 医学書院（図書館にあります）

塩田浩平 訳, グレイ解剖学, 原著第2版, ELSEVIER JAPAN（図書館にあります）

岡田泰伸 監訳, ギャノン生理学, 原書23版, 丸善出版（原著22版が図書館にあります）

岡田忠 監訳, コスタンゾ明解生理学, 第1版(原著第3版), ELSEVIER JAPAN（図書館にあります）

成績評価の方法・基準

授業参加状況（5%）

遅刻は講義開始後20分までとします。20分を超えた遅刻は欠席とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。

出席確認はmanaba®のrespon®を使用し確認します。

講義では学習状況を確認するため、質問をします。質問に答えられるよう準備しましょう。

質問に答えられない学生がいた場合、近くに着座している学生は、答えられるようにサポートしましょう。

小テスト（30%）

抜き打ちで4回実施します(50点満点/回、4回の合計点に0.15を掛けた点数を最終評価とします)。

定期試験（65%）

前期で学んだ内容全部を範囲とした筆記試験を実施します(200点満点、0.325を掛けた点数を最終評価とします)。

最終評価

授業参加状況 + 小テスト + 定期試験 の合計点で評価されます(100点満点に換算します)。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テストはテスト終了後に模範解答を示します。採点後の答えは翌週以降の講義で返却します。質問がある場合、オフィスアワー等を利用して、研究室まで質問に来てください(講義の間の休み時間でも結構です)。

定期試験は成績判定終了後、希望があれば研究室にて答案を開示します。その際、コピーや写真等を撮ることは認めません。メモについては制限しません。質問があれば、その場で対応します。

担当教員からのメッセージ

この科目は、単位を取得するために、ただ暗記するだけでは何の意味もありません。前述しましたが、今後学んでいく多くの科目を理解し看護に活用するため、基礎知識として必要です。また在学中だけでなく、看護師として病院などの臨床現場で働くようになって、看護や医療が進歩していく中、何度も学び直すのがこの科目の特徴です。

人の命を看護する看護師が、人体の構造と機能を知らないのは、自動車を運転するのにアクセルとブレーキを知らないようなものです。まずは看護学生として「人体がどのような構造からなり、どのように機能しているのか」を形態機能学で学修し、看護を考える基礎を身に付ける必要があります。何度も振り返り、自分なりに人体の構造と機能を図示できるようになる、自分の言葉で人体の構造と機能を説明できるようになることが必要です。

以下の点に注意すること

- ・この講義を録音したい場合、小山智史に許可を得ること。許可なく録音しないでください(録画は認めません)。
- ・この講義に関することをインターネット上(SNS等)に公開しないこと。
- ・講義中に質問があるときは、挙手して質問するか、休み時間に小山智史のところまで来てください。

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
感染・免疫学	303	1後	必	2単位 30時間	講義	火4

担当教員（○印＝科目責任教員）
○今福裕司（IMAFUKU, Yuji）

オフィスアワー／連絡先と連絡方法
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

授業の概要
人体における感染の原理、微生物に対する生体の免疫・防御システム、感染性微生物の種類・特徴と感染性疾患発症のメカニズムについて、感染拡大の原理や防御方法、院内感染対策、さらに近年の国際的感染症とその管理・予防についての知識を学ぶ。

到達目標
感染症の原因となる病原体の構造、機能、発育環境、伝搬経路を理解したうえで、臨床上重要な感染症の病態と治療、予防策を学ぶことにより、自信を持って自分を守りながら感染症患者に寄り添うケアができるようになる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。

授業計画			
回数	授業内容	授業方法	担当教員
1	微生物と微生物学	講義	今福
2	細菌の性質		
3	真菌・原虫・ウイルスの性質		
4	微生物感染の成立メカニズム		
5	感染に対する免疫・防御機構		
6	感染源・感染経路と感染症の予防		
7	感染症の診断と治療・感染症治療の現状と対策		
8	細菌感染症		
9	細菌感染症		
10	細菌感染症・真菌・原虫感染症		
11	ウイルス感染症		
12	ウイルス感染症		
13	ウイルスとプリオン病		
14	院内感染対策と職業感染対策		
15	主な国際感染症とその対策		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 毎回授業時に授業内容に応じた予習復習について指示します。
 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『系統看護学講座 微生物学』医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験（90％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
生命倫理	304	1前	必	2単位 30時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員） ○盛岡正博（MORIOKA, Masahiro）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に教室で質問を受け付ける。 執務室（5号館1階理事室）の扉が開いている際は、随時相談を受け付ける。						
授業の概要 生命の尊厳と人間尊重の精神を理解する。生命に関する倫理原則を具体的な例を検討しながら、ともに学ぶ。文化や社会環境による多様な価値観の違いや考え方の相違を受け止めながら、医療に携わる専門職としての行動基盤を築く機会とする。						
到達目標 1. 思索すること、悩むことの大切さを修得する。 2. 他者の表現することの理解に努め、共感し寄り添うことの意味を知る。 3. 専門職として学ぶ自覚と他者との関係性の大切さを理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	はじめに～生命倫理の歴史的背景			講義	盛岡	
2	生命誕生と医学の介入～生殖活動を補助すること			〃	〃	
3	生命をめぐる倫理（1）			〃	〃	
4	生命をめぐる倫理（2）			〃	〃	
5	クローン技術と生命倫理の課題			〃	〃	
6	母体保護法における倫理～望まない妊娠と胎児			〃	〃	
7	死の定義と臓器移植			〃	〃	
8	訪問診療の現場から（特別講義）			〃	特別講師	
9	患者の権利とインフォームド・コンセント			〃	盛岡	
10	生と死のケア～緩和ケアとターミナルケア			〃	〃	
11	安楽死をめぐる問題			〃	〃	
12	寿命と不治の病を考える			〃	〃	
13	がんを生きるということ			〃	〃	
14	認知症における生命倫理を考える			〃	〃	
15	地球環境と生命倫理			〃	〃	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習すること。 1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：塩野寛・清水恵子『生命倫理への招待』南山堂 参考文献：授業内で適宜紹介します。
成績評価の方法・基準
1. 授業参加状況 60％ ①出欠席を成績評価に反映させます。 ②毎時間出席カード（リアクションペーパー）の提出を求めます。 2. レポート課題 40％ 授業内で最終課題を課します。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・リアクションペーパーに対して、個別又は全体に講師はコミュニケーションを図ることに努める。 ・レポートに対して、できる限りコメントを付けて返却する。
担当教員からのメッセージ
覚えるための学習ではありません。人間として「考え」「理解し」「感じ」「共感し」「支援する」など、これから看護の専門職としての基本を共に学び合いたいと思います。

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
病態生理学	321	1後	必	2単位 30時間	講義	月3

担当教員（○印＝科目責任教員）
○小山正道（KOYAMA, Masamichi）

オフィスアワー／連絡先と連絡方法
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

授業の概要
種々の疾病の原因と発生の機序、それに対する生体の反応、疾病の経過・転帰などについて、全身の各臓器の組織、細胞の一般的な形態学的変化を学び、疾病に対する理解を深める。

到達目標
疾病における形態と機能及び代謝の変化を理解し、病気や症状の機序について理解する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。

授業計画			
回数	授業内容	授業方法	担当教員
1	病理学とは、病理検査とは 細胞障害 物理・科学的障害 老化と代謝異常 先天異常 循環障害 炎症 免疫異常とアレルギー 感染症 腫瘍 まとめ	講義	小山
2			
3・4			
5			
6			
7・8			
9			
10			
11・12			
13・14			
15			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。
1回の授業について1時間程度復習を行うこと。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：クイックマスター『病理学』サイオ出版

成績評価の方法・基準
筆記試験（90％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
他の科目の内容を踏まえながら疾病という概念を理解しましょう。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
食と健康	326	1後	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	金1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮本由香（MIYAMOTO, Yuka）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、受講票を持って質問を受け付け、これに返答する。						
授業の概要						
人体に必要な栄養素と代謝経路について理解した上で、健康の保持増進、疾病の治癒・回復に必要な栄養や食物の働きについて理解する。食事療法やその原理について理解し、疾病を予防し、健康な食習慣の形成に役立つ知識を習得する。近年の栄養問題を明らかにし、解決方法を理解する。						
到達目標						
1. 人体に必要な栄養素とその体内での代謝経路について説明できる。 2. 健康の保持増進、疾病の治癒・回復に必要な栄養素の作用機序について理解し、その給源の食物が分かる。 3. 近年の栄養にまつわる問題を理解し、その解決方法について説明でき、健康な食習慣の形成について説明できる。 自らの健康的な食生活が実践できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。 食を通じ、人、地域、社会が心身ともに健康で自分らしく生きる力を養う科目である。						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	栄養とは（人間栄養学と看護）				講義 講義ならび に演習	宮本
2	健康づくりと食品・食事・食生活					
3	栄養素の種類と働き①：三大栄養素					
4	栄養素の種類と働き②：無機質、ビタミン					
5	日本人の食事摂取基準とエネルギー代謝					
6	栄養ケアマネジメントと栄養状態の評価・判定					
7	栄養素の消化・吸収（臨床栄養も含む）					
8	栄養素の体内代謝（臨床栄養も含む）					
9	ライフステージと栄養①：乳幼児～成人					
10	ライフステージと栄養②：更年期、高齢期					
11	臨床栄養①：消化器疾患を中心に					
12	臨床栄養②：循環器疾患を中心に					
13	臨床栄養③：生活習慣病					
14	現代の食生活の課題、生活習慣病の予防と食事					
15	健康的な食生活の実践にむけて					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
テキスト該当箇所を必ず読んでおくこと。 おおよそ单元ごとに授業内容について小テストを実施するので、よく復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：小野章史他『系統看護学講座 栄養学』医学書院 参考文献：授業内にて適宜紹介する
成績評価の方法・基準
筆記試験（70％） 授業参加状況（10％） 小テスト（10％） レポート課題（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
個々に評価し返却する。また、必要な内容は授業時に扱い共有する。
担当教員からのメッセージ
授業で習得した知識に基づき、健全な食生活や健康管理を実践してください。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
保健衛生学	341	1後	必	2単位 30時間	講義	火1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○白井祐二（SHIRAI, Yuji） 細谷たき子（HOSOYA, Takiko） 依田明子（YODA, Akiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 細谷：火曜日12:30～13:00と放課後（t-hosoya●saku.ac.jp）						
授業の概要						
集団、つまり社会全体の健康についての意味を理解する。私たちの生活の中で健康に影響を及ぼす物事について学習し、健康を保持・増進するための知識を整理して身につける。そして、私たちの生命の安全と健康を守るための国の対策や制度の基礎となる考え方、社会の仕組みを理解する。将来、医療関係者として、地域の健康リーダーの立場から、社会の様々な健康問題について関心をもって考えられるようになる。						
到達目標						
1. 健康と生活、それを取り巻く環境について理解できるようにする。 2. 公衆衛生に関連した制度、施策、その基盤になる考え方が理解できる。 3. 現在、社会で注目されている健康問題について考えられるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	第1章 公衆衛生のエッセンス			講義	白井 他	
2	第2章 公衆衛生の活動対象、第3章 公衆衛生のしくみ			講義		
3	第4章 環境と対象			講義		
4	小テスト テスト解説 国民衛生の動向を読む			演習		
5	第5章 国際保健、第6章 集団の生活をとらえるための手法―疫学			講義		
6	第7章 地域保健（母子保健）			講義		
7	第7章 地域保健（成人保健、高齢者保健）			講義		
8	小テスト テスト解説 国民衛生の動向を読む			演習		
9	第7章 地域保健（精神保健、歯科保健、難病支援・障害者支援）			講義		
10	第7章 地域保健（感染症対策）			講義		
11	第8章 学校と健康			講義		
12	小テスト テスト解説 国民衛生の動向を読む			演習		
13	第9章 職場と健康、第10章 健康危機管理・災害保健			講義		
14	演習 人口統計 国民衛生の動向より			演習		
15	演習 高齢者の健康			演習		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
毎回授業時に授業内容に応じた予習復習について指示します。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生』医学書院 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会
成績評価の方法・基準
筆記試験（60％） 授業参加状況（10％） 小テスト（30％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
社会で起きている健康問題に関心を持ってください。ニュースや広報などを意識するとよく理解できて面白くなります。耳なれない言葉が出てきますが、中身は私たちの日常生活そのものです。日常のことを少々専門的に整理しなおす科目と思ってください。健康な生活と医療をつなぐ基礎になります。小テスト（3回）で要点を習得しましょう。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
看護基礎理論	401	1 前	必	2 単位 30 時間	講義	木 2
担当教員名（○印＝責任教員）						
○ 八尋 道子 YAHIRO, Michiko m-yahiro●saku.ac.jp (研究室 5 号館 2 階 205) 吉川 三枝子 YOSHIKAWA, Mieko m-yoshikawa●saku.ac.jp (研究室 5 号館 2 階 202) 吉田 文子 YOSHIDA, Fumiko fy200●saku.ac.jp (研究室 5 号館 3 階 306) 鶴岡 章子 TSURUOKA, Shoko s-tsuruoka●saku.ac.jp (研究室 5 号館 3 階 305)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後～13時まで（直接各教員への訪問可） ○八尋 道子 毎週火曜日 16:30～18:00 質問は、メールやmanaba でもお待ちしております（常時）。オフィスアワー以外の面談予約もメールで可能です。						
授業の概要						
この授業では、看護の科学を支える理論的基盤として、人間、環境、健康、看護の捉え方・考え方を学ぶ。また、健康と保健行動、環境や文化と健康との関わり、専門職としての看護と多職種協働、国際的看護活動などの理解を通じて、看護が果たすべき役割について広い視野の基で考えることができるようになる。さらには、日本における看護の歴史を学び、将来の看護活動の展望につなげる。看護実践に関わる倫理的課題に自ら取り組み、いろいろの視点や考え方を検討し、問題解決型（Problem-based Learning：PBL）の学習態度を養う。						
到達目標						
修了時に、以下の4つの学習成果を得ることを目標とします。 1. 看護の科学を支える理論的基盤として、「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の捉え方・考え方を学び、看護への学問的な関心を持つことができる。 2. 健康と保健行動、環境や文化と健康との関わり、専門職としての看護と多職種協働、国際的看護活動などの理解を通じて、看護が果たすべき役割について広い視野のもとで考えることができる。 3. 日本における看護の歴史と看護学の発展の経緯を学び、将来の看護活動や看護キャリアの展望につなげて説明することができる。 4. 看護実践に関わる倫理的課題に自ら取り組み、いろいろの視点や考え方を継続的に検討することによって、問題解決型（PBL）の学習態度を身につけることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「看護実践能力の基盤」となる力を身につける授業科目です。さらに、「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	看護のさまざまな定義 / 授業科目のオリエンテーション イントロダクション、環境、健康、看護、フローレンス・ナイチンゲール	講義	八尋			
2	看護の対象 人間の捉え方、ニード、発達段階、健康の段階、ヴァージニア・ヘンダーソン	講義	八尋			
3	患者-看護師関係 看護とコミュニケーション、人間関係論、ヒルデガード・ペプロウ、ジョイス・トラベルビー	講義	八尋			
4	専門職としての看護 プロフェッショナル、キャリア、組織における看護職の役割	講義	八尋			
5	看護教育の歴史	講義	吉田			
6	看護の動向と倫理的課題 看護倫理、人権と尊厳を守るケア、看護師の倫理綱領	講義 演習	八尋			

7・8*	療養環境と健康の理解【演習】* ※課題をもって地域基幹病院を訪問します。	【演習】	全員
9	チームと協働 チーム医療、専門看護師、インタープロフェッショナル・ワーク ※専門看護師（CNS）を特別講師としてお招きし、お話を伺います。	講義	特別講師
10	看護における法的責任	講義	吉川
11	健康の文化社会的側面と異文化理解 健康が環境や文化の様々な要因と深く関連していることを学びます。	講義	鶴岡
12	国際社会の現状と国際看護活動 先進国と開発途上国における健康格差、国際保健・国際看護における看護職の働きなどを学びます。	講義	鶴岡
13	日本の看護教育	講義	吉田
14	人間の持つ力 セルフケア不足理論、ドロセア・オレム	講義	八尋
15	ウェルネス 健康と保健行動論 / 授業科目のサマリー	講義	八尋
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習を重視します。指定された事前学習をすませて授業に臨んでください。テキストを読み、毎回30分程度の予習をしましょう。 第7・8回の【演習】は、地域の病院を見学します。 おもなねらいは、(1) 実際に看護活動の場を訪問することで、授業で得た知識の理解を深めるとともに、さらなる看護への学問的な関心を持つことができる、(2) 五感を使って何を感じたか自らの疑問を授業に持ち帰ることができるの2つです。対象となる病院についてホームページで事前に調べてみましょう。 訪問後のレポート課題のために90分程度の時間が必要です。学外演習方法の詳細は、授業内で説明します。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考 URL 等			
テキスト ① 竹尾恵子監修（2007）. 超入門:事例でまなぶ看護理論. 学習メディカル秀潤社. ② 厚生労働統計協会編集（2016）. 厚生指針増刊・国民衛生の動向. 厚生労働統計協会. その他、授業のたびに次の予習ができるよう授業資料を事前に配付します。 自己学習に役に立つURLや推薦図書を、第1回授業のオリエンテーションで紹介します。			
成績評価の方法・基準			
総合成績で上位のグレードが得られるように、下記の基準を参考にしてください。 1. 授業参加状況 （10%） ① 欠席が成績評価に反映されます。授業の欠席は－5%（20分以上の遅刻・早退は欠席扱い）遅刻・早退は－2% ② 授業参加状況・貢献度を知るため、質問や意見交換の機会を設け、評価に反映します。 2. レポート （20%） 【演習】に関連してレポートを課します。 演習を欠席した場合、レポート点から－10%、遅刻・早退はレポート点から－2% 3. 筆記試験 （70%） 前期定期試験期間に実施します。			
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法			
メールや manaba で問い合わせると、次の授業までにフィードバックを受けることができます。ただし、疑問や質問は履修生全員で共有すると有効ですので、なるべくその日の授業のなかで解決してもらえたらと思います。 定期試験（筆記試験）と演習のレポートは返却しませんが、結果は個別に問い合わせが可能です。			
担当教員からのメッセージ			
初回の授業で、授業概要及び成績評価について詳しく説明します。 *7・8回の【演習】は時間割調整をして2限続きで行いますので、連絡事項等に気をつけてください。 毎回の授業に、テキストのほか①と②を持参し、配付資料やノートファイリングしてください。 ① A4リング2穴ファイル（厚さは4cm程度、色は自由。「看護基礎理論」専用） ② A4サイズのルーズリーフ用紙（毎回の授業でノートに使用します。）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
生活援助論Ⅰ（日常生活援助）	402	1後	必	2単位 60時間	講義 演習	水3, 水4 木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○内山明子（UCHIYAMA, Akiko） a-uchiyama●saku.ac.jp（研究室 5号館2階208） 宮原香里（MIYAHARA, Kaori） k-miyahara●saku.ac.jp（研究室 5号館2階209） 二神真理子（FUTAGAMI, Mariko） m-futagami●saku.ac.jp（研究室 5号館2階210） 柳澤佳代（YANAGISAWA, Kayo） k-yanagisawa●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室） 森本 彩（MORIMOTO, Aya） a-morimoto●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
全教員共通 授業終了後～18時。各教員研究室。質問は、メールでも可能です（随時）。オフィスアワー以外の面談はメールで予約してください。						
授業の概要						
日常生活と結びつけて人間の基本的ニーズを理解し、生活援助の基本について学習する。また、健康問題を持つ人間の生活援助に必要な基礎的看護技術を習得し、健康状態の観察、生活環境の調整・整備、活動と休息の援助、衣生活・身体の清潔の援助等を取り上げ、安全や安楽に配慮しつつ科学的根拠に基づく、看護技術を提供する方法と意義について講義、演習を通して学習する。						
到達目標						
1. 看護の視点から人間について総合的に捉え、看護技術を提供する方法と意義について述べられる。 2. 健康状態の観察、生活環境の調整・整備、活動と休息の援助、衣生活・身体の清潔、食事、排泄の援助等について科学的根拠に基づいた原理・原則が述べられ実施できる。 3. 対象の個別性に基づいて、安全・安楽・かつ効率的に看護技術を行う必要性が述べられる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を基に、「看護実践能力の基盤」として看護実践で用いるケア技術を身につけるための必修科目です。「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」に関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション（授業目標・概要、実習室の使い方、ユニフォーム着用時の身だしなみ）	講義	内山			
2	生活援助論とは、看護技術とは（安全・安楽・自立）、感染予防への援助（スタンダードプリコーション）	講義・演習	内山			
3	効率的な活動を作り出す技術（ボディメカニクス、基本的体位、体位変換、） 生活環境を整える技術（ベッドメイキング）	講義	二神			
4, 5	効率的な活動をつくり出す技術・生活環境を整える技術（ボディメカニクス、体位変換、ベッドメイキング）	演習	二神			
6	活動を支援し、休息を促す援助技術	講義	宮原			
7, 8	活動を支援する技術（車椅子移乗、ストレッチャー、歩行介助）	演習	宮原			
9	生活を整え、清潔を保つ援助技術（衣生活、寝衣交換）	講義	二神			
10, 11	環境と衣の清潔を保つ援助技術（臥床患者の寝衣交換、シーツ交換）	演習	二神			
12	身体の清潔を援助する技術①（手浴、足浴、口腔ケア）	講義	内山			
13, 14	身体の清潔を援助する技術①（手浴、足浴、）	演習	内山			
15	身体の清潔を援助する技術②（全身清拭、部分清拭、陰部洗浄）	講義	二神			
16, 17	身体の清潔を援助する技術②（全身清拭）	演習	二神			

18	身体の清潔を援助する技術③（整容、爪切り、洗髪）	講義	宮原
19, 20	身体の清潔を援助する技術③（洗髪、爪切り）	演習	宮原
21	食事・栄養に関する援助技術	講義	内山
22, 23	食事摂取を援助する技術（食事介助、口腔ケア）	演習	内山
24	排泄を促す援助技術	講義	宮原
25, 26	床上排泄を援助する技術（排尿・排便の援助、おむつ交換、陰部洗浄）	演習	宮原
27	終末時における技術	講義	内山
28, 29	技術試験前課題演習	演習	内山
30	実技試験	試験	全教員
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 予習は、2種類のテキストを用いて授業に関連する箇所を読んでください。理解できないところは付箋を付けるなどして、疑問を解決する準備を行って、授業に臨んでください。30分程度の時間を要します。 2. 演習は、事前に演習事例を提示します。講義内容やテキストなどから手順や留意点を復習し、DVDなど動画を活用し援助技術をイメージして演習に臨んでください。30分～1時間程度の時間を要します。 3. 技術試験前は、授業のない時間などを利用して、基礎看護学実習室で練習をしてください。演習時に記述したデブリーフィングを読み返して演習を想起し、その技術ができるようになるまで練習してください。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
【テキスト】 志自岐康子，松尾ミヨ子，習田明裕編(2016). ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術. メディカ出版 深井喜代子，前田ひとみ編(2015). 基礎看護学テキスト（改訂第2版）EBN志向の看護実践. 南江堂 【参考文献】 竹尾恵子監修(2015). 看護技術プラクティス 第3版. 学研 医療情報科学研究所編(2014). 看護技術がみえるvol. 1. メディックメディア			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験（40％） 定期試験1回で評価します。 2. 実技試験（40％） 演習科目なので、受験しなければ科目の評価対象となりません。 3. 小テスト（10％） 毎回講義終了時にその日の講義内容に準じた小テストを行い、その平均点を評価に加えます。 4. 授業参加状況（10％） 演習の参加状況と演習後のデブリーフィング（manaba使用）の提出状況を用いて評価に加えます。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
実技試験前には、試験内容を提示します。実技試験後は、試験担当教員が評価面接をし、フィードバックします。 演習後にはデブリーフィングという形で自己の演習の振り返りをmanabaを使って提出します。提出されたデブリーフィングの内容から、必要時授業でフィードバックをします。			
担当教員からのメッセージ			
授業内容の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。 演習の際は、ユニフォーム・ナースシューズを着用し、基礎看護実習室に集合してください。 演習は、グループメンバーと協力しながら行います。自己学習してもわからないことや実際に行ってみてうまくできないことなどは、積極的に教員に質問をして助言を受けながら、技術を習得しましょう。 出席はrespon、小テストにはmanabaを使用しますので、授業・演習時にはスマートフォンなどの端末を持参してください。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護展開論	406	1後	必	2単位 60時間	講義 演習	金3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉田文子（YOSHIDA, Fumiko） fy200●saku.ac.jp（研究室 5号館3階306） 八尋道子（YAHIRO, Michiko） m-yahiro●saku.ac.jp（研究室 5号館2階205） 宮原香里（MIYAHARA, Kaori） k-miyahara●saku.ac.jp（研究室 5号館2階209） 内山明子（UCHIYAMA, Akiko） a-uchiyama●saku.ac.jp（研究室 5号館2階208） 二神真理子（FUTAGAMI, Mariko） m-futagami●saku.ac.jp（研究室 5号館2階210） 柳澤佳代（YANAGISAWA, Kayo） k-yanagisawa●saku.ac.jp（研究室 5号館助手室） 森本 彩（MORIMOTO, Aya） a-morimoto●saku.ac.jp（研究室 5号館助手室）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後～19時まで（直接吉田研究室306に訪問可） 水曜日17時～18時（予約順で行いますので、まずはメールをください） fy200●saku.ac.jp						
授業の概要						
看護のあり方は、国内外の社会情勢の変化に対応する方向で、考え方においても具体的な展開方法においても変革を遂げてきている。 本科目では、その変革の状況を、看護の基盤となる「知識・技術・態度（資質）」の各側面から学修する。具体的には、 ①看護の対象者を主体とした看護実践（Evidence-based nursing） ②看護の対象者を医療のメンバーとみなすチーム医療 ③専門職としての看護職のあり方・資質（プロフェッショナルリズム）について、個人学習、チーム学習によって深める。						
到達目標						
Course Outcomesとして以下のことを目指します。 1. Evidence-Based Nursing（EBN） の構成要素を説明することができる。 2. 系統的思考プロセスを用いてクリティカルシンキングし、事例展開できる（思考力）（記述力）。 3. 今日のチーム医療の考え方とその課題について説明することができる。 4. 事例においてプロフェッショナルリズムとは何かを追求し、考察することができる（観察力）（説明力）。 5. ディスカッション場面に有効なコミュニケーションスキルを高めることができる（対話力）。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
（学生便覧参照のこと） 教育目標 7つのうちの、「IV群 看護実践能力の基盤」を培う科目であり、初年次教育科目（導入基礎演習）の後続科目として位置づけ、専門科目の学び方を看護の展開方法を通して学べるように配置している。						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1～2	コースガイド 【個人学習、チーム学習の2つの柱を同時進行】 ・個人学習（看護実習では「1 人の患者」を担当するので、個人で看護を展開する力を身につける機会とする） ・チーム学習（課題解決★に向けた学習を行い、人の話を聞いてから自身の考えを伝える対話力を身につける機会とする） ★ チームは固定せず、できる限り多くの人と組めるように編成される。				講義・演習	全教員
3	看護過程の意義と構成要素					
4	TBL（Team-Based Learning）/チームナーシング					
5～6	Evidence-Based Nursing ・看護診断 ・臨床的判断 ・グローバルヘルスとチーム医療					
7～12	変革するための中核となる専門職の資質について ・プロフェッショナルリズム、Change Agency、コアマネジメント（自己認識力、思考力、対話力）					
13～21	系統的思考/看護過程の事例展開 ・看護過程展開方法					

22～24 25～27 28～30	看護実践例から看護を考える①② ・看護実践例（教員）（学生） 医療安全と看護 事例の関連図の作成 事例の全体討論会 援助計画の作成 ・フォーカスチャータリング（F-DAR） クリティカルシンキング課題の提示		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
本科目は、講義演習科目であり、1単位30時間として計算すると、総自己学習時間は22.5時間となります。 ★初回授業で、詳細な学習進度をお知らせします。 特に課題によるレポート作成には、文献検索を含めた自己学習が必要となります。 小テスト実施日を提示しますので、予習復習の時間を充てるとよいでしょう。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：任和子編（2015）．実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド．照林社． リンダ J. カルペニート＝モイエ．新道幸恵訳（2014）．看護診断ハンドブック（第10版）．医学書院． 参考文献：日本国際保健医療学会（2013）．国際保健医療学第3版．杏林書院．			
成績評価の方法・基準			
■ 筆記試験（小テスト4回 40％） 授業内で、10分程度のテストを行います。 ■ レポート（課題2回 40％） 課題について、所定の書式でレポート作成をします。 ■ パフォーマンス評価（6％） クリティカルシンキング問題について思考し、発言します。 ■ 授業参加状況（14％） 授業内作成物の不備や期限外提出は減点になります。 拡声器の持参忘れは減点対象となります。（拡声器は初回の授業で配付します）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
科目終了時には、以下基準についての点数を個別で一覧表にし返却します。 ■ 筆記試験（小テスト4回 40％） 実施の授業内で、結果を通知します。 ■ レポート（40％） 結果を講評後、結果を通知します。 ■ パフォーマンス評価（6％） 配点の通知をします。そして結果は総合成績として個別返却時に通知します。 ■ 授業参加状況（14％） なお、出席そのものへは加点はありません。			
担当教員からのメッセージ			
初回の授業で、授業概要を詳細に説明し、学生とともに授業進度を最終決定します。 本授業の構成はマスタリーラーニングを基盤に行い、何度か習得状況を確認・評価し、全員が科目目標を達成できるようにしています。難しい内容もステップを踏めば簡単にそして面白く学習できると思います。			

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
遺伝と健康	306	2後	自	2単位 30時間	講義	木3

担当教員（○印＝科目責任教員）
○今福裕司（IMAFUKU, Yuji）

オフィスアワー／連絡先と連絡方法
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

授業の概要
人間における遺伝の仕組み、病気や健康の問題に遺伝はどう関わるのか。DNA、ゲノム、染色体とは何か、その発現の仕組みについて学習する。遺伝病から生活習慣病まで、病気と遺伝との関わりについて理解し、家族性の疾患や遺伝に関わる諸問題について理解する。また、その前提となる生物学について学ぶ。

到達目標
1. メンデル遺伝学を説明できるようになる。
2. 染色体及び遺伝子の異常による疾患についての理解を深めることができる。
3. 病院・地域で健康支援を推進する際に必要な「遺伝と健康の関係」についての知識を習得できる。
4. 生物学の基礎について理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。

授業計画			
回数	授業内容	授業方法	担当教員
1	遺伝概説、代謝総論	講義	今福
2	栄養素の構造（1）		
3	栄養素の構造（2） 酵素		
4	糖質代謝		
5	脂質代謝		
6	核酸、ヌクレオチド代謝		
7	エネルギー代謝の統合と制御		
8	遺伝子		
9	遺伝病と遺伝形式		
10	常染色体劣性遺伝病		
11	常染色体優性遺伝病		
12	X染色体連鎖劣性遺伝病		
13	癌、生活習慣病と遺伝子		
14	遺伝子診断、治療、カウンセリング		
15	まとめ		

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。
1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『ナーシンググラフィカ 臨床生化学』メディカ出版
成績評価の方法・基準
筆記試験（70％） 授業参加状況（30％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
健康障害と治療Ⅰ	322	2前	必	2単位 60時間	講義	火3, 火4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○今福裕司（IMAFUKU, Yuji）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。 成人期、老年期に多い疾患を群に分け下記疾患の疫学、成因、病態生理、自覚症状と他覚症状、検査所見、治療、予後を学ぶ。						
到達目標						
成人期、老年期に多い疾患の疫学・症状・病因・診断・治療・予防について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1-4	循環器疾患 (虚血性心疾患 心臓弁膜症 心筋症 心不全 大動脈解離 大動脈瘤 高血圧)				講義	今福
5-8	呼吸器疾患 (肺炎 間質性肺炎 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 肺がん 気胸 肺結核肺梗塞)					
9-12	消化器疾患Ⅰ (逆流性食道炎 食道がん 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 胃がん 大腸がん イレウス 炎症性腸疾患)					
13-16	消化器疾患Ⅱ (肝炎 肝硬変 肝がん 食道・胃静脈瘤 胆石 胆嚢炎 胆管炎 胆管がん 膵炎 膵がん)					
17-20	内分泌・代謝疾患Ⅰ (糖尿病 肥満：メタボリック症候群・脂質異常症)					
21-22	内分泌・代謝疾患Ⅱ (下垂体疾患 甲状腺疾患 副腎の疾患)					
23-26	血液疾患 (血友病 白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 播種性血管内凝固症候群)					
27-30	腎・泌尿器疾患 (腎炎 腎不全 ネフローゼ症候群 腎盂腎炎 尿路感染症 排尿障害 前立腺肥大症 前立腺がん)					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
講義前にテキストの該当する箇所を熟読すること。 テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。 1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『病気がみえる vol.1 消化器』メディックメディア 『病気がみえる vol.2 循環器』メディックメディア 『病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』メディックメディア 『病気がみえる vol.4 呼吸器』メディックメディア 『病気がみえる vol.5 血液』メディックメディア 『病気がみえる vol.8 腎・泌尿器』メディックメディア 『疾病と検査』南江堂 参考文献：『病理学 第1版』医学芸術社
成績評価の方法・基準
筆記試験（90％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
疾患と治療の理解は、患者を理解し、看護を実践するために重要となります。 学習を深めることは将来の看護につながるので頑張りましょう。

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
健康障害と治療Ⅱ	323	2通	必	2単位 60時間	講義	(前) 木3 (後) 月2
担当教員（○印＝科目責任教員） 今福裕司（IMAFUKU, Yuji） 奥泉宏康（OKIZUMI, Hiroyasu）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要 健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。 特に、成人期、老年期に多い疾患を脳神経、運動器、皮膚、感覚器、腎・泌尿器、婦人科、免疫群に分け下記疾患の疫学、成因、病態生理、自覚症状と他覚所見、検査所見、治療、予防などを学ぶ。						
到達目標 成人期、老年期に多い疾患の疫学・症状・病因・診断・治療・予防について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1-16 (前期)	①感覚器疾患Ⅰ （白内障 緑内障 網膜剥離 屈折・調節異常 結膜炎など）			講義	今福	
	②感覚器疾患Ⅱ （難聴 耳鳴 鼻出血 味覚異常 中耳炎 メニエール病 顔面神経麻痺など）			講義	今福	
	③皮膚疾患 （皮膚炎 蕁麻疹 膿疱症 熱傷 褥瘡 皮膚腫瘍 蜂窩織炎 白癬 帯状疱疹など）			講義	今福	
	④自己免疫・アレルギー疾患Ⅰ （関節リウマチ SLE その他の膠原病）			講義	今福	
	⑤自己免疫・アレルギー疾患Ⅱ （花粉症 HIV と免疫不全）			講義	今福	
17-30 (後期)	①脳神経疾患Ⅰ （脳血管疾患 ALS パーキンソン病 筋ジストロフィー 重症筋無力症など）			講義	奥泉	
	②脳神経疾患Ⅱ （認知症 髄膜炎 てんかん 脳腫瘍 頭部外傷など）			講義	奥泉	
	③運動器疾患Ⅰ （骨粗鬆症 関節炎 骨軟部腫瘍 椎間板ヘルニア 脊柱管狭窄症 脊髄損傷など）			講義	奥泉	
	④運動器疾患Ⅱ （末梢神経麻痺 変形性股・膝関節症 スポーツ障害 骨折 脱臼など）			講義	奥泉	
※詳細な授業計画は、初回授業時に提示する。						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
講義前にテキストの該当する箇所を熟読し、必要なら図書館で資料を参照すること。 テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。 1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症』メディックメディア 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア 『疾病と治療Ⅳ 運動器系／皮膚／眼／耳鼻咽喉／歯・口腔』南江堂 『ナースのためのやさしくわかる整形外科』ナツメ社 『疾病と検査』南江堂 参考文献：『病理学 第1版』医学芸術社
成績評価の方法・基準
筆記試験（90％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
疾患と治療の理解は、患者を理解し、看護を実践するために重要となります。 学習を深めることは将来の看護につながるので頑張りましょう。

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
健康障害と治療Ⅲ	324	2後	必	2単位 60時間	講義	集中

担当教員（○印＝科目責任教員）
 奥山秀樹（OKUYAMA, Hideki） 今井幸充（IMAI, Yukimichi） 小口 治（OGUCHI, Osamu）
 市川聡裕（ICHIKAWA, Akihiro） 小諸高原病院 精神科医師 佐久総合病院佐久医療センター 小児科医師

オフィスアワー／連絡先と連絡方法
 授業終了後に教室で質問を受け付ける。

授業の概要
 健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。
 歯科・口腔疾患の症状、診断、治療について学ぶ。認知症及び精神疾患の基本的症状と診断、治療について学ぶ。
 小児特有の症候と疾患、検査、治療について学ぶ。女性生殖器に関する疾患、症候の診断、治療について学ぶ。
 放射線による診断とその治療について学ぶ。

到達目標
 歯科・口腔疾患、認知症、精神疾患、小児・女性特有の疾患の症状・病因・診断・治療・予防及び放射線による診断と治療について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。

授業計画			
回数	授業内容	授業方法	担当教員
成人 1-4	歯科・口腔疾患の症状、診断、治療	講義	奥山
老年 1-2	認知症の病態の理解と治療（薬物療法を含む）	講義	今井
精神 1-7	精神疾患の基本的症状と診断、治療	講義	精神科医師
小児 1-10	小児特有の症候と疾患、検査、治療	講義	小児科医師
母性 1-3	女性生殖器に関する疾患、症候の診断、治療	講義	小口
放射線 1-4	放射線による診断とその治療	講義	市川
※全 30 回をオムニバス方式で行う。 詳細な授業計画は初回授業時に提示する。			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 講義前にテキストの該当する箇所を熟読すること。
 テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。
 1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『疾病と治療Ⅳ 運動器系／皮膚／眼／耳鼻咽喉／歯・口腔』南江堂 『新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』メジカルフレンド社 『系統看護学講座 小児臨床看護各論』医学書院 『病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科』メディックメディア 『疾病と検査』南江堂 その他、必要に応じて資料を配布する
成績評価の方法・基準
筆記試験（90％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
患者を理解し、看護を実践するために、疾患と治療の学習は重要です。 学習を深めることは将来の看護につながります。しっかり学習してください。

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
薬理薬剤学	325	2後	必	2単位 30時間	講義	未定
担当教員（○印＝科目責任教員）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
薬物が生体に及ぼす作用について理解し、その化学構造に由来する作用機序の類似性を学ぶ。薬物の投与経路・投与方法の違いによる作用の違い、薬物の吸収・分布・代謝・排泄の違いを学ぶ。看護の場で注意すべき薬物の取り扱い方法（用量、投与方法、投与速度等）を学ぶ。実際にヒトに投与された医薬品の効果・害作用と、薬物が本来持っている薬理作用との間にある乖離の原因を学ぶ。						
到達目標						
1. 基本的な薬理学的系統名を理解し、その特徴的な作用・効果・副作用などを理解する。 2. 使用目的により、剤形や用法・用量が異なることを理解する。 3. 薬の危険性を理解し、安全な薬物治療が行えるようになる。 4. web上に存在する良質な医薬品情報を理解し、必要な場合に自分で利用できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	薬理学総論(1) 薬理学を学ぶにあたって			講義		
2	薬理学総論(2) 薬理学の基礎知識					
3	薬理学各論(1) 抗感染症薬					
4	薬理学各論(2) 抗がん薬					
5	薬理学各論(3) 免疫治療薬					
6	薬理学各論(4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬					
7	薬理学各論(5) 末梢での神経活動に作用する薬物					
8	薬理学各論(6) 中枢神経系に作用する薬物					
9	薬理学各論(7) 心臓・血管系に作用する薬物					
10	薬理学各論(8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物					
11	薬理学各論(9) 物質代謝に作用する薬物					
12	薬理学各論(10) 皮膚科用薬・眼科用薬					
13	薬理学各論(11) 救急の際に使用される薬物					
14	薬理学各論(12) 漢方薬					
15	薬理学各論(13) 消毒薬、輸液製剤・輸血剤					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：吉岡充弘他『系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学』 医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験（80％） 授業参加状況（20％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
正しい薬の知識は、看護業務で利用するだけではない。自分自身のみならず、親、子や周りの人たちにも必要な知識であることを認識して、正しく理解・判断できるようになることを望む。

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
運動と健康	327	2前	選 (養) 必	2単位 45時間	講義 演習	火1, 火2

担当教員（○印＝科目責任教員）
 ○朴 相俊（PARK, Sangjun） 研究室 1号館3階1319

オフィスアワー／連絡先と連絡方法
 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
 授業日以外の日は、メール（s-park●saku.ac.jp）で受け付ける。

授業の概要
 子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に関する運動実践方法の基本を理解する。さらに、実技・演習を通して運動を日常生活に楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。

到達目標
 1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる。
 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる。
 3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる。
 4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」を身につける授業科目である。

授業計画			
回数	授業内容	授業方法	担当教員
1	オリエンテーション、健康と運動の疫学について学ぶ	講義	朴 他
2-3	心身の健康と運動について学ぶ	講義／実技	
4-5	働き盛り世代の健康と運動について学ぶ	講義／実技	
6-7	子どもの健康と運動について学ぶ	講義／実技	
8-9	高齢者の健康と運動について学ぶ	講義／実技	
10-11	こころの健康と運動について学ぶ	講義／実技	
12-13	障がい児の健康と運動について学ぶ	講義／実技	
14-15	文部科学省新体力テストについて学ぶ	講義／実技	
16-17	健康づくり運動実践① ニュースポーツ（スポンジテニス）について学ぶ	実技／実技	
18-19	健康づくり運動実践② エアロビクスについて学ぶ	実技／実技	
20-21	健康づくり運動実践③ 集団スポーツについて学ぶ	実技／実技	
22	授業のまとめ	実技	

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：九州大学健康科学センター編『実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学』大修館書店 その他、授業に必要な資料はプリント資料を配布 参考文献：授業内で適宜紹介する
成績評価の方法・基準
レポート（30％） 授業参加状況（50％） 授業終了時のミニレポート（20％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
社会福祉学	342	2前	必	2単位 30時間	講義	金2

担当教員（○印＝科目責任教員）
○佐藤嘉夫（SATO, Yoshio）

オフィスアワー／連絡先と連絡方法
随時メールで質問を受け付ける。 yo-sato●saku.ac.jp

授業の概要
社会福祉の基礎と基本について学び、今日の福祉課題の中における看護と社会福祉の重なりや役割分担について理解を深め、看護ケアにおいて、社会福祉の価値、方法・技術とサービス資源の活用を意識した実践ができるような知識、能力を習得する。

到達目標
①社会福祉と社会保障の役割と違いについて説明できる。
②新聞等で報道されている福祉問題の背景・原因等を理解できる。
③医療・看護ケアにとって社会福祉がなぜ必要か説明できる。
④看護実践に活用、応用できる社会福祉の方法や技術を書き出すことができる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。

授業計画			
回数	授業内容	授業方法	担当教員
1	現代社会と社会福祉・社会保障	講義	佐藤
2	社会福祉とはなにか：歴史・思想	講義	
3	社会福祉の対象 ・対象の捉え方とその変遷	講義	
4	社会保障と社会福祉 ・仕組みと役割の違い	講義	
5	社会保障と社会福祉 ・社会サービスの視点から	講義	
6	社会福祉と社会保障 ・医療サービス・医療福祉と医療保障	講義	
7	社会福祉の基本：原理、方法、領域	講義	
8	社会福祉の領域：子ども、障害のある人、高齢者、女性、貧困者 etc	講義	
9	少子高齢化と社会保障、社会福祉	講義 ミニ演習	
10	現代家族と社会保障、社会福祉	講義 ミニ演習	
11	福祉臨床学の基礎 ・ソーシャルワークとソーシャルケア	講義	
12	福祉臨床と看護ケア ・病院の中の社会福祉	講義	
13	福祉臨床と看護ケア ・地域医療・地域包括ケアと社会福祉	講義	
14	社会福祉の機能と専門職の役割	講義	
15	ケアの科学としての社会福祉学と看護学	講義	

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
①人権思想が芽生えた啓蒙期の思想を辿ってみる。
②現代の生存権・憲法24条と関連する条項を読んでみる。（配布資料）
③新聞、テレビのニュース等で報道された具体例をみて、医療保障の課題をメモしてみる。
④現代社会ではなぜ社会福祉や社会保障が不可欠なのを考えてみる。（ミニ・レポート）
⑤看護と福祉は、なぜ互いを必要不可欠としているか整理してみる。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキストは使用しない。授業ごとにレジメを配布する。 参考文献：系統看護学講座『社会保障・社会福祉』医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験又はレポート 80％ ミニ・レポート 10％ 授業の出席状況 10％
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①試験やレポートの概況、コメントを一括してメールで配信する。 ②個別のコメント等を希望する受講生には、メール又は面談にてコメントを行う。
担当教員からのメッセージ
専門職者が、人の痛みや苦しみ、悲しみに沿って行う「ケア」あるいは「ソーシャル・ケア」という概念でくくると、看護と社会福祉は極めて親近性があるものであることがわかります。できるだけ具体的な課題にそって講義を進めたいと思いますので、受講生の皆さんも、現実の問題に大いに関心をもって、講義に臨んでください。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
保健医療福祉行政論	343	2後	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	水1, 水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小岩和枝（KOIWA, Kazue） 坂戸千代子（SAKATO, Chiyoko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
保健・医療・福祉制度をめぐる法と政策について、歴史的背景を踏まえて現在の問題と将来の課題について学ぶ。また、地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性についても学ぶ。						
到達目標						
1. 保健・医療・福祉制度をめぐる法と政策について理解し、現在の問題と将来の課題について説明できる。 2. 地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性について説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1 2～5	1. 保健医療福祉行政のめざすもの 2. 保健医療福祉制度の変遷 1) 公衆衛生の基盤形成 2) 政策の充実と転換	講義 講義・演習	小岩 他			
6, 7	3. 保健医療福祉行政・財政の理念としくみ 1－1) 国・都道府県の行政のしくみと役割	講義				
8	1－2) 市区町村の行政のしくみと役割	講義				
9	2) 行政における保健師の役割と活動 3) 保健医療福祉の財政 4) 公衆衛生に関する国際的な活動	講義				
10	4. 社会保障制度 1) 社会保障制度の理念としくみ 2) 医療提供施設 3) 介護保険制度 4) 社会保障・社会福祉の制度	講義				
11	5. 地域保健の体系 1) 地域保健に関する公的機関 2) 関係機関との連携	講義				
12, 13	6. 保健医療福祉の計画と評価 1) 地方公共団体の保健医療福祉計画 2) 保健計画の策定プロセス 3) 保健計画の推進と評価 4) 保健事業の立案とプロセスを学ぶ	講義				
14, 15	まとめ	グループワーク 講義				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
テキストを用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：藤内修二他『標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論』医学書院 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会
成績評価の方法・基準
筆記試験（70%） レポート（15%） 授業参加状況（15%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習・グループワークの取り組みも評価する。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
疫学・保健統計	344	2前	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	水3, 水4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○今村晴彦（IMAMURA, Haruhiko） 征矢野あや子（SOYANO, Ayako） 朴 相俊（PAKU, Sanjun） 那須野順子（NASUNO, Junko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後から放課後 授業日以外の日はメールで受け付ける。今村：haruhiko.imamura●med.toho-u.ac.jp						
授業の概要						
集団としての健康の指標に関する基本的な知識を学び、数量的な分析とその意味について理解する。また、保健統計を活用し、人間集団を対象に疾病の発生状況と発生要因を解明する過程を理解し、予防対策に結び付けていく疫学の基本的な原理、方法論を学ぶ。						
到達目標						
1. 疫学的調査研究の成果と保健統計の意味を理解し、集団の健康事象及びその要因を考えられるようになる。 2. 疫学的調査研究を組み立てられるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	疫学の概念とその歴史	講義	今村			
2	疾病頻度の指標	講義	今村			
3	疫学的研究とその考え方 (1)観察研究 i 記述研究・生態学的研究・横断研究	講義	今村			
4	(2)観察研究 ii コホート研究	講義	今村			
5	(3)観察研究 iii 症例対照研究	講義	今村			
6	(4)介入研究	講義	今村			
7	(5)因果関係・バイアス・交絡	講義	今村			
8	スクリーニング 演習その1	講義・演習	今村			
9	保健統計調査	講義	今村			
10	保健統計学（統計学と疫学）	講義	今村			
11	主な疾患の疫学（1）慢性疾患、悪性新生物、生活習慣病の疫学	講義	今村			
12	保健統計と保健師業務の実際	講義	那須野			
13	主な疾患の疫学（2）精神疾患の疫学	講義	朴			
14	主な疾患の疫学（3）感染症の疫学	講義	征矢野			
15	演習その2 授業のまとめ	講義・演習	今村			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
この授業で扱う内容は、継続的な復習がもっとも大切です。予習は特に求めません（必要な場合は適宜指示します）。毎回の授業後、テキストで該当する章の練習問題を解いて、理解できていない箇所がないか確認してください。1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：①浅野嘉延『看護学生のための疫学・保健統計』南山堂 ②『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 参考文献：牧本清子他『標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学』（第3版）』医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験（80％） 授業参加状況（20％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
疫学的研究の「楽しさ」と「必要性」について理解を深めてもらうための授業内課題をいくつか予定しています。積極的に参加してください。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
生活援助論Ⅱ（診療の補助技術）	403	2前	必	2単位 60時間	講義 演習	月3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮原 香里（MIYAHARA, Kaori） k-miyahara●saku.ac.jp（研究室 5号館2階209） 内山 明子（UCHIYAMA, Akiko） a-uchiyo●saku.ac.jp（研究室 5号館2階208） 二神 真理子（FUTAGAMI, Mariko） m-futagami●saku.ac.jp（研究室 5号館2階210） 小野 美香子（ONO, Mikako） m-ono●saku.ac.jp（研究室 1号館3階1312） 柳澤 佳代（YANAGISAWA, Kayo） k-yanagisawa●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室） 森本 彩（MORIMOTO, Aya） a-morimoto●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室） 田中 高政（TANAKA, Takamasa） hijokin3●saku.ac.jp（研究室 1号館1階1105）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後～18時まで。直接各教員の研究室へ訪問してください。 質問は随時メールでも受け付けます。オフィスアワー以外の面談は、メールで予約をしてください。						
授業の概要						
健康課題を持つ人間の、生活援助に必要な基本的看護技術を取り上げ、安全や安楽に配慮しつつ科学的根拠に基づく看護技術を提供する意義と方法について学ぶ。 健康課題を持つ人間の診療の補助に必要な基本的技術として、感染予防・与薬に対する援助、経管栄養・導尿、浣腸等に関する援助について講義、演習を通して学ぶ。 様々な状況にある患者への生活援助法を検討し、対象の個性や置かれている環境に応じて、適切に看護を実践する意義と方法について学ぶ。						
到達目標						
1. 健康課題を持つ人間の、診療の補助に必要な基本的技術として、感染予防・与薬に対する援助、経管栄養・導尿、浣腸、電法、酸素療法、口腔鼻腔内吸引等に関する技術について、科学的根拠を理解することができる。 2. 上記1で取り上げる看護技術を、安全や安楽に配慮してモデル人形で実施できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
本講義は、教育目標等から考える卒業時の姿の7つのうち「看護実践能力の基盤」となる科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	1. オリエンテーション 診療の補助とは何か、看護師の役割			講義	宮原	
2	2. 感染予防（その1） 1) 感染予防の原則 2) 看護ケア（洗浄、消毒、滅菌）（無菌操作）（感染性廃棄物）			講義	宮原	
3. 4. 5	3. 感染予防（その2） 1) 無菌操作の原則 2) 滅菌物の取り出し方、取り扱い 3) 滅菌手袋の着用			講義・演習	宮原・全員	
6. 7	4. 創傷管理 1) 包帯法 2) 褥瘡予防			講義・演習	宮原・全員	
8. 9	5. 与薬を安全かつ正確に行う技術（その1） 1) 法律 2) 薬物の種類、管理 3) 注射の準備（実施前のアセスメント、注射器具の選択、注意点）			講義・演習	内山・全員	
10. 11	6. 与薬を安全かつ正確に行う技術（その2） 1) 皮内注射 2) 皮下注射 3) 筋肉内注射			講義・演習	内山・全員	

12. 13	7. 与薬を安全かつ正確に行う技術（その3） 1) 点滴静脈内注射 2) 輸液ポンプ 3) 輸血療法	講義・演習	内山・全員
14. 15. 16	8. 排出障害に対する技術 1) 排尿に関するアセスメント 2) 導尿	講義・演習	宮原・全員
17. 18	9. 排便の異常に対する技術 1) 排便に関するアセスメント 2) 浣腸 3) 摘便	講義・演習	二神・全員
19	10. 上記授業内容の2～9の技術項目確認前課題	講義・演習	宮原・全員
20. 21	11. 上記授業内容の2～9の技術項目確認	実技試験	全教員
22. 23	12. 食事・栄養の技術（非経口的栄養摂取法） 1) 摂食・嚥下障害のアセスメント 2) 経管栄養法 3) 中心静脈栄養法	講義・演習	田中・全員
24. 25	13. 循環を整える技術 1) 冷電法 2) 温電法	講義・演習	二神・全員
26. 27. 28	14. 呼吸を整える技術 1) 酸素吸入療法 2) 気管内加湿法 3) 口腔内・鼻腔内吸引	講義・演習	小野・全員
29. 30	15. 検査時の技術 1) 検査における看護師の役割 2) 検体検査 3) 生理機能検査 4) 画像検査 5) 内視鏡検査 6) 静脈血採血	講義・演習	内山・全員
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 授業に関連する内容は事前にテキストを毎回読んでください（30分程度）。 2. 事前に事例を提示する場合があります。その場合は、テキスト等を用いながら援助のイメージをつかみ、授業に臨んでください（60分程度）。 3. 援助の復習は、基礎成人看護学実習室にて行いましょう（一回の講義につき 60 分程度）。本授業では、多くの医療用物品を使用します。実習室にある物品には高価なもの、操作を誤ると事故につながる恐れのあるものが含まれていますので、丁寧に、かつ確実な手順で取り扱うようにしてください。また、室外への持ち出しを禁じる物品もあります。詳細は、随時お伝えします。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
深井喜代子, 前田ひとみ(2017). 基礎看護学テキスト（改訂第2版）EBN 志向の看護実践. 南江堂. 志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕, 金壽子(2017). ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術. メディカ出版.			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（30％）実技試験（40％）授業参加状況（10％）その他（小テスト20％、全12回の予定）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
小テストはmanabaで行います。技術試験後は、担当教員が面接を行いフィードバックをします。			
担当教員からのメッセージ			
演習の際はユニフォームとナースシューズを着用し、身だしなみを整えて基礎成人看護学実習室に集合してください。 授業の質問・相談は、科目責任教員が対応しますのでご連絡ください。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護倫理学	407	2 後	必	2 単位 30 時間	講義	火 3, 火 4
担当教員名（○印＝責任教員）						
○ 八尋道子（YAHIRO, Michiko） m-yahiro●saku.ac.jp（研究室 5 号館 2 階 205） 宮原香里（MIYAHARA, Kaori） k-miyahara●saku.ac.jp（研究室 5 号館 2 階 209）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○ 八尋道子 毎週火曜日 12:10～12:50 16:20～18:00（研究室） 質問は、メールやmanaba でもお待ちしております（常時）。オフィスアワー以外の面談予約もメールで可能です。						
授業の概要						
この授業は、看護専門職に必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意思決定を行うための枠組みについて学びます。さらに、看護を实践する状況の中で自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその諸価値のもつ意味を考察することにより、倫理的能力の促進を目指します。はじめて臨地実習を体験している履修生のために、医療の現場に生じる倫理的課題について同時進行で学ぶことができるよう、多くの生きた事例を教材として使用します。						
到達目標						
修了時に、以下の 5 つの学習成果を得ることを目標とします。 1. 看護倫理の基礎知識および看護に関わる基本的な法律を学び、これらの知識が看護師になぜ必要かを述べるができる。（倫理的に「知ること」を学ぶ） 2. 倫理的感受性を高め、多くの生きた事例から看護実践における現代の倫理的課題を認識することができる。（倫理的に「見ること」を学ぶ） 3. 倫理的意思決定を行うための枠組みを理解し、倫理課題に直面したとき専門職としてどう対応するかを自分の問題として捉え、看護実践に活かしていく基本的な考え方を 4-steps Worksheet に記述することができる。（倫理的に「行うこと」を学ぶ） 4. よい看護とは何か、よい看護師とはどのような人かについて、自分自身の考えを言葉で表現することができる。（倫理的に「あること」を学ぶ） 5. 他者の声に積極的に耳を傾け、継続的な対話の姿勢を持つことができる。（倫理的に「ふりかえること」を学ぶ）						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「看護実践能力の基盤」となる力を身につける授業科目であり、また「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	コースガイダンス：科目の概要と授業の進め方 倫理の基礎を学ぼう 自分の価値を知ろう 【ピーターのケース】			講義	八尋	
2	看護倫理の基礎知識 看護倫理の歴史を学ぼう 【ユニーヌのケース（タスキギー事件）】			講義	八尋	
3	看護にかかわる法的原則と倫理 看護職の責任 倫理と法 【保健師助産師看護師法】（小テスト①）			講義	八尋	
4	専門職の責務と倫理綱領 1 インフォームドコンセントとアカウンタビリティ 【月梅のケースと ICN 看護師の倫理綱領】（小テスト②）			講義	八尋	
5	専門職の責務と倫理綱領 2 アドボカシー 【曜一のケースとリスボン宣言】（小テスト③）			講義	八尋	
6	個人情報保護 コンフィデンシャリティー 【嵐のケースと実習記録の取り扱い】			講義	宮原	

7	よい看護へのアプローチ 1 倫理的ジレンマ 倫理的意思決定 【倫理原則】	講義	宮原
8	よい看護へのアプローチ 2 倫理的意思決定の枠組み 4-steps Worksheet 紹介 【チーム学習：実習で遭遇したケースを描く】	講義 演習	八尋
9・10	よい看護へのアプローチ 3 徳の倫理 ケアの倫理 【チーム学習：実習で遭遇したケースをふりかえる】 プレゼンテーションと討論会①	講義 演習	八尋 宮原
11・12	よい看護へのアプローチ 4 【チーム学習：実習のケース①】 プレゼンテーションと討論会②	演習	八尋 宮原
13・14	患者に学ぼう 【チーム学習：実習のケース②】 プレゼンテーションと討論会③	演習	八尋 宮原
15	チーム医療の倫理を学ぼう チームワーク 協働 同僚関係 / 授業科目のサマリー 【実習で遭遇したケースと倫理的課題についての総合ディスカッション】	講義	八尋

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：テキストを読み、毎回 30 分の予習をしましょう。

- 小テストについて

合計 3 回授業の最初に行います。おもにその日の授業内容について、以下の指定範囲から出題します。

小テスト①：テキスト 1) p. 94-p. 104, および保健師助産師看護師法

小テスト②：テキスト 1) p. 105-p. 120

小テスト③：テキスト 2) 授業で案内します。

復習：

- チーム学習の時間は授業外でも必要になります。メンバーとの時間調整もチームワークの実践の一つです。
- 期末レポートについて

評価基準も含め第9回に説明します。レポートには授業以外で90分ほどの学習が必要です。

テキスト及び参考書、参考文献・参考 URL など

テキスト

- 小西恵美子編（2014）．看護倫理：よい看護・よい看護師への道しるべ，改訂第2版．南江堂．
 - 手島 恵監修（2018）．看護者の基本的責務，2018 年版，定義・概念/基本法/倫理．日本看護協会出版会．
- その他、授業のたびに次の予習ができるよう授業資料を事前に配付します。
- 自己学習やチーム学習のための URL や推薦図書を、第1回授業のコースガイダンスで紹介いたします。

成績評価の方法・基準

総合成績で上位のグレードが得られるように、下記の基準を参考にしてください。

1. 授業参加状況（10%）

- ① 出欠席が成績評価に反映されます。小テストの日以外の欠席は－5%・遅刻/早退は－2%
- ② 授業参加状況の客観的指標として、質問や意見交換の際の自発的な発言を評価します。

2. ピア評価（10%）

チームメンバーそれぞれで、チーム貢献を評価します。（第1回授業で配付する「ピア評価表」を参照のこと）

3. 筆記試験（小テスト3回 30%）

授業のなかで小テストを行い（小テスト①～③）、筆記試験の成績評価とします。（したがって、小テストの日に欠席すると1回につき－10%になります。）

4. 期末レポート（30%）

4-steps Worksheet を用いてケーススタディを行い個人レポートとして提出します。詳細は、第9回で通知します。

5. プレゼンテーションと討論会（20%）

ケースに基づき、チーム学習を行い、チームで発表します。詳細は、第4回授業で説明します。発表（プレゼンテーション）時間は、10分を予定しています。

課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

小テスト①②③は、その日の授業内で結果がわかります。期末レポートの結果は、個別に問い合わせが可能です。プレゼンテーションでは、それぞれの発表に対して各チームと教員からの投票が得点化されます。定期試験はありません。

担当教員からのメッセージ

- この授業では間違った答えはありません。自由な対話の場所としての教室をみんなで作り上げてほしいです。
- チーム学習では、チームの成果が最大化できるようなチームワークと協働に、ひとりひとりが努力されることを期待しています。
- 疑問や質問はなるべくその日の授業のなかで解決してもらえたらと思います。メールで問い合わせると、次の授業までにメールや manaba で、または直接のフィードバックを受けることができます。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
感染看護論	408	2前	必	2単位 30時間	講義	金3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○坂木晴世（SAKAKI, Haruyo） 平松玉江（HIRAMATSU, Tamae） 和田孝子（WADA, Takako） 武田由美（TAKEDA, Yumi） 宮田貴紀（MIYATA, Takanori） 笠間秀一（KASAMA, Shuichi）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業内容の質問・相談は、原則各担当教員の授業終了後に対応します。						
授業の概要						
感染を予防するための看護活動ならびに病棟や病院における感染制御のあり方を学習する。国内外における感染症の変遷や現代の感染症の特徴を理解して、感染防止のための知識、技術、感染管理のための知識、技術を習得する。						
到達目標						
感染看護の基礎及び根拠に基づいた感染防止技術を理解し、臨床での看護実践の基盤とする。 1．感染看護の基礎を理解できる。 2．感染防止技術の基本を理解できる。 3．根拠に基づいた感染防止技術による看護を理解できる。 4．さまざまな臨床場面における感染看護を理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」となる授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス	講義	坂木			
	感染看護の基礎 1：感染症と感染制御における最近の動向	〃				
2	感染看護の基礎 2：感染症と倫理	〃	坂木			
3	感染看護の基礎 3：生態防御機構と感染／感染症のフィジカルアセスメント	〃	武田			
4	感染看護の基礎 4：感染症における薬物療法：抗菌薬の適正使用	〃	武田			
5	感染防止技術の基本 1：標準予防策	〃	武田・宮田			
6	感染防止技術の基本 2：手指衛生	演習	武田・宮田			
7	感染防止技術の基本 3：感染経路別予防策	〃	武田・宮田			
8	感染防止技術の基本 4：洗浄・消毒・滅菌	講義	平松			
9	感染防止技術の基本 5：ファシリティマネジメント	〃	〃			
10	感染防止技術 1：尿道カテーテルと尿路感染	〃	宮田			
	感染防止技術 2：血管内留置カテーテルと血流感染	〃	〃			
11	感染防止技術 3：人工呼吸器と肺炎	〃	宮田			
	感染防止技術 4：周手術期と手術部位感染	〃	〃			
12	感染看護の実際 1：救急・集中ケア	〃	笠間			
13	感染看護の実際 2：高齢者のケア：在宅・長期療養ケア	〃	和田			
14	感染看護の実際 3：易感染者（高齢者・化学療法・移植など）の感染予防	〃	〃			
15	感染看護の実際 4：感染症のチーム医療における看護師の役割	〃	坂木			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
講義資料を基に必ず復習しておくこと。 なお、1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：指定しない 参考文献：適宜紹介する
成績評価の方法・基準
筆記試験（70％） 授業参加状況（30％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習時は実習着着用の上、身だしなみを整え臨んでください。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
フィジカルアセスメント	409	2前	必	1単位 30時間	演習	水1, 水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○田中高政（TANAKA, Takamasa） hijokin3●saku.ac.jp（研究室 非常勤講師室） 内山明子（UCHIYAMA, Akiko） a-uchiyama●saku.ac.jp（研究室 5号館2階208） 二神真理子（FUTAGAMI, Mariko） m-futagami●saku.ac.jp（研究室 5号館2階210） 宮原香里（MIYAHARA, Kaori） k-miyahara●saku.ac.jp（研究室 5号館2階209） 柳澤佳代（YANAGISAWA, Kayo） k-yanagisawa●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室） 森本 彩（MORIMOTO, Aya） a-morimoto●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後から放課後まで また、随時メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
インタビュー、視診、触診、打診、聴診を用いて対象の健康状態（病状）を把握する方法を理解し、看護における患者観察の方法、正常・異常の判別の仕方などを、具体的な演習によって習得する。 患者観察におけるフィジカルアセスメントの重要性、基礎的知識・技術について理解する。						
到達目標						
1. フィジカルアセスメントの意義と目的を理解し、説明できる。 2. 看護実践のためのフィジカルアセスメントの必要性を理解し、説明できる。 3. フィジカルアセスメントの基本技術（バイタルサインの測定、問診、視診、触診、打診）を理解し実施できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
本講義は、看護実践能力の基盤となる科目である。						
授業計画						
回数	授 業 内 容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション、科目の到達目標・授業内容・学習方法等について学ぶ			講義	田中・全員	
2	看護におけるフィジカルアセスメントの意義について理解する 健康歴と全身状態の観察に必要なアセスメント技術（インタビュー、視診、聴診、打診、触診）について学ぶ			講義	田中・全員	
3	バイタルサインに関する援助技術について学ぶ			講義	田中・全員	
4	頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントについて学ぶ			講義	田中・全員	
5	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメントについて学ぶ			講義	田中・全員	
6	腹部・筋骨格・神経系のフィジカルアセスメントについて学ぶ			講義	田中・全員	
7	バイタルサインの測定技術について演習を通して学ぶ（1）			演習	田中・全員	
8	バイタルサインの測定技術について演習を通して学ぶ（2）			演習	田中・全員	
9	頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ			演習	田中・全員	
10	呼吸器系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ			演習	田中・全員	
11	循環器系・リンパ系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ			演習	田中・全員	
12	腹部・筋骨格・神経系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ			演習	田中・全員	
13	総合演習（1）グループで事例を総合的に検討することで、学習を深める			演習	田中・全員	
14	総合演習（2）グループで事例を総合的に検討することで、学習を深める			演習	田中・全員	
15	まとめとして、全体を通して学びをふり返る			講義	田中・全員	

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
指定したテキストを事前によく読み、授業範囲を予習しておくこと。（60分程度） 形態機能学に関する事前課題を課す。（60分以上） 演習項目については、演習後に自主的に練習すること。（60分以上） 授業時間外に特に血圧測定等のフィジカルアセスメント項目について、実技トレーニングを行う。（60分以上） 授業時間外の自主練習のために、オフィスアワーを設ける。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト： 茂野香おる(2015)『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I』医学書院 清村紀子(2014)『根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント』医学書院 参考文献： 清村紀子(2014)『機能障害からみたからだのメカニズム』医学書院 エレンNマリーブ(2015)『人体の構造と機能 第4版』医学書院 医療情報科学研究所(2015)『フィジカルアセスメントがみえる』メディックメディア 福井次矢訳(2015)『ベイツ診察法 第2版』メディカル・サイエンス・インターナショナル
成績評価の方法・基準
筆記試験（50％） 実技試験（30％） レポート（10％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前課題には、コメントをして返却する。
担当教員からのメッセージ
研究室での指導を希望する場合には、担当教員にあらかじめ連絡してください。 演習の際は、実習着を着用し、成人基礎看護実習室に集合すること。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
リハビリテーション看護論	411	2後	必	1単位 30時間	講義	金3, 金4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○太田浩和（OHTA, Hirokazu） 丸山陽一（MARUYAMA, Youichi） 滝澤貴恵（TAKIZAWA, Takae）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
リハビリテーションの概念と体系、リハビリテーションの必要な対象と実施状況について学んだ上で、看護上必要なリハビリテーションのためのアセスメント、ADL訓練などについて学習する。						
到達目標						
1. リハビリテーション看護の考え方を理解する。 2. リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解し、看護援助を考えることができる。 3. 現場におけるチームアプローチ及び看護師の役割を理解する。 4. 演習を通し、ボディメカニクスを考慮したADL訓練の実際を学ぶ。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」となる授業科目である						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	リハビリテーションの定義と目的	講義	丸山			
2	障害者の定義、変遷・リハビリテーションを必要とする対象者の特徴と理解	〃	丸山			
3	経過別リハビリテーションの考え方	〃	太田			
4	リハビリテーションを必要とする方への看護援助 パート1	〃	太田			
5	リハビリテーションを必要とする方への看護援助 パート2	〃	太田			
6	機能障害別リハビリテーション看護 パート1	〃	滝澤			
7	機能障害別リハビリテーション看護 パート2	〃	滝澤			
8	リハビリテーション看護の実際 パート1 （演習）	演習	太田・丸山			
9	リハビリテーション看護の実際 パート2 （演習）	〃	太田・丸山			
10	機能障害別リハビリテーション看護 パート3	講義	太田			
11	リハビリテーション医療におけるチーム活動と看護の役割	〃	太田			
12	福祉制度と社会資源について	〃	太田			
13	機能障害別リハビリテーション看護 パート4 （演習）	演習	太田・丸山			
14	機能障害別リハビリテーション看護 パート5 （演習）	〃	太田・丸山			
15	リハビリテーションの専門職 看護における事例紹介	講義	太田			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。 講義終了時に次回実施する講義内容を指示するので、テキストを用いた事前学習を1時間程度行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：中西純子・石川ふみよ編『リハビリテーション看護論』　ヌーヴェルヒロカワ 参考書：落合芙美子監修・栗生田友子編『リハビリテーション看護』第2版　メヂカルフレンド社 武田宣子　他著『リハビリテーション看護』第6版　南江堂
成績評価の方法・基準
筆記試験（80％） 授業参加状況（20％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習の際は実習着を着用の上、基礎看護実習室へ集合すること。

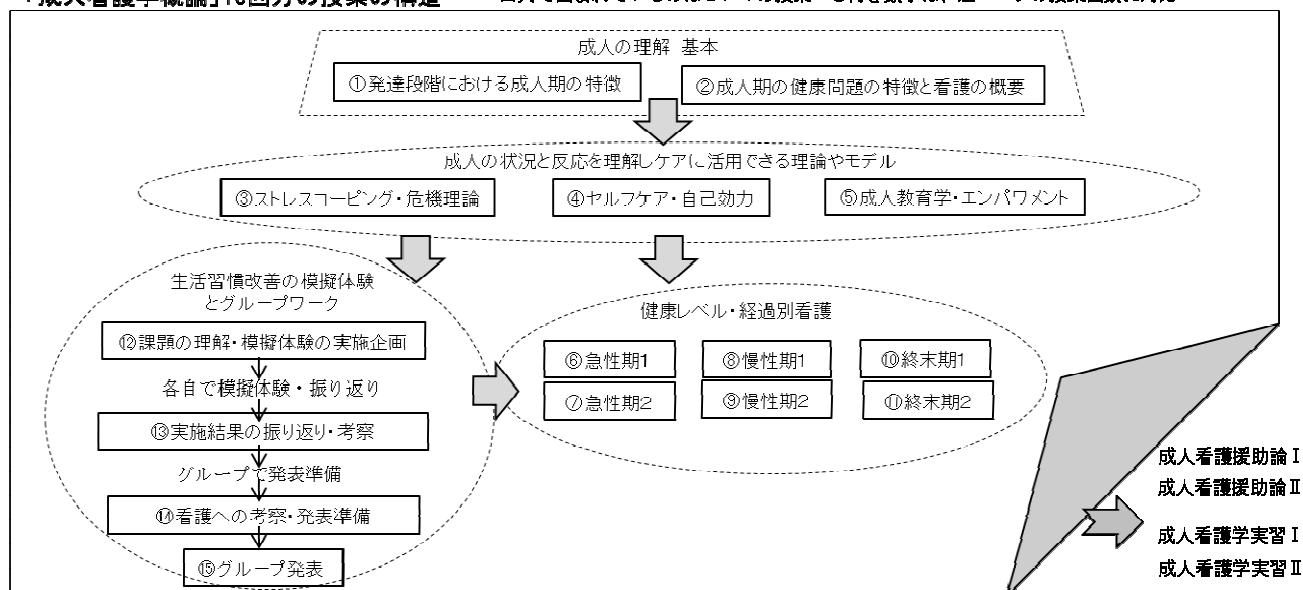
【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護学概論	501	2前	必	2単位 30時間	講義	木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○水野照美（MIZUNO, Terumi）、松下由美子（MATSUSHITA, Yumiko）、鈴木真理子（SUZUKI, Mariko）、 小山智史（KOYAMA, Tomonori）、吉岡 恵（YOSHIOKA, Megumi）、 阿藤幸子（ATO, Sachiko）、塩入とも子（SHIOIRI, Tomoko）、宮澤美帆（MIYAZAWA, Miho）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義の後、教室で質問を受けます / 別途面談希望の場合は、対面またはメールで日程調整をします。 水野（5号館2階203）：t-mizuno、松下：y-matsushita（5号館2階206）、鈴木（真）（1号館2階217）：m-suzuki、 小山（1号館3階320）：t-koyama、吉岡（5号館2階210）：m-yoshioka、阿藤（5号館2階209）：s-ato、 塩入（5号館2階助手室）t-shioiri、宮澤（5号館2階助手室）m-miyazawa メールアドレスは、上記の後ろに、●saku.ac.jp						
授業の概要						
成人期にある対象の身体・精神・社会的な健康上の特徴を理解し、対象の成長・発達を促す成人看護の中心概念と その理論について学ぶ。また、成人期にある人々の主要な健康上の諸問題を学び、援助のあり方、健康的な生活習慣 の理解など成人に対する看護活動の基本について学ぶ。						
到達目標						
1. 成人の発達段階における特徴および健康問題の特徴を説明できるようになる 2. 成人の健康レベル（急性期、慢性期、終末期）の特徴と必要な看護の概要を説明できるようになる 3. 成人の健康上の問題解決に理論やモデルを活用する仕方がわかる 4. 模擬体験とグループワークを通して、健康障害による生活調整が必要な成人の体験と反応を説明でき、看護につ いて考察できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
この科目は、「専門教育科目」の「看護の展開」のなかでも2年次前期に配置され、最も早く始まる科目です。「成人 看護学」という幅広い（講義科目も実習科目も複数あり、単位数が多い）領域の基盤となる科目です。 カリキュラムマップでは、「Ⅳ 看護実践能力の基盤」の項にあり、各領域の概論のなかでスタートとも言える配置 になっています。この科目は、「成人看護…」という名称の複数科目の基盤であるという関係から、「Ⅴ 多様な健康 のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」の項にも重要なかわりを持ちます。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、発達段階における成人期の特徴	講義	水野			
2	成人期の健康問題の特徴と看護の概要	講義	松下			
3	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル1. ストレスコーピング、危機理論	講義	松下			
4	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル2. セルフケア、自己効力	講義	水野			
5	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル3. 成人教育学、エンパワメント	講義	水野			
6	急性期1：健康状態が急激に変化する／した成人とその家族の状況と看護	講義	鈴木（真）			
7	急性期2：健康状態が急激に変化する／した成人とその家族の状況と看護	講義	鈴木（真）			
8	慢性期1：健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする成人とその家族 の状況と看護	講義	松下			
9	慢性期2：健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする成人とその家族 の状況と看護	講義	松下			
10	終末期1：健康状態の維持回復が困難な成人とその家族の状況と看護	講義	特別講師			
11	終末期2：健康状態の維持回復が困難な成人とその家族の状況と看護	講義	水野			
12	グループワーク1 進捗状況面接「課題の理解・模擬体験の実施企画」	演習	成人教員			
13	グループワーク2 進捗状況面接「模擬体験の実施結果の振り返り・考察」	演習	成人教員			
14	グループワーク3 進捗状況面接「看護への考察・発表準備」	演習	成人教員			
15	グループワーク発表 10分×8G	演習	成人教員			
15回の授業の構造は、右ページの図へ						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 看護の科目の学習は、単に暗記ではなくて、既習の科目とのつながりをつけて理解し、将来は実際に活用する覚悟をもつ必要があります。たとえば実習において、患者さんや看護師さんに根拠や理由を伝えられなければ、学生の皆さんへの理解や信頼は得られません。このため、選択式で正答したとしても、根拠や理由を自分の言葉で説明できるように意識して取り組みましょう。 ・予復習：テキストの当該範囲、紹介された参考文献に目を通す（1時間×15回＝15時間） ・小テスト：テスト前は出題範囲を復習し、テスト後は理解度を確認する（2時間×5回＝10時間） ・模擬体験前：事前に、既習科目（「健康障害と治療」「食と健康」）・高校までの「家庭科」等を振り返る。これまでの自身の食生活や生活習慣を記述しアセスメントする。サブテキスト「なにをどれだけ食べたらいいの？」や、生活習慣・食事に関する図書や資料を確認する（5時間） ・模擬体験：1週間継続。実施した内容を記録し、「大人の健康」について考察する。サブテキスト参照。（10時間） ・グループ発表準備：資料を作成する。グループメンバーで協議する。提出資料は、グループ担当教員の指導を受けて、許可を得るまで加筆修正をする。プレゼンテーションの準備と練習をする（10時間） ・レポート作成：構成を検討する。一度論述する。読み直してわかりにくい部分を書き直す×2回。（10時間）
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：小松浩子（2018）．系統看護学講座 成人看護学総論．医学書院 香川芳子（2016）．なにをどれだけ食べたらいいの？第3版．女子栄養大学出版部 参考文献：授業内で紹介
成績評価の方法・基準 ■ 筆記試験（60％） ■ その他（小テスト20％） ■ レポート（15％） ■ 授業参加状況（グループワーク5％）
到達目標 1，2，3について確認 到達目標 3，4について確認
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ・小テストは採点をして、次週を目途に返却します。解説が必要な場合は、専任教員の担当時間内に行います。 ・小テストの達成度が十分でない場合は、やり直し課題を課することがあります。 ・レポートは、コメントをつけて返却します ・定期試験の点数をお伝えすることはできません。個別面接で開示も可能ですが、写真撮影やコピーはできません。
担当教員からのメッセージ ・講義とグループワークを組み合わせるため、学習の順序と日程は初回授業にて説明します ・成人看護学は、看護学実習や国家試験準備の基盤となる領域です。この「概論」では、成人看護学へのイントロダクションとして、食生活の模擬体験や視聴覚教材等の身近な題材をきっかけにして、「成人（おとな）の暮らし」と健康とのつながりを考えましょう

「成人看護学概論」15回分の授業の構造

四角で囲まれているのは1コマの授業 ○付き数字は、左ページの授業回数に対応



【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
成人看護援助論Ⅰ（急性期）	502	2後	必	2単位 60時間	講義 演習	金1, 金2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○鈴木真理子（SUZUKI, Mariko） m-suzuki●saku.ac.jp（研究室 1号館2階1217） 水野照美（MIZUNO, Terumi） t-mizuno●saku.ac.jp（研究室 5号館2階203） 小山智史（KOYAMA, Tomonori） t-koyama●saku.ac.jp（研究室 1号館3階1320） 塩入とも子（SHIOIRI, Tomoko） t-shioiri●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
鈴木真理子、水野照美、小山智史 いずれも授業日の12:10～12:50（講義室または研究室） メールにて質問ならびに面談の予約は常時受け付けます。						
授業の概要						
成人期における主要な疾病の病態や症状、徴候、経過、侵襲的治療や検査等を理解し、看護過程を展開するために必要な知識や技術について学習する。対象とその家族に対する生命の維持・回復に向けた看護の基礎的知識と看護援助方法について学習するとともに、健康増進対策など保健活動についても学ぶ。						
到達目標						
1. 侵襲的治療（主に手術侵襲）による身体機能の変化についてのメカニズム、生命や生活に及ぼす影響や心理社会的反応を考え、理解し、説明できるようになる。 2. 手術をうける対象とその家族の生命の維持、回復の促進、健康的な日常生活への移行のための必要な具体的な看護について考え、示すことができるようになる。 3. 身体機能に急激な変化が起こった急性期の成人の生命と生活を支えるための必要な看護について考えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「看護実践能力の基盤」での学びをベースにして、「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」を養い、実習や将来の実践につなげるための授業科目です。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	授業ガイダンス	講義	鈴木			
2	周手術期看護①（概要・術前の看護）	講義	鈴木			
3	周手術期看護②（術中の看護）	講義	鈴木			
4	周手術期看護③（術後の看護）	講義	鈴木			
5	周手術期看護④（呼吸器系）	講義	鈴木			
6	周手術期看護⑤（生殖器系）・小テスト①	講義	鈴木			
7	周手術期看護⑥（消化器系）	講義	鈴木			
8	周手術期看護⑦（腎・泌尿器系）	講義	鈴木			
9	周手術期看護⑧（循環器系）	講義	小山			
10	周手術期看護⑨（運動器系）・小テスト②	講義	小山			
11-12	グループワーク①②	演習				
13	手術室看護	講義	特別講師			
14	周手術期看護⑩（回復促進・退院にむけて）	講義	鈴木			
15	生体防御機能障害の急性期にある対象に必要な看護	講義	鈴木			

16	グループワーク③	演習	
17	脳神経機能障害の急性期にある対象に必要な看護	講義	水野
18	感覚機能障害の急性期にある対象に必要な看護・小テスト③	講義	水野
19	循環機能障害の急性期にある対象に必要な看護	講義	小山
20	呼吸機能障害の急性期にある対象に必要な看護	講義	鈴木
21-22	救急救命処置が必要な成人とその家族への看護・小テスト④	講義	特別講師 小山
23-24	BLS演習＋グループワーク④	演習	
25-26	グループワーク⑤⑥	演習	
27-28	グループワーク発表	演習	
29	グループワーク発表内容への講評	講義	鈴木
30	侵襲的治療（手術以外）や検査を受ける患者への看護	講義	鈴木
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
毎回の講義内容に関連する既習科目（「形態機能学」「感染・免疫学」「病態生理学」「健康障害と治療」「薬理薬剤学」など）で習得内容について予習・復習（各30分程度）をして下さい。 但し、既習科目で学んだことを看護実践で生かせる知識にするためには、「調べる・覚える」レベルから「理解し、自分の言葉で説明できる」レベルにすることが必要です。例えば、疾患ごとに出現する症状や徴候などについて「何故そのような症状が出現するのか」まで掘り下げて考え、理解していく学習を重ねて下さい。 またグループワークは全て授業時間内で行いますが、そのグループワークに臨むにあたり取り組む個人ワーク（約2時間×6回分）を予習・復習につなげるようにして下さい。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：雄西智恵美・秋元典子（2015）. 周手術期看護論 第3版. ヌーヴェルヒロカワ 鎌倉やよい・深田順子（2008）. 周術期の臨床判断を磨く. 医学書院 参考図書：竹内登美子（2012）. 高齢者と成人の周手術期看護 講義から実習へ2 術中/術後の生体反応と急性期看護. 医歯薬出版 北島政樹（2017）. 臨床外科看護各論 第9版. 医学書院 矢永勝彦（2017）. 臨床外科看護総論 第11版. 医学書院 他、授業の中で紹介します。			
成績評価の方法・基準			
1. 定期試験：70％ 2. 小テスト（4回）：20％ 3. 課題レポート：10％ グループワークで取り組む課題とリンクしたものを、時間外学修として個人ワークとして提示します。それを「課題レポート」とみなし、授業最終日に提出してもらいます。 ※グループワークには個人で取り組んだものを持ち寄り、お互いの考えを出し合った上でグループとしての見解を導き出すこと。個人ワークの内容がグループワークの成果物に反映されることが望ましい。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
定期試験の結果についての問い合わせには応じますが、原則問題の開示はしません。 小テストは採点終了後、概ね翌週に返却します。基本的に小テストは正解／不正解だけではなく、問われた内容の理解度を深めるためのツールの1つとして活用して下さい。解答について授業中に詳しい解説はしませんが、授業資料と既習科目をつなげることで理解できる内容です。一定の点数に達しなかった場合は、レポートを課したり、面接を行う場合もあります。 グループワークで取り組んだ課題内容に関しても記録用紙にコメントを入れ返却します。			
担当教員からのメッセージ			
3年次の領域別実習、国家試験、将来の臨床実践等に大きく関わる科目です。 急性期看護を展開するためには、病態や治療など医学的知識を理解していることが絶対条件となります。専門基礎科目で学んだ「形態機能学」「感染・免疫学」「病態生理学」「健康障害と治療」「薬理薬剤学」などの知識を本科目の学びに生かして下さい。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
老年看護学概論	511	2後	必	2単位 30時間	講義	水3, 水4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○征矢野あや子（SOYANO, Ayako） 研究室 5号館3階302 安川揚子 （YASUKAWA, Yoko） 研究室 1号館2階1213						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の12:10-12:50, 17:00-17:50 他の時間も歓迎します。実習指導等の都合で不在のこともあるため、あらかじめメール等で在室をご確認ください。 征矢野あや子 a-soyano●saku.ac.jp 安川揚子 y-yasukawa●saku.ac.jp						
授業の概要						
老年看護学を学ぶにあたっての考え方の基本、老年看護と他の学問領域あるいは社会制度との関連を理解し、老年看護で学ぶべき内容の基本を理解する。そして、高齢者の身体的、心理精神的、社会的特徴と、個々の生きてきた生活史、社会状況の変化から高齢者を理解することを学び、高齢者の生き方を理解する。また、加齢や社会的役割などの変化がどのように生活に影響するのかを理解し、様々な健康レベルにおける看護援助のあり方、チームで関わることの必要性を学ぶ。						
到達目標						
1. 高齢者の身体的・心理精神的・社会的特徴が理解できる。 2. 老年期の心身の加齢変化と生活機能の変化について理解し、それが高齢者の生活にどのように影響しているかを理解できる。 3. 高齢者の生活史を社会変化との関連で理解できる。 4. 老年看護におけるチームアプローチについて理解できる。 5. 高齢者の健康づくりについて理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」に位置付けられていますが、本科目は自分と異なる文化や生活背景を持つ人々の理解、健康レベルに関わらずヒトの加齢変化を学ぶことなどが含まれており、「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」の涵養にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	老年看護・老年看護学とは 人口の高齢化に伴う社会の変化に伴う高齢者の保健医療福祉制度の変遷、老年看護学の誕生とその歩み、また未来について理解する。めまぐるしく変化していくシステムや高齢者ケアに対する価値観の中で、高齢者ケアはどうあるべきかを考える。	講義	堀内			
2	高齢者の理解 健康指標、ライフサイクル、社会参加など、高齢者を多様な切り口から理解する。またそのような高齢者にとっての健康とは何かを考える。	講義	堀内			
3	高齢者が生きてきた世界 高齢者が歩んできた人生の背景となる文化や生活を知る。高齢者のライフヒストリーを知る方法とその意味を学ぶ。	講義	征矢野			
4	高齢者の身体機能の生理的变化 加齢変化と老化、特に身体機能の加齢変化について理解する。	講義	征矢野			
5	高齢者の心理社会機能の変化 老いの自覚、喪失体験などをきっかけとする高齢者の心理、認知機能の加齢変化などについて理解する。	講義	征矢野			
6	加齢変化と高齢者の生活 高齢者を見て不思議に感じる事柄について、加齢変化から理解を試みる。	グループ ディスカッ ション	征矢野			
7	高齢者看護の基本 バイタルサインに現れる加齢変化や生活機能のアセスメント方法について学ぶ。	講義	征矢野			

8	高齢者看護の基本 高齢者の看護を行う上での基本的な姿勢、高齢者の権利を擁護するための看護職の姿勢と役割、高齢者の看護に関わる諸理論を学ぶ。	講義	征矢野
9	高齢者をとりまく課題についてのグループディスカッション 「事故予防と身体拘束」について2つの立場から資料を用意し、小グループで話し合う	グループ ディスカッ ション 講義	征矢野
10	高齢者の住まい 高齢者の心身社会機能に応じた住環境のあり方、高齢者向けの多様な住宅について理解する。	講義	安川
11	高齢者をとりまく社会 高齢者をとりまく家族、コミュニティ、制度（介護保険制度、成年後見制度など）について理解する。	講義	征矢野
時間外	筆記試験		
12	世界の高齢者とその看護 多様な文化、生活背景を持つ高齢者の健康や生活などについて理解する。2018年度はブラジルの高齢者の健康の特徴とケア、保健政策について学ぶ。	講義	ゲスト
13	人生の最終段階にある高齢者の看護 老年期の終末期看護の考え方、高齢者が生を全うすることを支えるということについて考える。	講義	征矢野
14	グループディスカッションのための話題提供 高齢者のヘルスプロモーション 高齢者にとっての健康増進の意味を知り、支援方法を理解する。	講義	征矢野
15	高齢者をとりまく課題についてのグループディスカッション 「食べる楽しみと誤嚥性肺炎再発のリスク」について2つの立場から資料を用意し、小グループで話し合う	グループ ディスカッ ション	征矢野
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
事前学習（計20時間程度） ① 教科書の指定ページの予習 ② 高齢者体験（任意） ③ グループディスカッションのための資料作成 事後学習（計20時間程度） ① EBN実習Ⅱの担当患者または高齢者へのライフヒストリーの聴取体験 ② EBN実習Ⅱの担当患者または高齢者へのBADL/褥瘡発生リスクに関するアセスメントツールの使用体験 ③ ディスカッションのまとめ、筆記試験対象外の講義のまとめ ④ 講義の復習 推奨する時間外学習（計20時間程度） ① 高齢者やその家族の手記等の講読 ② 高齢者の健康や福祉についてのテレビ番組、高齢者を題材とするドキュメンタリー映画等を視聴 ③ ボランティア活動を通じた高齢者との交流			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：堀内ふき他編著『高齢者の健康と障害』メディカ出版 堀内ふき他編著『高齢者看護の実践』メディカ出版 参考文献：授業内で適宜紹介する			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（50%） ディスカッションのための資料作成（20%） 授業への参加状況：ディスカッション後のレポート/コメントシート、レスポンスでの発言など（30%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・学期の途中で筆記試験を行い、結果の開示と解説を行います。 ・レスポンスでのコメント〔live画面〕を受講者のみに公開します。メモを取る必要がなく他者の発言に集中できます。			
担当教員からのメッセージ			
・老年看護学では、高齢者を「患者」である前にひとりの「人」として理解することから学修を始めます。 ・地域・在宅看護学、精神看護学、形態機能学、保健衛生学...等々、既習のすべての学びと結び付けて学んでください。 ・教科書にはメモ用の余白が用意されています。たくさん書き込んで自分の教科書を育ててください。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
精神看護学概論	521	2後	必	2単位 30時間	講義	火2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○坂江千寿子（SAKAE, Chizuko） chi-sakae●saku.ac.jp 研究室 5号館3階307 柿澤美奈子（KAKIZAWA, Minako） m-kakizawa●saku.ac.jp 研究室 5号館2階207						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業日の夕方（17:00-18:00） 質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
精神的健康の保持増進及び精神的疾病の予防に関する要因を理解し、心の働きとメカニズムを知り、行動に示される心の表れを理解する。また、精神医療福祉に関する国内外の歴史を概観し、精神障がい者を取りまく様々な課題について理解するとともに、看護に必要な相互作用とコミュニケーション技法の基本を学ぶ、精神に障害のある方の人権や福祉、地域での生活のあり方等を含めて看護の役割を学ぶ。						
到達目標						
1. 精神保健看護の理念、精神看護の治療と看護の機能、専門性について理解できる。 2. 人間の生涯にわたるこころの発達過程とその危機や障害を理解できる。 3. こころの健康を支える精神看護について学びを進めるための基盤となる諸概念を説明できる 4. 対象者- 医療者との治療的関係の成立過程、看護師の自己を活用したコミュニケーション及びセルフマネージメントの方法を理解し活用できる。 5. 精神障がい者を取りまく環境及び歴史的変遷を学び、精神障がい者のおかれている立場を多角的な視点から検討することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」、「看護実践能力の基盤」として必要な能力を培う科目である。3年次以降の「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」、「様々な領域の専門家と連携し協働できる能力」に発展していく。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	1. 精神の健康を保持増進するための看護とは何かを考える	講義	坂江			
2	2. 精神看護の機能と役割を学ぶ	講義	坂江			
3	3. こころの看護に必要な基礎理論を学ぶ					
	1) 発達理論・自我心理学	講義	坂江			
4	2) 自己心理学・対象関係論・こころと行動	講義	坂江			
5	3) 人格の発達にかかわる基礎理論	講義	坂江			
6	4) ライフサイクルに応じた精神発達と危機（1）	講義	坂江			
7	ライフサイクルに応じた精神発達と危機（2）	講義	坂江			
8・9	4. 現代社会におけるメンタルヘルスの重要性を学ぶ					
	1) 新聞記事を用いて現在のメンタルヘルスの課題を学ぶ（グループワーク）	講義・演習	坂江			
10	5. こころの健康を保つための理論と技術					
	1) 危機と危機介入 2) ほか	講義	坂江			
11	2) 対人関係とコミュニケーション コミュニケーション技術の実際	講義・演習	坂江			
12・13	6. 精神医療福祉の現状と課題を学ぶ	講義	柿澤			
	諸外国（欧米）と日本の精神医療・看護の歴史的変遷					
14	7. 精神障がい者の回復プロセスへの支援と権利擁護	講義	外部講師 （弁護士）			
15	8. 精神看護における専門性について理解する	講義	外部講師 （リエゾンナース）			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 1年次に履修した科目の中でも特に「人間存在と道徳意識」「人間心理と人間行動」「人間関係とコミュニケーション」と関連している科目です。したがって、本授業に臨む際には、予習と事前の学習準備をして臨んでください。授業後は、3年次で活用できる配布資料の整理や知識の定着をはかる重要事項ノートの作成など、工夫が必要です。授業中は短時間での意見交換を行います。できるだけ多くの学生の意見交換できるように組み合わせを工夫し、ランダムな席順をその都度、指示します。 【予習】 各授業前に、テキストの当該箇所を一読し、理解できない用語を調べて、疑問個所に付箋を付ける等の事前学習のために毎回1時間を必要とします。 ・8回目の事前課題は1時間を要します。 精神看護に関する新聞記事課題：1. その記事を選んだ理由、2. 記事の情報 記事のタイトル等、3. 記事の概要 4. その記事に関して、調べた内容 テキスト参照 ※新聞記事は、2018年1月1日～掲載された記事に限ります。 【グループワーク】 授業内の演習・グループワークは、ディスカッションの時間です。各自が責任を持って準備して取組んでください。 【復習】 授業をふりかえり、重要事項をノートに工夫して自分で分かりやすいようにまとめましょう。 疑問個所に付箋を付ける等の事前学習を行った場所を理解できたかどうか確認し、まとめるために20分を要します。理解が不十分な場合は、オフィスアワーやメールを活用して、疑問を解決しましょう。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト 岩崎弥生/渡邊博幸編(2015). 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論, 精神保健. メジカルフレンド社. 岩崎弥生/渡邊博幸編(2016). 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メジカルフレンド社. 参考文献 授業内で適宜紹介する。
成績評価の方法・基準 1. 筆記試験（90%） 定期試験1回で評価する。全範囲から出題する。合計点の90%を評価する。 2. 提出課題（10%） 新聞記事のレポート課題。 初回オリエンテーション時に課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。他の科目の課題も考慮し、計画的に課題を遂行する。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 定期試験は、返却しません。 提出した課題は、原則コメントを記述して精神看護援助論の授業にて返却する予定です。
担当教員からのメッセージ こころの健康は、誰にとっても、いつでも、大事な問題です。本授業では、個々の授業内容を自分のこととして、自分に引きつけて、考える努力をしてみましょう。授業中は短時間での意見交換を行いますので、主体的に参加してください。また、疑問や質問はそのままにしないで解決して、理解を深めてください。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
小児看護学概論	531	2後	必	2単位 30時間	講義	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○橋本佳美（HASHIMOTO, Yoshimi） y-hashimoto●saku.ac.jp（研究室 5号館3階308） 鈴木千衣（SUZUKI, Chie） c-suzuki●saku.ac.jp（研究室 5号館3階307） 小林 睦（KOBAYASHI, Mutsumi） m-kobayashi●saku.ac.jp（研究室 5号館2階207） 石坂俊也（ISHIZAKA, Toshiya） t-ishizaka●saku.ac.jp（研究室 1号館2階1221）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○橋本佳美 原則授業日 12:10-12:50 13:00-14:30（研究室） 別途メールで相談 鈴木千衣 原則授業日 12:10-12:30（研究室） 別途メールで相談 小林 睦 金曜日 16:00-17:00（研究室） 別途メールで相談 質問や面談は、実習に出ていますので、メールで予約を取るようになしてください。 オフィスアワー以外の時間でも調整します。						
授業の概要						
子ども観および小児医療や小児看護の歴史的変遷を学ぶとともに、保健医療における小児看護の理念と役割を理解する。また、新生児から思春期までの成長・発達と各発達段階に必要な養護を理解する。また、子どもと家族の生活を理解し、生活環境が子どもの成長発達に及ぼす影響を考える。						
到達目標						
1. 小児看護の対象としての「子ども」とはどのような存在か、考察できる。 2. 小児看護の理念をもとに、小児看護の対象を理解し役割を考え表現できる。 3. 小児保健医療および小児看護の変遷を踏まえ、これからの小児看護における課題について考察できる。 4. 子どもの成長発達と成長発達の評価方法を理解し、実際にその評価方法を使用し評価できる。 5. 各発達段階における子どもに必要な養護を理解し、子どもと家族に対して必要な援助を考察できる。 6. 社会的背景を踏まえて、最近の子どもの日常生活と健康にかかわる問題について考察できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」となる力を身につける授業科目です。「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」を身につけるために必要な科目であり、「学問を深め真理を探究していく態度・能力」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション：担当教員の紹介、この授業の進め方、授業を理解するためのワークシート、レポート課題、グループワーク課題とその進め方について説明 ビデオから子どもの本来持っている力を分析しレポートする（時間内）	講義	橋本			
2	小児看護の理念と役割 /子ども観の変化 社会の変化と子どもの生活、小児の特徴から小児看護の役割を考える グループワーク：小児各期の健康にかかわる問題について書かれた新聞記事、あるいは報告書を提示し、グループワークで各グループの課題を明確にする。	講義/GW	橋本			
3	小児保健医療の変遷/ 過去から現在を捉え、今後の小児看護の課題を考える 子どもに関する法律の制定や国の動き、そのもととなる基本的なデータから検討する。	講義	鈴木			
4-5	子どもと遊び：子どもの遊びを体験し、子どもにとっての遊びの意義を考える 実際に体を動かして遊び、子どもが遊びの中で感じること、学ぶことについて考える。その後、現代の幼児期の子どもの生活や遊びについて講義を受け、子どもにとっての遊びとはどのような意味を持つものか、考えを深める。	演習/講義	特別講師			
6	子どもと生活 子どもを取り巻く環境と健康問題：各グループの課題を明確にし、その課題のために何をどのように調べるのか計画を立てる。	GW	橋本			

7-8	子どもの成長発達と健康生活 乳児期 1, 2 母胎外生活に移行する時期の生理的变化、生理的变化が、子どもの基本的な生活と行動をどのように変えるのか考える 乳児期の成長発達と養育上の問題（事故、虐待等）、乳児期の健康診査のポイントと親子支援について考える	講義	橋本
9	子どもの成長発達と評価：子どもの成長発達とその評価方法を学ぶ 子どもの成長発達評価の実際：事例を提示し、実際に評価方法を用いて評価する。	講義/演習	鈴木
10-11	子どもの成長発達と健康生活 幼児期 1, 2 幼児期の子どもの発達とその特徴、養護について、 幼児期の生活と健康上の問題、基本的生活行動を身につけるための支援	講義	橋本
12-13	子どもの成長発達と健康生活 学童・思春期 1, 2 学童・思春期の子どもの成長発達の特徴と養護について 生活習慣確立において重要な事項と現状について 起こりやすい健康問題とその背景	講義	小林
14-15	グループワーク発表と討議 まとめ 子どもを取り巻く環境と基本的生活行動への影響、小児看護の役割	GW/講義	橋本

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習 1. 授業開始時に授業の進め方を説明し、授業に使用する参考図書、文献、ビデオを提示します。 授業計画の詳細を提示しますので、授業内容を見て予習してください。 2. 各授業ごとに課題を提示しながら授業を進めます。 配付されたワークシートを完成させ、資料や文献は読んでから授業に出席してください。およそ30分程度の時間を要します。 3. 授業に必要な部分はテキストを読んで出席してください。	復習 1. 各授業時に提示される目標や課題を手掛かりに、授業のレジメ、資料を基に復習し、ノートに必要なことを整理してください。授業後その日のうちに復習する習慣をつけましょう。 2. 小テストは返却しませんが、小テストが終わったら、出題された問題をメモし、その日のうちに復習してください。質問は随時受け付けます。 3. グループワークは授業外の時間を使うことが多いです。その時々目標点を一緒に整理していきますが、短時間に有効な話し合いができるよう工夫しましょう。
--	--

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：系統看護学講座 小児看護学概論 小児看護学総論 小児看護学① 医学書院
参考文献：文献リストを提示する。また、必要によってその都度提示する。
国民衛生の動向を使用することがあります。

成績評価の方法・基準

- 筆記試験
定期試験50%、小テスト10%で評価します。
小テストは、毎回前回の授業の課題にそって出題します。定期試験は、全範囲から出題します。
- レポート（30%）：課題1、課題2、課題3はそれぞれ10%です。
- グループワーク自己評価（10%）自己評価表をグループワーク発表会の時に渡します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ①小テストの結果については、希望者に面接して直接お話しします。あわせて学習方法についても相談にのります。
- ②レポートは、小児看護援助論の時にコメントをつけて返却します。

担当教員からのメッセージ

子どもの成長発達はダイナミックであり、私たちも含めた子どもを取り巻く環境が子どもと家族の生活に大きく影響します。そのため、ニュースや新聞記事など子どもの問題がどのように取り上げられているのかも関心もってみてください。授業に関係する図書、文献、ビデオは、文献リストにあげていますので、活用してください。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
母性看護学概論	541	2後	必	2単位 30時間	講義	月4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○弓削美鈴（YUGE, Misuzu） 櫻井綾香（SAKURAI, Ayaka） 中田覚子（NAKATA, Satoko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎週木曜日：12時10分～12時50分 または 16時20分～18時 弓削 m-yuge●saku.ac.jp （研究室）5号館3階 310 櫻井 a-sakurai●saku.ac.jp （研究室）1号館2階 1214 中田 s-nakata●saku.ac.jp （研究室）1号館1階 1106 質問はメールでお待ちしています（随時）。オフィスアワー以外の面談予約もメールで可能です。						
授業の概要						
女性のライフサイクルと役割・機能の変化について理解する 各ライフステージにおける母性とその家族の特性を身体的・心理的・社会的側面からとらえ、母性の育成や母子関係、親子関係の形成等について多面的に理解し、母性保健及び看護活動について考察する						
到達目標						
1. 母性の概念と母性看護の意義・役割・歴史について理解する 2. 我が国の母子保健統計及び母性看護に関する法律や施策について説明できる 3. 母性看護における倫理的課題と責任について理解できる 4. 母性看護で用いられる代表的な理論と活用について理解できる 5. 生殖に関する形態機能的特徴について説明できる 6. ライフサイクルからみた女性の健康課題と看護について説明できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」の基礎となる力を身に付ける授業科目であり、母性領域の基本的な対象理解、看護の基本を学ぶ科目である						
授業計画						
回数	授業内容・目標	方法 (担当)	事前・事後学習			
①	オリエンテーション 母性（父性）の概念と母性看護の意義 「母性とは」「母性看護の対象」「リプロダクティブヘルス」について説明できる。	講義 (弓削)				
②	母子の健康と母子保健統計 母子保健統計から母子の健康状態を総合的に理解し、課題を見つけることができる。	講義 (中田)	母子保健統計のデータをアセスメントし、日本の母子の健康課題が何かを整理する（事後）約45分			
③	母性領域の看護者の法的責任と倫理 母性看護における法的役割と倫理的課題について理解し、看護師として果たすべき役割について意見交換できる。	講義 (弓削)				
④	母性看護で用いる理論 「親となる過程」「愛着理論」の理論の概要を理解し、母性看護の対象の捉え方や援助方法の方向性について説明できる。	講義 (弓削)				
⑤	母性看護の法律と施策 母性看護の対象者への支援に必要な社会資源について説明できる。	講義 (弓削)	男性の育児休業取得率について考察する。（事前）約45分			
⑥	セクシュアリティとジェンダー ☆ミニテスト① 性を学ぶ視点、性の分化・発達について理解し、性の健康を説明できる。	講義 (弓削)	性の多様性としてLGBTの人へのケアについて考察する（事後）約45分			
⑦	女性生殖器の形態的特徴と性感染症 性感染症の動向と特徴、検査・治療について説明できる。	講義 (弓削)				
⑧	性周期と生殖機能 ☆ミニテスト② 妊娠と女性のライフサイクルにおける心身の状態を左右する内分泌機能、月経周期について説明できる。	講義 (弓削)				

⑨	遺伝、人の発生、性分化と発達 遺伝と遺伝疾患の基礎知識、受精と妊娠のメカニズムについて説明できる。	講義 (弓削)	
⑩	不妊症カップルの理解と看護 ＊特別講師：不妊認定看護師 宮澤香代子 不妊症のカップルの特徴を理解し、その検査、治療を受ける看護師の役割について説明できる。	講義 (宮澤)	
⑪	虐待・性暴力を受けた子どもと女性の理解と看護 家族病理としての子どもの虐待、DV、性暴力の概念を理解し、支援のための基本的知識を説明できる。	講義 (櫻井)	
⑫	周産期の喪失と看護 周産期にある在日外国人女性の健康問題 周産期の死を体験した女性や家族のケアを考察することができる。また、周産期にある在日外国人女性の健康問題を理解しそのケアを考察することができる。	講義 (櫻井)	周産期の死を体験した人の文献を紹介し、考察する（事前）約60分
⑬	ライフサイクルから見た思春期の健康課題 思春期の性的特徴、月経異常、人工妊娠中絶を受ける人への支援について説明できる。	講義 (弓削)	
⑭	ライフサイクルから見た性成熟期の健康課題 家族計画の目的を理解し、各種避妊方法について説明できる。	講義 演習 (櫻井)	自分の出生に関する親への取材、母子健康手帳等による「私のルーツ」について整理する（事前）約60分
⑮	ライフサイクルから見た更年期の健康課題 更年期女性・男性の特徴を理解し、更年期障害をもつ人への支援について説明できる。	講義 (中田)	更年期男性・女性（両者）の健康課題に関する新聞記事を紹介し、支援のあり方について考察をする（事前）約60分
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
事前・事後課題について ①各授業日の12時30分までに弓削研究室BOXに提出とする。やむを得ない事情により提出が遅れる場合は事前に教員に連絡する。事前の連絡なく、課題の提出が遅れた場合は評価としない。 ②表紙（科目名、課題名、提出日、学生番号、氏名）をつけて提出する。 ③レポートの最後には、使用した文献（引用・参考文献）、文字数を必ず明記する。 ④レポートはすべて手書きとする。計画的に準備してください。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：森恵美, 他（2017）. 母性看護学概論 母性看護学1. 医学書院. 参考文献：母子衛生研究会編集（2018）. わが国の母子保健 平成29年. 母子保健事業団.			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験 90％ （内訳：ミニテスト①13％ ②12％、期末テスト65％） ミニテストの追試は実施しない。 2. 事前事後課題 9％（1.5点×6回＝9点分） 課題レポート評価基準：倫理的（飛躍や矛盾がない）に述べられている。評価基準について別途提示する。 評価外として ①期限内に提出がない ②800字に満たない ③剽窃がある 3. 授業参加状況 1％ 20分以上の遅刻、早退は欠席とする。 質問や意見交換の際の自発的な発言・態度を評価する。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・毎回の授業に関することは、メールで問い合わせると、次の授業までに直接フィードバックが受けられます。 ・ミニテストはその日の授業で結果が分かります。 ・事前事後課題レポートの結果は、提出から2週間程度を目安に評価をつけて返却します。			
担当教員からのメッセージ			
・授業前に該当項目のテキストページを読み授業に臨んでください。 ・第7回、第9回の講義内容は図書館にあるDVDで復習すると理解が深まります。 ・本科目は女性の一生、性と生殖にかかわる男女の健康支援の科目となります。自身に置き換えて考えると興味関心が深まると思います。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護学概論	551	2後	必	2単位 30時間	講義	木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○細谷たき子（HOSOYA, Takiko） 佐藤美由紀（SATO, Miyuki） 鶴岡章子（TSURUOKA, Shoko） 依田明子（YODA, Akiko） 関本真奈美（SEKIMOTO, Manami）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
水曜日12:30－13:00及び放課後 細谷：t-hosoya●saku.ac.jp（研究室5号館2階204） 佐藤：m-sato●saku.ac.jp（研究室5号館3階304） 鶴岡：s-tsuruoka●saku.ac.jp（研究室5号館3階305） 依田：a-yoda●saku.ac.jp（研究室1号館2階1214） 関本：m-sekimoto●saku.ac.jp（研究室1号館3階1312）						
授業の概要						
地域における看護活動の概念を、地域看護の対象と機能および活動の場から理解し、人々が地域生活の中で直面する健康問題を、個人・家族・地域の問題として解決・改善するプロセスと看護職の役割、それを支える制度と仕組みについて学ぶ。						
到達目標						
1. 地域看護職の活動する職場、役割と公衆衛生看護の歴史の流れを説明できる。 2. 人々のライフステージや、生活の場と健康との関連と、日本の保健福祉サービスを理解できる。 3. 地域の人々の健康を維持し疾病や障害の発症や悪化を予防するための地域・在宅看護の援助の方法を説明できる。 4. 地域ケアシステムや関連する制度における看護職の役割を説明できる。 5. 学校保健、産業保健における看護活動を理解できる。 6. 地域診断の必要性、定義、実施方法を理解し、学生の居住地域について地域診断できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
看護実践能力の基盤を形成するための授業内容とする。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	地域看護学で何を学ぶか ①地域で活動する看護職の仕事と役割 ②在宅看護と公衆衛生看護 ③公衆衛生看護と予防 ④プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション			講義	細谷	
2	地域看護活動の歴史と発展 ①公衆衛生看護の歴史 ②イギリス・アメリカの初期公衆衛生看護 ③日本の公衆衛生看護の歴史とその特徴			講義	細谷	
3	県と市町村の生涯にわたる保健福祉サービス ①日本の社会保障制度 ②県と市町村の保健福祉サービス			講義	細谷	
4	地域看護学の対象：個人・家族の生活と集団・地域の健康 ①個人、家族、集団、地域の健康 ②地域の健康と支援			講義	細谷	
5	地域の様々な場における看護活動：＊在宅看護における訪問看護活動 ①在宅ケアの概念 ②在宅ケアの対象と援助 ③在宅ケア実施機関と職種 ④在宅療養者の事例			講義	関本	

6	*在宅ケアと地域の看護活動 ①在宅ケア制度とシステム ②在宅ケアマネジメントと担う職種 ③在宅ケアにおける看護職の役割	講義	鶴岡
7	地域看護の展開方法と地域看護職の支援方法 *地域特性と健康問題の把握（地元を知ろう） ①地域診断の必要性 ②地域診断の定義と目的 ③地域診断の方法	講義	細谷
8	*医療機関における健康管理活動 ①健康管理部の看護職の役割と保健予防活動	講義	依田
9	*地方自治体の保健計画と保健事業における地域看護職の役割 ①保健計画策定プロセス ②保健計画策定・実施事例	講義	細谷
10	*市町村（行政機関）における看護活動 ①佐久市の保健師活動の実際	講義	佐久市健康 づくり課
11	*学校保健の法制度 *産業保健の法制度 ①学校保健制度の概要 ②産業保健制度の概要	講義	佐藤・依田
12	*事業所における産業保健活動 ①事業所における産業保健看護活動の実際	講義	産業保健師
13	*地域における結核管理活動 ①結核とは ②なぜ今結核対策が必要か ③結核対策の実施方法	講義	細谷
14	*学校保健における養護教諭の活動 ①小中学校の養護教諭の保健看護活動の実際	講義	養護教諭
15	わたしの住んでいる市・町・村の地域診断（グループワーク） ①地域診断課題の発表 ②地域の課題、強みのアセスメント	演習	細谷・佐 藤・依田
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
授業の内容を事前にシラバスで見て、保健福祉行政論、生活習慣と健康などすでに他科目の授業で学習した事項は確認してから授業に臨む。 授業後に、該当する内容を教科書や参考書で調べ、確認して、その都度確実な知識を積み上げていく。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：『公衆衛生看護学、Jp』インターメディカル社 参考文献：『国民衛生の動向』厚生統計協会 『最新地域看護学総論』日本看護協会出版会 『最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論』メヂカルフレンド社			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（80％） レポート（10％） 授業参加状況（10％）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
試験範囲はすべての講義内容とする。 地域診断のレポート課題は講義13「地域特性と健康問題の把握（地元を知ろう）」において詳細を説明し、課題を演習の時間に発表し、意見交換することで学びを深める。グループ演習で学んだことと地域診断レポートは演習当日に教員に提出する。			
担当教員からのメッセージ			
・12月～1月に学生各自の実家や居住地域の特性について、地域診断を実施するので、行政から各世帯に配布されている広報誌（人口構成、予算、行政方針、地域の社会資源が掲載されている）やパンフレットなどは情報源として役立つので保管しておくとうい。 ・この授業で学習する内容は人の生活や健康のさまざまな側面に関係するので、普段の生活の中で新聞、テレビ、インターネット、書籍などを見て、興味のある情報を蓄積しておくとう役立つ。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護研究方法	601	2 後	必	2 単位 30 時間	講義	火 1
担当教員名（○印＝責任教員）						
○ 鈴木千衣（SUZUKI, Chie） c-suzuki●saku.ac.jp （研究室 5 号館 3 階 307） 八尋道子（YAHIRO, Michiko） m-yahiro●saku.ac.jp （研究室 5 号館 2 階 205） 小山智史（KOYAMA, Tomofumi） t-koyama●saku.ac.jp （研究室 1 号館 3 階 320） 宮原香里（MIYAHARA, Kaori） k-miyahara●saku.ac.jp （研究室 5 号館 2 階 209） 中田覚子（NAKATA, Satoko） s-nakata●saku.ac.jp （研究室 1 号館 1 階 106） 佐藤有妃（SATO, Yuki）（司書） lib●saku.ac.jp （図書館）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○ 鈴木千衣 八尋道子 小山智史 宮原香里 中田覚子 * オフィスアワー以外の面談の予約もメールで可能です。						
授業の概要						
看護研究の意義を理解し、看護研究論文を今後の学修活動や看護活動に生かすための基礎的な能力（看護文献の検索方法の理解、文献を正しく読み取る力）を養う。さらに、看護研究のプロセス（テーマの抽出、研究方法、分析、まとめ、発表方法）を理解し、学生自身の関心事をもとに、文献検討し、テーマの抽出を行い、事例研究の研究計画書の作成を経験する。						
到達目標						
1. 看護研究の意義を理解し、看護研究論文の活用の重要性がわかる。 2. 文献活用の基本的な能力として、文献の検索方法を理解するとともに、文献を正しく読み取る（目的、意義、方法、結果結論、強調点、長所、短所）ことができる。 3. レポートの記載にあたって、文献の用い方を正しく理解できる。 4. 看護研究の一連のプロセスがわかる。 5. EBN 実習を通して、興味を持った看護現象を明確にし、さらに文献検討を通してテーマが抽出できる。 6. 抽出したテーマで事例研究の看護研究計画書が立案できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「学問を深め真理を探究していく態度・能力」身につける授業科目であり、また「看護実践能力の基盤」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容および 授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間	授業方法	担当教員			
1	コースオリエンテーション／研究とは、看護研究とは、看護研究の必要性和意義	講義	鈴木			
2	文献活用 1（文献の活用の意義、文献の種類／研究論文の構成）	講義	鈴木			
3	文献活用 2（文献を検索してみよう① 文献検索の方法）	講義	佐藤（司書）			
4	文献活用 3（文献を検索してみよう②） グループでテーマを決め、各個人がキーワードを決めて、それに関する文献を検索してみる。 復習：①グループのテーマに関する研究文献を検索し読む ②文献「研究論文のクリティークのポイント」を配付するので、次回の授業までに読む（30 分）	演習 GW	司書 鈴木他			
5	文献活用 4（文献を読む①） 1) 検索の結果、その中の 1 文献をグループで持ち寄り、それを元にグループディスカッションし、文献の種類を理解する。 2) 研究論文のクリティークについて理解する	GW	鈴木他			

6	文献活用 5（文献の整理方法と実際、文献カードの作成）	講義 演習	中田
7	看護研究の実際 1（看護研究の意義と必要性／研究のプロセス／研究疑問と研究方法）	講義	鈴木
8	看護研究の実際 2（看護研究の方法）	講義	小山
9	看護研究の実際 3（研究テーマの見つけ方） EBN 実習の体験からテーマを見つける。 グループで、実習の中で興味を持った各自の看護現象について語り、各自テーマを絞っていく。	講義 演習	鈴木他
10	研究計画書の書き方 1 復習：講義を基に、計画書を立案する（1 時間）	講義	宮原
11	看護研究の実際 4（文献を読む②） 自分の気になる看護現象に関するキーワードを拾い出し、文献検索を行い、文献を整理し、テーマを絞り込む。	演習	鈴木他
12	研究と倫理	講義	八尋
13	看護研究の実際 5（文献を読む③） テーマを絞り込んだら、そのテーマに関連する文献をさらに収集して読んで、それらの文献に何が書かれているかまとめる。	演習	鈴木他
14	研究論文の書き方／発表のしかた	講義	鈴木
15	研究計画書の書き方 2（研究計画書を作成してみよう）	演習	鈴木他
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習：テキストの関連事項を読み、毎回 30 分の予習をしましょう。わからないところについては、目印をつけておいて、授業内に疑問を解消すること。		復習：配付した資料には目を通して、重要事項はノートにまとめておきましょう。	
テキスト及び参考書、参考文献・参考 URL など			
テキスト：坂下玲子，宮芝智子，小野博史(2016)．系統看護学講座別巻 看護研究．医学書院。 参考文献：早川和生編著(2012)．JJN スペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方 第 2 版．医学書院。 齊藤裕之，佐藤健一編(2010)．JJN スペシャル 医療者のための伝わるプレゼンテーション．医学書院。			
成績評価の方法・基準			
下記の基準を参考にしてください。 1．小課題（30%） 2．事例研究の研究計画書（50%）（出席が必要回数を満たない場合には評価対象とはなりません） 各自研究計画書を作成し提出する。締め切りは 1 月 23 日（水） 17:00 教務課へ（厳守） 3．グループワークへの参加状況の振り返りによる自己評価（20%） 本授業を通して、自分の GW への参加度を 10 点満点で評価します。			
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法			
毎回の授業に関するご質問は、授業終了時、オフィスアワー時に受け付けます。これ以外の時間に研究室をお訪ねの際には、必ずメールでアポイントを取ってください。また、メールで問い合わせてください。メールあるいは直接お会いしてコメントいたします。課題のレポートについては原則コメントを書いて返却いたします。 試験等の結果は、問い合わせが可能です。			
担当教員からのメッセージ			
授業の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。 文献を読むことは、これからの学修にとって基本です。文献の活用の仕方をよく学んで、他の授業にも活用できるようにしましょう。さらに、この授業は、4年生の看護学研究（卒業研究）につながる授業です。しっかり、看護研究のプロセスを理解し、4年生に繋げてください。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護援助論Ⅱ（回復・慢性期）	503	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	金3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉岡 恵（YOSHIOKA, Megumi）、松下由美子（MATSUSHITA, Yumiko）、水野照美（MIZUNO, Terumi） 鈴木真理子（SUZUKI, Mariko）、小山智史（KOYAMA, Tomonori）、阿藤幸子（ATO, Sachiko） 塩入とも子（SHIOIRI, Tomoko）、宮澤美帆（MIYAZAWA, Miho）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後などに講義室または各担当教員の研究室で面談 質問ならびに面談の予約は、メールにて受けます 吉岡（5号館2階210）：m-yoshioka、松下（5号館2階206）：y-matsushita、水野（5号館2階203）：t-mizuno 鈴木（真）（1号館2階1217）：m-suzuki、小山（1号館3階1320）：t-koyama、阿藤（5号館2階209）：s-ato 塩入（5号館2階助手室）t-shioiri、宮澤（5号館2階助手室）：m-miyazawa メールアドレスは、上記の後ろに、●saku.ac.jp						
授業の概要						
成人看護援助論Ⅰを踏まえて、成人期における健康障害を有する対象とその家族に対する援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。成人期において発症しやすい、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの疾患に対する看護を理解し、効果的な看護を展開するための技術を習得し、実践へつなげていく。						
到達目標						
1. 各種機能（呼吸・循環・代謝・脳神経・運動・感覚・腎・消化・生体防御・造血）障害が生命や生活へ及ぼす影響と回復・慢性期の成人とその家族の身体的及び心理・社会的反応を理解し、説明できるようになる。 2. 各種機能障害をもつ回復・慢性期の成人の生命と生活を支える看護について、看護過程を用いて考察し、必要な援助を述べるようになる。 3. 演習と事前事後の学習を通して、機能障害をもつ患者に必要な看護技術の一部ができるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
看護の基本で学んだことを踏まえ、成人期における健康障害を有する対象者とその家族に対する看護展開を実施していくための授業科目である。また、「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」に関連している。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-3	オリエンテーション 呼吸機能障害（慢性閉塞性肺疾患、肺炎など）をもつ患者とその家族への看護について学ぶ。	講義	吉岡 吉岡・塩入 特別講師			
4-6	循環機能障害（高血圧、心筋梗塞、心不全など）をもつ患者とその家族への看護について学ぶ。	講義/小テスト	小山			
7-11	技術演習（周手術期ケア・吸引・心電図・血糖測定など）を通じて各項の実際を学ぶ。	演習	吉岡・塩入 宮澤			
12-13	造血機能障害（白血病など）をもつ患者とその家族への看護について学ぶ。	講義/小テスト	鈴木			
14-15	代謝機能障害（糖尿病など）をもつ患者とその家族への看護について学ぶ。	講義/小テスト	宮澤 特別講師			
16-17	運動機能障害（脊髄損傷など）をもつ患者とその家族への看護について学ぶ。	講義/小テスト	松下・阿藤			
18-19	生体防御機能障害（アレルギーなど）をもつ患者とその家族への看護について学ぶ。 グループワーク	講義/小テスト	鈴木			
20-21	消化機能障害（肝硬変、大腸がんなど）をもつ患者とその家族への看護について学ぶ。	講義/小テスト	全員 吉岡・阿藤			
22-23	腎機能障害（腎臓病、透析など）をもつ患者とその家族への看護について学ぶ。	講義/小テスト	松下・吉岡			
24-26	脳神経（脳梗塞など）・感覚機能障害をもつ患者とその家族への看護について学ぶ。	講義/小テスト	水野・吉岡			
27-28	各種機能障害（心不全、腎臓病など）とともに生きる成人の生活と必要な看護について学ぶ。	講義	特別講師			
29-30	学生グループ発表【事例展開演習】	グループ発表	全員			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
1. 到達目標 1 への対応（各種機能障害）（1時間×12回＝12時間程度） ・テキスト等を読み予習をしてから授業に臨みましょう。各種機能障害に関連した形態機能学や健康障害と治療などの既習範囲を予習しておく、小テスト（授業開始時に行われる既習内容確認）に役立つだけでなく、当日の授業の内容の理解が深まります。 ・小テストが返却されたら、理解度を確認して学習方法を身につけていきましょう。定期テストに役立ちます。 ・模擬体験は、患者・家族の生活体験・気持ちの理解を深めて、看護を考えることを目指しています。率直な感想を書き留めて、学生同士で共有しましょう。看護の役割の考察につながり、実習への準備になります。 2. 到達目標 2 への対応（事例展開演習）（16時間程度） ・各種機能障害のコマの4～5月は「情報収集・アセスメント」、6月は「関連図」、6～7月は「看護計画」に焦点を当てた事例解説をします。この事例解説は、「個人レポート」作成へのヒントです。予復習として実際に書いてみると、さまざまな機能障害患者の病態が頭に入るので、「個人レポート」作成や実習時に、活用できます。 ・事例をグループに分かれて記録用紙に沿って看護展開します。グループワークは事前に各自で課題に取り組み、それを持ち寄り空き時間に検討します。グループワークで検討したことを参考に、個人でまとめ、レポートとして提出してください。 3. 到達目標 3 への対応（技術演習）（2時間程度） ・事前に配付される課題に取り組み、技術演習へのシミュレーションをしておきましょう ・技術演習では、領域別実習において自分が実施することを意識して丁寧に取り組みましょう。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：鈴木久美他(2015)．慢性期看護 病気とともに生活する人を支える．南江堂． 参考文献：浅野浩一郎ら(2015)．系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器．医学書院． 吉田俊子ら(2015)．系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器．医学書院．
成績評価の方法・基準
1. 定期試験：70％ 2. 小テスト(8回)：20％ 3. 個人レポート：10％ グループワークで行った事例を、記録用紙に沿って個人ごとに看護展開し、まとめて提出してもらいます。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験の結果についての問い合わせには応じます。定期試験問題の開示は致しません。 小テストは、講義中に解説します。 グループワークの記録は、コメントし返却します。グループワークは担当教員の指導を受けながら進めていきます。
担当教員からのメッセージ
領域別実習・国家試験・将来の臨床実践に大変関わりのある広い範囲と深い内容を持つ科目です。応用的思考が必要となりますので、各自で既習科目の内容が身についているか確認しながら学びましょう。 質問や相談は、事前にアポイントをとると確実です。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
老年看護援助論	512	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	月3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○ 安川 揚子（YASUKAWA, Yoko） y-yasukawa ●saku.ac.jp（研究室 1号館2階1213） 征矢野 あや子（SOYANO, Ayako） a-soyano ●saku.ac.jp（研究室 5号館3階302） 中嶋 智子（NAKAJIMA, Tomoko） t-nakajima ●saku.ac.jp（研究室 5号館2階208） 小野 美香子（ONO, Mikako） m-ono ●saku.ac.jp（研究室 1号館3階1312）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎週 月曜日 12:10～12:50 他の時間も歓迎いたします。事前にメール等でご連絡ください。						
授業の概要						
加齢に伴う特徴を理解するとともに、健康障害を示す病態、症状や徴候、経過、治療法等を学び、高齢者及びその家族を対象とした看護援助の方法並びに援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。 また、様々な健康レベルにある高齢者についての理解を深め、効果的な看護を展開するための知識・技術・態度を修得し、実践へつなげていく。						
到達目標						
1. 加齢に伴う心身機能の変化、老年期に特徴的な疾患や病態を説明できる。 2. 上記の状態にある高齢者のためのアセスメント方法、看護技術を理解できる。 3. 高齢者のもてる力(強み)にも着眼し、「慢性疾患、健康障害、加齢に伴う心身機能の低下をもちながら、その人らしく生活する」ことを支える看護過程を展開できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
看護職として必要な「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」となる力を身につける授業科目であり、また「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」や「看護実践能力の基盤」とも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	高齢者の理解：加齢に伴う変化 身体機能、認知機能、心理・社会的変化による生活への影響について復習する			講義	安川	
2-4	高齢者の生活を支える看護：活動と休息／歩行・移動 活動と休息、運動機能や高齢者に起こりやすいフレイルや運動器疾患について学ぶ			講義・演習	征矢野	
5-6	高齢者の生活を支える看護：食生活 食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養や食生活の援助について学ぶ			講義・演習	安川	
7	高齢者の生活を支える看護：排泄 老年期の排泄機能の特徴(尿失禁、便秘・下痢)とその支援について学ぶ			講義	安川	
8	高齢者の生活支援：睡眠／清潔 睡眠や睡眠障害の援助、生活・衣生活の援助について学ぶ			講義	安川	
9-18	老年看護過程の展開 生活機能からみた老年看護過程			講義・演習	全員	
19-20	高齢者の健康づくり 介護予防について学ぶ 地域高齢者を対象とした運動器の機能向上プログラムについて学習し体験する			講義・演習	征矢野	
21	治療を受ける高齢者の看護：薬物療法、診察・検査 薬物動態、有害反応、服薬行動・服薬管理、安全安楽な検査の実施について学ぶ			講義	安川	

22	治療を受ける高齢者の看護：手術療法 急性期の高齢者の特徴、手術を受ける高齢者の援助、合併症予防について学ぶ	講義	安川
23	治療を受ける高齢者の看護：リハビリテーション 加齢とリハビリテーション、経過別リハビリテーションについて学ぶ	講義	安川
24	高齢者の治療と看護：リスクマネジメント 高齢者に起こりやすい事故（溺水・窒息・転倒）が生じる原因とそのケアについて学ぶ	講義	安川
25-27	高齢者に特有な疾患と看護：認知症・うつ病・せん妄 認知症の病態や症状、ケアについて学ぶ。うつ病やせん妄と援助について学ぶ	講義	安川
28	高齢者の生活を支える看護：コミュニケーション コミュニケーション能力、コミュニケーションを促す要素と阻害要因、コミュニケーション技術について学ぶ	講義	安川
29	高齢者の生活の場と看護：介護保険施設・地域密着型サービス 各施設やサービスの特徴や看護の役割について学ぶ 集団生活と感染症、その予防について学ぶ	講義	安川
30	高齢者看護におけるチームアプローチ：多職種連携 作業療法士の役割を理解し、施設における認知症高齢者への作業療法士の関わりを学ぶ	講義	兎川
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
講義時に演習書を配布します。 予習：教科書の指定範囲を事前に読み、講義に臨んでください。 復習：老年看護過程は授業外での学習も必要です。 授業内での各自の進捗度合いによって、授業外学習時間は異なることが予想されます。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：堀内ふき他(2017)．高齢者の健康と障害．第5版．メディカ出版． 堀内ふき他(2017)．高齢者看護の実践．第4版．メディカ出版． 山田律子他(2016)．生活機能からみた老年看護過程．第3版．医学書院． 参考文献：奥宮暁子他(2012)．生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程．医歯薬出版			
成績評価の方法・基準			
1) 筆記試験（小試験2回 90％） 45点満点の小試験を2回行います。期末試験はありません。 2) 老年看護過程（10％）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
初回授業でスケジュールの詳細を説明します。 小試験を実施し、その後、解説を行います。 老年看護過程演習では、途中成果を確認し、皆さんに共通する困りごとを講義時間中にフィードバックします。			
担当教員からのメッセージ			
後期の老年看護学実習に活用できるよう主体的に参加してください。 老年看護学概論・援助論を通じて、高齢者個人を細やかに理解し、その人が持つ力を活かす看護を身につけましょう。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
精神看護援助論	522	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	木1, 木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○柿澤美奈子（KAKIZAWA, Minako） m-kakizawa●saku.ac.jp（研究室 5号館2階207） 坂江千寿子（SAKAE, Chizuko） chi-sakae●saku.ac.jp（研究室 5号館3階307） 篠崎一栄（SHINOZAKI, Kazue） k-shinozaki●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
・原則、授業日の授業終了から放課後 ・質問は、メールでもよい（常時） ・オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である						
授業の概要						
精神障害のある方の生活を理解するとともに、精神障害の病態と徴候、症状、経過、治療法等を学び、精神の健康上の問題に直面している方とその家族に対する看護援助方法並びに援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。また、精神障害のある方やその家族とのかかわり方など、効果的な看護を展開するための技術を習得し、実践へつなげていく。						
到達目標						
1. 精神科看護における看護師の役割やコミュニケーション技術を理解し説明できる。 2. 精神医療保健福祉に関連する法的根拠を基に、精神科看護におけるマネジメントの視点を説明できる。 3. 精神症状による患者の状態をセルフケアの視点からアセスメントし、その人の生きる力を支える援助について理解できる。 4. 患者家族が受ける影響を理解し、家族支援について説明できる。 5. 事例を用いて各病時期にある対象者の看護過程を展開できる。 6. 対象者が地域で自立した生活ができるために必要とされる支援と課題について説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」「看護実践能力の基盤」を基に、「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」を身につける講義・演習の授業科目であり、「様々な領域の専門家と連携し協働できる能力」に発展する。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1・2	オリエンテーション/精神科看護とはどのような活動か	講義	柿澤			
3・4	精神科で行われる主な検査・精神科で行われる主な治療	講義	坂江			
5・6	精神科で行われる主な治療・精神疾患と看護（統合失調症）	講義	柿澤			
7・8	現代に急増している精神疾患をもつ患者の生活と看護の理解	講義	柿澤			
9	精神科病院の構造と機能/精神科におけるリスクマネジメント	講義	坂江			
10	精神科看護におけるアセスメント	講義	柿澤			
11-20	事例による看護過程の展開	演習	柿澤他			
21・22	治療的コミュニケーション/看護場面の再構成	講義/演習	坂江他			
23・24	家族の看護・当事者からのメッセージ	講義	柿澤・特別講師			

25・26	倫理的な課題の検討	講義/演習	坂江他
27・28	入院と地域をつなぐかわり・チーム医療と精神科訪問看護	講義	柿澤・特別講師
29・30	地域で自立した生活のための支援・災害時地域精神保健活動	講義	柿澤・特別講師
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
【予習】 ・テキストの当該授業の関連箇所を読み、重要なところにはマーカーをし、理解できないところには付箋を付け、授業内で疑問を解決する。理解が不十分な場合は、オフィスアワーやメールを活用し疑問の積み残しをしない。演習は、チーム学習やディスカッションの時間である。各自が責任を持って学習・課題に取り組む。 ・11-20回「事例による看護過程の展開」の課題に関しては、授業内で別途提示する。 ・21-22回「看護場面の再構成」、25・26回「倫理的な課題の検討」では課題をもとにチームでディスカッションする。課題に関しては、授業内で別途提示する。 【復習】 授業をふりかえり、重要事項をノートに工夫してまとめる。また、課題等に加筆修正をする。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト 岩崎弥生/渡邊博幸編(2015). 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論, 精神保健. メジカルフレンド社. 岩崎弥生/渡邊博幸編(2016). 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メジカルフレンド社. 参考文献 授業内で適宜紹介する。			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験 (60%) 定期試験得点の60%を評価とする。全範囲から出題する。 2. 提出課題 (34%) 初回オリエンテーション時に課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。 3. 演習におけるチームに対する貢献度 (6%) チームへの貢献度をピア評価する。チーム学習の最終回に評価票に基づき各自評価する。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・定期試験は、返却しない。 ・提出課題については、原則コメントを記述して返却する。			
担当教員からのメッセージ			
既習の知識を活用し、特に「人間心理と人間行動」「人間関係とコミュニケーション」「健康障害と治療Ⅲ」「社会福祉学」「看護展開論」「精神看護学概論」をベースに、知識をより深め看護実践能力を身につけましょう。積極的な授業参加を求めます。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
小児看護援助論	532	3 前	必	2 単位 60 時間	講義 演習	火 3～5
担当教員名（○印＝責任教員）						
○ 鈴木千衣 SUZUKI, Chie c-suzuki●saku.ac.jp (研究室 5 号館 3 階 307) 小林 睦 KOBAYASHI, Mutsumi m-kobayashi●saku.ac.jp (研究室 5 号館 2 階 207) 橋本佳美 HASHIMOTO, Yoshimi y-hashimoto●saku.ac.jp (研究室 5 号館 3 階 308) 石坂俊也 ISHIZAKA, Toshiya t-ishizaka●saku.ac.jp (研究室 1 号館 2 階 221)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○ 鈴木千衣 毎週火曜日 12:10～12:50 17:50～18:30（研究室） 小林 睦 毎週水曜日 14:40～16:10（研究室） 橋本佳美 毎週水曜日 14:40～16:10（研究室） 質問は、メールでもお待ちしております（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約もメールで可能です。						
授業の概要						
小児各期の子どもと家族に対する看護を行うために、各期の子どもの特徴を踏まえ、子どもの心身の健康を保持増進し、子どもの回復過程を支援するために必要な知識・技術を修得する。						
到達目標						
1. 子どもや家族がおかれた状況（苦痛を伴う処置や入院）を考慮し、子どもや家族の反応からその思いを理解できる。 2. 子どもと家族のもっている力を引き出すための援助方法を理解できる。 1) 子どもと家族の状況を把握するための情報収集の方法が理解できる。さらに、それを基に収集した情報をアセスメントして援助方法が考えられる。 2) 子どもと家族が自身の思いや考えを表出することができるような方法を理解できる。 3. 子どもと家族の力を育てるために、健康教育や治療への参加などの援助方法を理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践の能力の基盤」「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」となる力を身につける授業科目であり、また「学問を深め真理を探究していく態度・能力」「様々の領域の専門家と連携し、協働できる能力」にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1・2	オリエンテーション 子どもと健康障害／子どもと入院			講義	鈴木	
3・4	病児と遊び①②			講義・演習	特別講師	
5・6	症状と子どもの看護／子どもと外来看護①			講義	小林 鈴木	
7・8	ハイリスク児の看護／子どもと外来看護②			講義 自己学習	小林	
9・10	治療・検査を受ける子どもの看護／手術を受ける子どもの看護			講義	小林	
11・12	外来看護③④			講義	小林 小林他	
13・14	小児と救急／小児のアセスメント			講義	小林 鈴木	
15・16	看護技術(グループ A) 【母性小児看護実習室・在宅老年看護実習室】 事例のアセスメント(グループ B)			演習	小林他	
17・18	看護技術(グループ B) 【母性小児看護実習室・在宅老年看護実習室】 事例のアセスメント(グループ A)			演習	小林他	
19・20	事例展開／プレパレーションと患者・家族への指導（GW）			演習	鈴木他	
21・22	障害児と看護①②			講義・演習	橋本他	
23・24	障害児と教育①②			講義	特別講師	

25・26	発表：プレパレーションと患者・家族への指導／ 障害児の在宅支援	演習・講義	鈴木他 特別講師
27・28	病気とともに生活する子どもの看護／小児医療施設の概要	講義 演習	鈴木 小林
29・30	子どもと死／小児看護における advanced nurse の役割	講義	鈴木 特別講師
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習： ①テキストの関連箇所を読み、毎回 30 分の予習をしましょう。重要などころには、マーカーで印をつけておくこと。また、十分理解できな箇所には付箋をつけておいて、講義の中で疑問を解決できるようにしましょう。講義を聞いてもわからない箇所は、授業終了後、あるいはオフィスアワーの時間に質問してください。疑問を積み残さないようにしましょう。 ②看護技術についてはワークブックを配付します。また、文献リストには、看護技術のDVDの紹介も行っていますので、それらを用いて自己学習を進めておいてください。		復習 ①授業で配付したレジメ・資料を基に、もう一度テキストの関連箇所を読んで、ノートの重要必要事項をまとめてください。 ②自己学習・グループワークの時間も授業内に設けていますが、学習の時間は授業外でも必要になります。うまく時間調整して行ってください。	
テキスト及び参考書、参考文献・参考 URL など			
テキスト：小児看護学概論で購入したものを使用してください。 小児看護技術に関する文献は、「文献リスト」の中でいくつか紹介します。自分が一番見やすいものを購入してください。 参考文献：概論時に、文献リストを配付します。			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験 （50%） 定期試験 1 回で評価します。全範囲から出題をします。合計点の 50%を評価の対象とします。			
2. レポート （30%） レポート課題は 3 題あります。初回のオリエンテーション時に課題内容、提出締め切り、提出先をお知らせします。他の科目の課題の提出期限も考慮して、計画的に課題を行ってください。レポート点は各 10 点です。			
3. 外来と看護のパフォーマンス （10%） グループで事例をもとに、外来看護におけるトリアージを行ってもらいます。そのパフォーマンスを採点します。			
4. プレパレーションのプレゼンテーション （10%：学生自己評価） 発表に向けた準備過程での参加度およびプレゼンテーションについて、学生一人一人自己評価します。自己評価票は後日配布します。			
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法			
毎回の授業に関するご質問は、授業終了時、オフィスアワー時に受け付けます。これ以外の時間に研究室をお訪ねの際には、必ずメールでアポイントを取ってください。また、メールで問い合わせてください。メールあるいは直接お会いしてコメントいたします。課題のレポートについては原則コメントを書いて返却いたします。 試験等の結果は、問い合わせが可能です。			
担当教員からのメッセージ			
授業の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。小児看護学概論のオリエンテーション時に配付した「レポートの書き方」「小児看護学 参考文献リスト」を初日に忘れずに持参してください。 小児看護学概論をよく復習しておいてください。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
母性看護援助論	542	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	金1～3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○櫻井綾香 SAKURAI, Ayaka 弓削美鈴 YUGE, Misuzu 中田覚子 NAKATA, Satoko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎週木曜日：16時20分～17時、オフィスアワー以外の質問・面談予約はメールで可能 弓削 m-yuge●saku.ac.jp（研究室）5号館3階310 櫻井 a-sakurai●saku.ac.jp（研究室）1号館2階1214 中田 s-nakata●saku.ac.jp（研究室）1号館1階1106						
授業の概要						
妊娠、分娩、産褥期の生理及びその生活上の課題を理解し、正常と異常の判別、障害の病態と治療法を通じて、母性とその家族を対象とした看護援助方法ならびに援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。また、母性特有の健康障害、その症状や徴候、経過、検査、治療法等について学習し、必要な看護法や技術を学習し、効果的な看護を展開するための方法を習得し、実践へつなげていく力を養う。						
到達目標						
1. 妊娠期・分娩期・産褥期にある対象の身体的、心理社会的変化を説明できる 2. 胎児・新生児の成長発達、生理的变化を説明できる 3. 周産期の生理的变化から逸脱した状態の診断・治療法と看護について説明できる 4. 周産期を安全・安楽に経過させるための看護技術、母親となる過程を支援する技術を習得する 5. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康状態をアセスメントし、必要な看護過程を展開するための方法を理解する						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」を身に付ける授業科目である						
授業計画						
回数	授業内容・目標				授業 方法	担当者
1	オリエンテーション 妊娠の基本知識と妊娠の維持・胎児発育のための生理的变化 受精、着床、胎児、胎盤、ホルモン環境変化について説明できる				講義	櫻井
2	妊娠経過に伴う母体の全身変化と妊娠期各期の心身の特性 妊娠に伴う心身の変化、家族の変化について説明できる				講義	櫻井
3	妊婦の健康状態をアセスメントするために必要な情報 妊婦健康診査について説明できる				講義	櫻井
4	妊婦の健康状態をアセスメントとするために必要な看護技術 妊婦の基本的ニードの変化とその支援方法について説明できる				講義	櫻井
5. 6	妊娠期に起こりえる正常からの逸脱と看護 ①② 妊娠期の病理（ハイリスク妊娠、母子感染症、切迫流産、過期妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠悪阻、妊娠貧血、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、胎児発育不全、双胎妊娠、血液型不適合妊娠、若年・高齢妊娠）と看護について説明ができる				講義	中田
7. 8	【中間テスト】（出題範囲 1～6回講義内容）（40分） 母性看護過程の特徴（30分） 母性看護過程の特徴について説明できる				講義	弓削
	産婦の健康状態をアセスメントするために必要な情報（110分） 分娩期のアセスメントに必要な用語、分娩の3要素、分娩機転について説明できる				講義	櫻井
9	正常分娩の経過と産婦のアセスメント視点と看護 分娩が母児に及ぼす影響、母児の状態が分娩に及ぼす影響と正常な分娩経過への援助について説明できる				講義	櫻井
10. 11	分娩期に起こりえる正常経過からの逸脱と看護 ①② 分娩期の病理（CPD、軟産道強靱、過強陣痛、微弱陣痛、胎位・胎勢の異常、胎児機能不全、臍帯・卵膜・羊水の異常、分娩時異常出血、軟産道の損傷、弛緩出血、子痛、羊水塞栓症）と看護、産科処置、帝王切開時の看護について説明できる				講義	中田
12. 13	褥婦の健康状態をアセスメントするために必要な情報と看護技術及び健康課題への支援 ①② 褥婦の心身の変化とその看護について説明できる				講義	櫻井
14	産褥期に起こりえる正常からの逸脱と看護 産褥期の病理（子宮復古不全、産褥感染症、産褥血栓塞栓症、精神障害）について説明できる				演習	中田

15. 16	妊娠期 事例を用いた看護過程の展開 講義内容と個人ワーク(課題①)の内容を比較することにより、妊娠期のアセスメントについての理解が深まる 分娩期 事例を用いた看護過程の展開 分娩期のアセスメント方法の実際を理解できる 産褥期 事例を用いた看護過程の展開 ① DVDから情報収集をし、情報を整理することができる	講義 演習	櫻井
17	産褥期 事例を用いた看護過程の展開 ② 産褥期のアセスメントの視点(5分類)とアセスメントの実際を理解できる	講義	櫻井
18. 19 . 20	新生児の健康状態をアセスメントするために必要な情報と健康課題への支援 ①②③ 新生児の胎外生活への適応過程とその看護について説明できる 早期新生児の生理的変化と病理(新生児仮死、低出生体重児、TTN、RDS、MAS、高ビリルビン血症)について説明できる	講義	中田
21. 22	母乳育児支援 ①② および 演習オリエンテーション 乳汁分泌メカニズム、母乳育児が母子に及ぼす影響について説明できる 母乳育児支援へのアセスメント視点と看護について説明できる	講義	櫻井
23. 24	看護技術演習 妊娠期・産褥期・新生児期の看護技術 妊娠期の看護技術(レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定、胎児心音聴取、NST装着)、 産褥期の看護技術(乳房・子宮退縮・外陰部・肛門部及びその周囲の観察)、 新生児期の看護技術(全身の観察、抱き方)を習得できる	演習	櫻井 弓削 中田
25	産褥期 事例を用いた看護過程の展開 ③ 個人ワーク(課題3)を発表し、他者の視点に気づくことができる	演習	
26. 27	産褥期 事例を用いた看護過程の展開 ④⑤ グループ討議を通して、褥婦の持つ看護上の課題を明確にし、看護計画を立案できる	演習	
28. 29	産褥期 事例を用いた看護過程の展開 ⑥⑦ グループ討議で作成した看護計画を発表し、積極的に意見交換ができる	演習	
30	産褥期 事例を用いた看護過程の展開 ⑧ および実習オリエンテーション グループ討議で作成した看護計画の実施と評価ができる	講義	櫻井
授業時間外学修(準備学習を含む)の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 妊婦の看護過程の展開(事前120分): 提出日時は別途指定する(提出の際は時間厳守) 提出先: 教務課 事例を用いた妊婦の看護過程のアセスメントを行う。第7回目の講義の看護過程オリエンテーションまでに各自事例(別紙資料)を読んでおく。アセスメントは評価の視点を参考にして行う。 2. 技術演習課題ノート(事前120分): 提出日時は別途指定する(提出の際は時間厳守) 提出先: 教務課 技術演習課題の空欄箇所を、講義、テキストを参考に正常値等を調べ整理する 3. 褥婦の看護過程の展開(事前120分): 提出日時は別途指定する(提出の際は時間厳守) 提出先: 教務課 第15、16回の産褥期の看護過程の時間までに事例を読んでおく。アセスメントは評価の視点を参考にして行う。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト: 大平光子(2016). 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル, 南江堂. 参考文献: 井上裕美, 竹内正人, 木村正, 他(2013). 病気がみえるVol.10 産科, MEDIC MEDICA. 有森直子編(2016). 母性看護学Ⅱ, 医歯薬出版株式会社. 森恵美編(2016). 系統看護学講座 母性看護学各論, 医学書院			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験 70%(内訳: 中間試験 20%、定期試験 50%) ①中間試験は追試を実施しない ②看護技術演習(23、24回)、看護発表会(28、29回)に出席がない場合は、定期試験の受験資格を認めない 2. 課題評価 30%(内訳: 妊婦の看護過程 8%、技術演習ノート 10%、褥婦の看護過程 12%) ①看護過程はルーブリック評価表を用いて評価する ②技術演習ノートは別途評価方法を提示する ③指定された提出時間を厳守することやむを得ない事情により提出が遅れる場合は、事前に教員に相談すること。 事前の連絡なく、課題の提出が遅れた場合は評価の対象としない。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題とともにルーブリック評価表を返却する			
担当教員からのメッセージ			
・授業の予習復習を行うことで理解が深まります。以下の文献・DVDを用いると効果的です。 母性看護技術:「森恵美編(2016). 系統看護学講座 母性看護学各論, 医学書院」P570～574のQRコード 予習復習:「目で見える母性看護・新生児看護」(図書館所蔵のDVD) ・演習以外の出席確認はmanabaで行います。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護援助論Ⅰ（在宅看護）	522	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	水3, 水4 (水1, 水2)
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○鶴岡章子（TSURUOKA, Shoko） s-tsuruoka●saku.ac.jp（研究室 5号館3階305） 関本真奈美（SEKIMOTO, Manami） m-sekimoto●saku.ac.jp（研究室 1号館3階1312） 高木琴代（TAKAGI, Kotoyo） k-takagi●saku.ac.jp（研究室 5号館2階助手室） 上野良子（UENO, Ryoko） r-ueno●saku.ac.jp（研究室 1号館3階1313） 安川揚子（YASUKAWA, Yoko） y-yasukawa●saku.ac.jp（研究室 1号館2階1213）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
鶴岡章子：授業日 12時10分～12時50分 関本真奈美：授業日 12時10分～12時50分 高木琴代：授業日 12時10分～12時50分 上野良子：授業日 12時10分～12時50分 安川揚子：授業日 12時10分～12時50分						
授業の概要						
疾病や障がいを持ちながら、生活の場で療養生活を送る人々とその家族を生活モデルとして捉え、その人らしく生きることを支援する在宅看護の役割を学ぶ。また、在宅看護が必要とされる背景、歴史、基盤となる制度、ケアシステムなどについて、基礎的な知識を身につける。さらに、保健・医療・福祉を中心とした多職種との連携および看護の継続性について学修し、在宅療養者とその家族が安心して在宅療養を継続するために必要とされる看護援助の基本を修得する。						
到達目標						
1. 在宅看護が必要とされる背景、歴史、基盤となる制度、ケアシステムなどについて説明できる。 2. 在宅看護の対象である療養者とその家族の特徴について理解し、生活の場で行われる看護の役割について説明できる。 3. 保健・医療・福祉を中心とした多職種との連携および看護の継続性について説明できる。 4. 在宅看護の展開に必要な看護技術を理解し、在宅療養者とその家族に向けた適切な看護援助の基本を修得する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
・多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力 ・地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	科目オリエンテーション、在宅看護の目的と特徴	講義	鶴岡			
2	在宅看護が求められる背景、	講義	鶴岡			
3	在宅看護の対象理解①	講義	鶴岡			
4	在宅看護の対象理解②	講義	鶴岡			
5	在宅看護における看護師の役割	講義	鶴岡			
6	在宅看護に関する制度①（訪問看護の歴史と現行の制度）	講義	鶴岡			
7-8	在宅看護に関する制度②（介護保険制度と地域包括ケアシステム）	講義	鶴岡			
9	在宅ケアマネジメントとケアマネージャーの役割、多職種連携	講義	鶴岡			
10	介護保険の実際（地域包括支援センターの活動）	講義	特別講師			
11-12	訪問看護の実際	講義	特別講師			
13-14	家族介護の実態と家族への支援	講義	特別講師			
15	訪問看護事例の展開（在宅看護における看護過程の展開方法） 演習オリエンテーション	講義・演習	全員			

16	訪問看護事例の展開（情報収集）	演習	全員
17	訪問看護事例の展開（関連図、看護の焦点）	演習	全員
18	訪問看護事例の展開（計画、実施、評価）	演習	全員
19	訪問看護事例の展開（まとめ）	演習	全員
20	在宅における終末期ケアの実際（在宅での看取りとグリーフケア）	講義	安川(老年)
21-22	在宅看護技術演習① 初回訪問（訪問時のマナー・心得、ヘルスアセスメント）	講義・演習	関本
23-24	在宅看護技術演習② フットケア	講義・演習	上野(NP)
25-26	在宅看護技術演習③ 訪問看護に必要な看護技術（清拭、陰部洗浄、腹部マッサージ等） 家庭にある物品を活用した看護ケア（手浴、足浴等）	演習	関本・高木
27-28	在宅看護技術演習④ 呼吸の援助 / 在宅酸素療法と在宅補助換気療法	講義・演習	特別講師
29	在宅高齢者（療養者）の健康維持・増進のための支援	講義・演習	関本・高木
30	在宅・地域看護学実習について	講義	鶴岡
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 授業内容に合わせて、事前にテキストの当該箇所を読み予習をする。他科目で学修した事項は確認しておく。わからない箇所について印をつける（1時間）。授業内に疑問を解消する。 2. 授業後、レジュメや資料を基に、授業内容について復習する。重要事項をノートに工夫して整理する（1時間）。 3. ミニテストの前に出題範囲を復習し、テスト後は結果をもとに理解度を確認する。 4. 演習内容は在宅看護実習で必要な看護技術であるため、根拠をふまえて実施できるように準備しておく（30分）。 5. 提示するレポート課題は、テーマに関連する体験記、新聞記事、雑誌、文献、学生自身の体験などをとおして学修を深め、レポートを作成する（各5時間）。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：河原加代子他(2017)．在宅看護論，医学書院． 参考文献：石垣和子他(2017)．在宅看護論，南江堂． 臺有桂他(2016)．在宅看護論① 地域療養を支えるケア，メディカ出版． 臺有桂他(2016)．在宅看護論② 地域療養を支える技術，メディカ出版． 正野逸子他(2014)．在宅看護過程，メヂカルフレンド社． 他、授業内で紹介する。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（60％） レポート・小テスト・演習時ワークシート（30％） 授業参加状況（10％）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
ミニテストを行う場合は、その直後に解説する。採点結果は原則返却しない。解説希望者には面接で説明する。 定期試験は返却しない。 提出課題については、原則コメントを入れ返却する。			
担当教員からのメッセージ			
本科目では、在宅看護に関する基本的な知識・技術・態度を学びます。他科目で既に学んだ知識・技術を基に学修を進めていきますので、予習・復習に力を入れましょう。また、在宅看護の対象は「患者」ではなく「生活者」です。疾病や障がいをもちながら療養生活をしている「生活者」に提供する看護とはどのようなものか、また看護を展開していくために何が重要なのかを一緒に学んでいきましょう。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護援助論Ⅱ（地域健康支援）	553	3前	自 (保) 必	2単位 60時間	講義 演習	木3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○佐藤美由紀/SATO Miyuki 細谷たき子/ HOSOYA Takiko 依田明子/YODA Akiko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
佐藤：m-sato●saku.ac.jp （研究室5号館3階304） 細谷：t-hosoya●saku.ac.jp （研究室5号館2階204） 依田：a-yoda●saku.ac.jp （研究室1号館2階1214）						
授業の概要						
地域住民の生活と健康課題を対象別（ライフステージ別、課題別）にとらえ、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。また、公衆衛生看護活動を展開するために必要な知識と個人・家族・集団・地域的支援方法を学び、これらの支援方法を連動させて地域全体の健康水準を向上させる公衆衛生看護活動の特徴を理解する。						
到達目標						
1．地域で暮らす人々の生活を知り、対象別の健康課題を生活の視点からとらえることができる。 2．対象別（ライフステージ別、課題別）の保健の動向と公衆衛生看護活動について説明できる。 3．公衆衛生看護活動における支援の方法と基本的な知識を理解するとともに、個人・家族・集団・地域的支援を連動させながら地域全体の健康水準を高めていく公衆衛生看護活動の特徴を説明できる。 4．公衆衛生看護活動の過程を理解し、地域診断や公衆衛生看護活動の評価方法を説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を培う授業科目であり、「多様な健康レベルと個性性に対応できる看護実践能力」「さまざまな領域の専門家と連携し、協力できる能力」に関連する科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション・公衆衛生看護における看護の特性	講義	佐藤			
2	母子保健活動(1) 母子保健概論(理念・変遷・施策)	講義	佐藤			
3	母子保健活動(2) 母子保健活動の実際	講義	佐藤			
4	母子保健活動(3) 児童相談所と児童虐待の取り組み	講義	特別講師			
5	障害者（児）保健活動	講義	佐藤			
6	成人保健活動(1) 成人保健概論(理念・変遷・施策)	講義	依田			
7	成人保健活動(4) 健康増進活動②(食生活)	講義	特別講師			
8	成人保健活動(3) 健康増進活動①(運動習慣)	講義	特別講師			
9	成人保健活動(2) 成人保健活動の実際(特定保健指導等)	講義	依田			
10	成人保健活動(5) グループワーク（事例検討等）	演習	依田・細谷・佐藤			
11	歯科保健活動	講義	特別講師			
12	高齢者保健活動(1) 高齢者保健概論(理念・変遷・施策)	講義	細谷			
13	難病保健活動	講義	特別講師			
14	高齢者保健活動(2) 介護予防活動・認知症対策	講義	細谷			
15	高齢者保健活動(3) グループワーク（事例検討等）	講義	細谷・佐藤・依田			

16	精神保健活動(1) 精神保健活動概論(理念・変遷・施策)	講義	依田
17	精神保健活動(2) 精神保健活動の実際	講義	特別講師
18	感染症保健活動(1) 感染症保健活動概論(理念・変遷・施策)	講義	細谷
19	感染症保健活動(2) 感染症保健活動の実際	講義	特別講師
20	国際保健活動	講義	細谷
21	個別的支援(1) 家庭訪問	講義	佐藤
22	個別的支援(2) 新生児訪問の実際	演習	佐藤
23	保健行動変容理論と保健活動	講義	細谷
24	個別的支援(3) 保健行動変容のためのコミュニケーションと保健指導	演習	佐藤・細谷・依田
25	集団的支援(1) 集団健康教育	講義	依田
26	集団的支援(2) グループ・地域組織活動	講義	依田
27	地域的支援(1) 地域診断①	講義	佐藤
28	地域的支援(2) 地域診断②	講義・演習	佐藤・細谷・依田
29	地域的支援(3) 健康な地域づくり	講義・演習	佐藤・細谷・依田
30	公衆衛生看護活動の過程と評価方法	講義	佐藤
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
授業の内容を事前にシラバスで見て、健康管理と生活習慣、保健医療福祉行政論、地域看護学概論などすでに他科目の授業で学習した事項は確認してから授業に臨む。 復習は該当する教科書のページを読んでください。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：荒賀直子、後閑容子編（2016）．公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル社 厚生労働統計協会. 国民衛生の動向 参考文献：E. T. アンダーソン他金川克子、早川和生監訳（2008）．コミュニティアズパートナー 松本千明. 医療・保健スタッフのため健康行動理論の基礎（2002）．医歯薬出版 行動変容のための面接レッスン 行動カウンセリングの実践(2008)．医歯薬出版 他、授業の中で紹介する。			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験（80％） 2. レポート（10％）：演習で取り組む課題を資料にまとめて提出 3. 授業参加状況（10％）：グループワークなど演習の参加態度			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
・グループワークやバスセッションを取り入れながら授業を行います。積極的に参加してください。 ・ニュースに関心を持ち、社会情勢や健康問題の把握に努めてください。授業内容とニュースを関連させて健康課題を考えましょう。 ・看護の対象として地域（コミュニティ）を支援していくダイナミックな公衆衛生看護活動の魅力を学びましょう。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
看護情報論	607	3前	選 (保) 必 (養) 必	1単位 15時間	講義	火2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○中嶋智子（NAKAJIMA, Tomoko）t-nakajima●saku.ac.jp（研究室 5号館2階208）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受ける。						
授業の概要						
情報とは何か。病院、地域医療の活動場面などの医療現場でどのように利用されるようになったのかその経緯を知ることと、医療情報システム（電子カルテ）が有効に機能するための要件について講義する。						
到達目標						
看護師が扱う情報の特性や活用法が理解でき、倫理的配慮を含む情報の扱い方がわかる。また、医療情報システムの現状や課題、将来像を考えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法			担当教員	
1	情報とは何か ● 情報の定義と分類 ● 情報の伝達	講義・グループワーク			中嶋	
2	看護師が扱う情報と活用 ● 看護情報とアセスメント ● 保健統計を読み解く	〃				
3	効果的なプレゼンテーション ● 色覚バリアフリー	コンピュータ室演習				
4	情報システムと保健医療 ● 情報システムとは ● 保健医療分野のコンピュータ化の経緯 ● 病院情報システム（電子カルテ）のしくみ	講義・グループワーク				
5	病院・地域医療における情報システムネットワークと課題	〃				
6	看護師が活用する電子カルテ ● 看護情報システム（電子カルテ）のしくみ ● 看護用語の体系化と標準化	〃				
7	情報セキュリティと情報開示 ● 患者の個人情報を扱う看護師の責務 ● 診療情報と情報開示	〃				
8	医療情報とビックデータ ● 情報の蓄積から活用の時代へ ● まとめ	〃				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習してください。（1回の授業あたり2時間程度） また、公共図書館やインターネットを利用して、一般の人が医療や健康に関する情報をどの程度収集できるかを調べること。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：指定しない。適宜資料を配布する。 参考資料『医療・介護関係事業者における 個人情報の適切な取り扱いのためのガイダンス』（平成29年4月14日通知、同年5月30日適用） 厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000027272.html 参考資料『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』（平成26年12月22日 一部改正平成29年2月28日） 文部科学省 厚生労働省 http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000153339.pdf
成績評価の方法・基準
レポート（70%） 授業・グループワーク参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業最終回にレポート課題を提示します。
担当教員からのメッセージ
医療の分野の情報化は急速にすすんでいます。情報の意味や特性を理解して、看護師として活用できる力を身につけましょう。授業のすすめ方は講義が基本ですが、グループワークをとり入れますので積極的に参加してください。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
家族看護論	608	3前	選	1単位 15時間	講義	月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○湯本敦子（YUMOTO, Atsuko） a-yumoto●saku.ac.jp(研究室 5号館3階301) 柿澤美奈子（KAKIZAWA, Minako） m-kakizawa●saku.ac.jp(研究室 5号館2階207) 鈴木千衣（SUZUKI, Chie） c-suzuki●saku.ac.jp(研究室 5号館3階307) 征矢野あや子（SOYANO, Ayako） a-soyano●saku.ac.jp(研究室 5号館3階302)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
湯本：授業終了後40分間（研究室） 柿澤：授業終了後40分間（研究室） 質問は授業後に受け付けます。またメールでもお待ちしております（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約もメールで可能です。						
授業の概要						
看護において「家族」を捉え支援する意味を理解し、家族看護に必要な理論、アセスメントの方法を学習する。さらに、健康問題を抱えた家族への支援のあり方について学ぶ。						
到達目標						
1. 家族とは何かを考え、自分の家族に対する価値観を認識するとともに、多様な捉え方があることを理解する。 2. 家族看護学の考え方を学び、家族を援助することの意義を理解する。 3. 家族看護に用いられる理論とアセスメントモデルを理解する。 4. 病者・障害者とともに生活する家族に、どのような影響が生じるのかを考えられる。 5. 病者・障害者とともに生活する家族のケア能力を尊重しながらその援助が考えられる。 6. 多様な家族のあり様を理解し、自らの家族観を再考する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
社会人として基本的に必要な「豊かな人間性と幅広い教養」を育むための科目であり、さらに「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」を身につけるために必要な授業科目です。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースオリエンテーション（本科目の進め方） ／ 家族看護学とは ジェノグラム・エコマップの書き方 注)本オリエンテーション内容を十分に把握し、最終的に履修の有無を決定する。 復習：ジェノグラム、エコマップの書き方を復習し、自分の家族のジェノグラム・エコマップを描き、改めて自分の家族をふりかえる（1.5時間）。 <u>Assignment①：ジェノグラム・エコマップ</u> 提出締切：翌週講義前	講義	湯本 柿澤			
2	家族について考える（家族とは 家族の機能 家族の健康とは）① 本単元では、GW を中心に進めていきます。グループに分かれて、上記のカッコ内の問いについて話し合う。 予習：それぞれ、①家族とは、②家族の機能とは、③家族の健康とはについて自分の考えを整理して授業に臨む（30分）。 復習： <u>Assignment②：「私にとって家族とは」</u> （1時間） 提出締切：翌週講義前	GW	湯本 柿澤			
3	各期における家族の健康問題と支援 ①（家族のはじまりにおける課題） 講義と事例についてグループディスカッションを中心に進める。 復習： <u>Assignment③：本講義を聴講した感想を800字でまとめる。</u> 提出締切：翌週講義前	講義 GW	湯本			
4	各期における家族の健康問題と支援 ②（病児とともに生活する家族） 本単元では、DVD 拡がる病児のきょうだい支援 ～きょうだいにエールを贈る珠玉のメッセージ集～（藤村真弓監、秀行企画）を事前に視聴し授業に臨む。それをもとにGW を行い、講義する。	講義 GW	鈴木(千)			

	予習：DVD 拡がる病児のきょうだい支援 ～きょうだいにエールを贈る珠玉のメッセージ集～(藤村真弓監, 秀行企画: 45 分) の視聴と感想のまとめる (1.5 時間)。 復習：Assignment④：「病児のきょうだいについて思うこと」 提出締切：翌週講義前		
5	各期における家族の健康問題と支援 ③ (精神障害者とともに生活する家族) 本単元は、事前課題を基にグループディスカッションを中心に進める。 予習：指定された資料を読み、ワークシートの事前課題をまとめる (30 分)。 復習：Assignment⑤：ワークシートに学びをまとめる (1時間)。 提出締切：翌週講義前	講義 GW	柿澤
6	各期における家族の健康問題と支援 ④ (高齢者介護を行っている家族) 事例をもとに、家族の持つ健康問題と支援を考える。 復習：Assignment⑥：本講義を聴講した感想を800字でまとめる。 提出締切：翌週講義前	講義	征矢野
7	家族について考える②：「家族という病」を読んでディスカッションしよう。 「下重暁子 (2015) . 家族という病. 幻冬舎.」を読んで、講義に臨む。 グループに分かれて、ディスカッションを行い、再度、家族観をふりかえり、家族支援について意見交換する。 予習：上記の本を読んでくる (5～10 時間：早い時期から少しずつ読み進めておくことを勧める)。 復習：Assignment⑦：以下の内容を1200字程度でまとめる (3時間)。 本の概要、作者の強調点、印象・自分の意見をまとめる。 本日のディスカッションの内容と授業後の自分の考えをまとめる。	GW	湯本 柿澤
8	家族看護における理論・アセスメントモデル 講義：家族看護実践における理論とモデルを紹介する。 復習：8回の授業を踏まえて最終レポートとしてまとめる。 提出締切：授業初回に提示する。	講義	湯本 柿澤
授業時間外学修 (準備学習を含む) の具体的な内容及びそれに必要な時間			
上記各回の授業計画の予習・復習の部分に記入してあります。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
参考文献： 鈴木和子，渡辺裕子(2012)．家族看護学 理論と実践 第4版，日本看護協会出版会． 山崎あけみ(2008)．家族看護学 19 の臨床場面と 8 つの実践例から考える．南江堂． 下重暁子 (2015) . 家族という病. 幻冬舎. 参考 DVD： 藤村真弓監:拡がる病児のきょうだい支援 ～きょうだいにエールを贈る珠玉のメッセージ集～，秀行企画.			
成績評価の方法・基準			
下記の基準を参考にしてください。 1. GW 参加度 (30%) GW 毎に自己評価票を渡します。それに沿って自己評価してください。 2. 小課題 (Assignment) (40%) Assignment を 7 題出します。Assignment①～⑥は 5 点、⑦は 10 点で点数化します。 所定の用紙に書いて、期限厳守で提出すること。 3. 最終レポート (30%) 初回のオリエンテーション時に課題内容、提出締め切り、提出先をお知らせします。 他の科目の課題の提出期限も考慮して、計画的に課題を行ってください。			
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法			
毎回の授業に関することは直接 (オフィスアワー利用) あるいはメールで問い合わせると、次の授業までにメールや直接のフィードバックを受けることができます。提出物は、原則返却します。その際、点数と必要時コメントを入れてお返しします。評価については、評価方法を事前に示します。			
担当教員からのメッセージ			
家族のとらえ方、家族への思いは十人十色です。この科目を通して、様々な家族観、看護観があることを知り、臨床の場で出会う患者・家族を理解し援助できるようにしましょう。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護システム論	554	4前	必	1単位 15時間	講義	火1, 火2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○細谷たき子（HOSOYA, Takiko） 橋本佳美（HASHIMOTO, Yoshimi） 高木琴代（TAKAGI, Kotoyo） 塚田ゆみ子（TSUKADA, Yumiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の12:30～13:00及び放課後 細谷たき子：t-hosoya●saku.ac.jp 橋本佳美 :y-hashimoto●saku.ac.jp 高木琴代 :k-takagi●saku.ac.jp						
授業の概要						
人々の健康の保持増進、疾病の予防、病気からの回復、誕生と成長、良い死を支援するために、看護職（保健師・助産師・看護師）が地域の様々な活動の場（医療機関・保健福祉機関・学校や労働の場など）において、多様な専門職や住民と連携し、地域ケアシステムの一員として期待される機能を発揮する方法について学ぶ。						
到達目標						
1. 高齢者の介護予防のケアシステムが理解できる 2. 療養が必要な地域住民へのケアシステムが理解できる 3. 障害児を含む乳幼児への地域ケアシステムを理解できる 4. 女性の健康を守る地域ケアシステムを理解できる 5. 地域で活動する住民の活動状況と役割を理解できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題をとらえる能力の養成に該当する。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	高齢者・障がい者と地域包括ケアシステム ① 介護保険制度に基づく介護予防対策のケアシステムについて、地域包括支援センターによるサービス、および自治体が提供するサービスにどのようなものがあるか。 ② 認知症への地域包括ケアシステムを事例に沿って考える ③ 国試問題を解くことによりまとめる。			講義	細谷	
2	地域で療養を継続するためのケアシステム ① 退院時に療養者がどのように在宅サービスにつなぐことができるか。 ② 在宅療養において、住民はどのようなケアがうけられるか ③ 国試問題を解くことによりまとめる。			講義	細谷	
3	子育て支援と地域ケアシステム ① 現代の子どもがおかれている状況と支援の必要性 ② 医療機関や施設の中で見出される問題と地域支援の実際 ③ 当事者の力の大きさ ④ 支援者自身の意識を変える ⑤ まとめ			講義	橋本	
4	乳幼児の健診後のフォローと虐待予防 ① 市町村自治体で実施される乳幼児健診で母子に何を支援するか ② 乳幼児虐待の定義と虐待のリスクアセスメント ③ 乳幼児虐待のケースへの支援ネットワーク ④ 国試問題を解くことによりまとめる			講義	細谷	

5	女性の健康 女性の健康を守るシステム	講義	塚田
6, 7	演習ガイダンスおよび地域・在宅ケアシステム関連の文献 ① 地域のボランティア活動等の紹介： 民生児童委員、保健指導員、生活改善員、母親の会、老人大学 ② 地域ボランティアを迎えてのグループ活動のオリエンテーション ③ 地域・在宅ケアシステム関連の文献の検討	演習	細谷・高木
8	演習：「市民に学ぶ保健医療福祉の充実をめざす地域づくり」 ① 市民およびボランティアの講演 ② 意見交換（クラス＋グループ）	演習	細谷・橋本 高木
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 市民との活発な交流学習を期待します。その準備をグループでします。 2. 地域ケアの交流学習についてレポートを作成します。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：特に指定なし 参考文献：公衆衛生看護学.jp インターメディカル 保健医療福祉行政論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会			
成績評価の方法・基準			
授業参加常況 50% レポート 50%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
文献についてグループ発表、意見交換をし、考えを深める機会をもちます。また、学んだことをまとめた内容は提出し、教員がフィードバック及び評価する。			
担当教員からのメッセージ			
保健衛生学、地域看護学概論、地域看護援助論Ⅰ、在宅・地域看護学実習等での学びを統合・発展させるために、活発な意見交換ができることを期待する。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護援助論Ⅲ（地域健康支援システム）	555	4前	自 （保）必	2単位 45時間	講義 演習	月1, 月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○佐藤美由紀（SATO, Miyuki） 細谷たき子（HOSOYA, Takiko） 依田明子（YODA, Akiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
佐藤：m-sato●saku.ac.jp（研究室 5号館3階304） 細谷：t-hosoya●saku.ac.jp（研究室 5号館2階204） 依田：a-yoda●saku.ac.jp（研究室 1号館2階1214）						
授業の概要						
実習市町村を対象とした地域アセスメント、健康課題の抽出、健康課題を解決するための対策の検討を通して、実習市町村の特性や健康施策を理解するとともに、地域特性に応じた公衆衛生看護活動の展開過程と健康課題解決に向けた政策・施策のシステムを学ぶ。公衆衛生看護活動の手段である集団健康教育、保健指導、家庭訪問の演習を通して、公衆衛生看護活動における基礎的支援技術を習得する。						
到達目標						
1. 既存資料や地区視診により地域のアセスメント、健康課題の抽出、対策の検討を通して、実習市町村の特性や健康施策の理解を深めるとともに、保健事業の施策化のプロセスを理解する。 2. 地域特性を踏まえた集団健康教育、保健指導、家庭訪問の演習を通して、基礎的实践力を身につける。 3. 災害時における公衆衛生看護活動を理解し、保健師の役割を説明できる。 4. 地域における健康課題の解決、組織の目的達成、保健師が専門職として能力を発揮できる労働環境の整備のために必要な公衆衛生看護管理について理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を培う授業科目であり、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」「さまざまな領域の専門家と連携し、協力できる能力」に関連する科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	授業・演習オリエンテーション			講義	佐藤	
2	公衆衛生看護活動の展開過程と地域診断			講義・演習	佐藤 他	
3	地域診断(1)			演習	佐藤 他	
4	公衆衛生看護管理			講義	佐藤	
5	地域診断(2)			演習	佐藤 他	
6	健康教育(1)：健康教育の実際			講義	細谷	
7	保健指導の実際			演習	依田	
8	家庭訪問の展開			演習	依田	
9-12	地域診断(3-6)：実習地における地区踏査			演習	佐藤 他	
13	地域診断(7)：情報の統合			演習	佐藤 他	
14	健康教育(2)：企画立案			演習	依田 他	
15	地域診断(8)：健康課題の抽出・対策の検討			演習	佐藤 他	
16	健康教育(3)：シナリオ作成			講義	依田 他	

17	災害時の公衆衛生看護活動	講義	細谷
18	健康教育(4)：媒体作成	演習	依田 他
19	地域診断(9)：発表・討論①	演習	佐藤 他
20	地域診断(10)：発表・討論②	演習	佐藤 他
21	健康教育(5)：発表・評価①	演習	依田 他
22	健康教育(6)：発表・評価②	演習	依田 他
23	地域活動における守秘義務とまとめ	講義・演習	佐藤 他
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 地域看護学概論、地域看護援助論Ⅱ、担当する関連する科目を復習しておくこと。 2. 地域診断：地域診断に必要な資料検索・収集、演習の事前・事後課題に取り組む。 3. 保健指導・家庭訪問：演習に必要な知識の学習、演習に向けて事例のアセスメント・計画の作成に取り組む。 4. 健康教育：担当するテーマ（疾患等）についての事前学習、発表に向けた準備（シナリオ作成、媒体準備、デモンストレーション等）を行う。 5. 復習：教科書の該当ページを読み、要点を整理する。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：荒賀直子、後閑容子編（2016）. 公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル社 厚生労働統計協会. 国民衛生の動向（8月に最新版が出版されたら再購入） 参考文献：地域看護学概論及び地域看護援助論Ⅱで使用了参考書 各市町村のホームページ			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験（30%） 2. 健康教育演習（30%） ①健康教育企画書 ②健康教育の発表 3. 地域診断演習（30%） ①地域診断の各様式 ②地域診断の発表 4. 授業参加状況（10%）：演習の参加態度			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・健康教育、地域診断の発表については、授業内でフィードバックする。 ・提出物については、評価後コメントをつけて返却する。			
担当教員からのメッセージ			
・この科目の履修は、保健師科目選択者に限ります。 ・実習とリンクした講義・演習です。 ・実習グループで協力しあいながら主体的に取り組みましょう。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
看護学研究	603	4通	必	3単位 90時間	演習	—
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○ 鈴木真理子（SUZUKI, Mariko） m-suzuki●saku.ac.jp（研究室 1号館2階 1217） 全専任教員（各担当指導教員への連絡方法は確認してください。）						
看護学研究のお世話係の教員						
柿澤美奈子（KAKIZAWA, Minako） m-kakizawa●saku.ac.jp（研究室 5号館2階 207）						
櫻井綾香（SAKURAI, Ayaka） a-sakurai●saku.ac.jp（研究室 1号館2階 214）						
二神真理子（FUTAGAMI, Mariko） m-futagami●saku.ac.jp（研究室 5号館2階 210）						
宮澤美帆（MIYAZAWA, Miho） m-miyazawa●saku.ac.jp（研究室 5号館2階 助手室）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
鈴木真理子 前期 毎週月曜日 12:10～12:50 / 後期 毎週金曜日 12:10～12:50（研究室）						
柿澤美奈子 毎週月曜日 12:10～12:50（研究室）						
櫻井綾香 毎週木曜日 16:20～17:00（研究室）						
二神真理子 オリエンテーション時にお知らせします						
宮澤美帆 前期 毎週月曜日 12:10～12:50 / 後期 毎週月曜日 18:00～18:30（助手室）						
＊各担当指導教員とは、直接調整してください。						
授業の概要						
学生自身が関心のある看護現象を明らかにし、自ら問題意識を持ってテーマを追求し、科学的根拠を探り、分析、考察して論文にまとめる。この過程を通して看護活動を支える科学的根拠の重要性を理解し、効果的な看護活動を推進していくための基礎的能力を養う。						
到達目標						
1. 3年間の講義や実習等を振り返り、各自関心ある看護課題を明らかにできる。 2. 上記の看護課題をもとに、文献を読み、研究テーマを絞り込むことができる。 3. さらに、研究動機、目的、研究の意義を明らかにし、文献研究として研究計画書が立案できる。 4. テーマに沿って、文献のクリティークをしながら、適切な文献を収集することができる。 5. 目的に沿って分析を行い、結果が出せる。 6. 結果を考察し、論文としてまとめることができる。 7. 自分の研究成果を他の学生、教員等が理解できるようプレゼンテーションができる。 8. 他の学生との意見交換を通して、自分の学びが深められる。 9. 一連の研究活動を主体的・自律的に行える。 10. 一連の研究プロセスを通して、看護研究の意義や研究の倫理が理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
本科目は、主に「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身に着けることをねらいとしている。3年生までの学修のすべてを統合、活用して行う科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1-43	各領域、担当指導教員の指導のもと、各自研究を進め論文を作成する。 配置される看護領域および担当指導教員によって、看護学研究の進め方は若干異なります。それぞれの領域、担当指導教員の指導に従ってください。			演習	各担当指導教員	
44・45	関心ある看護現象の明確化 テーマの絞り込み 文献検索の方法 図書館司書による「文献検索の方法の実際」についての説明会を開催予定です。必ず、出席してください。 研究倫理 研究計画書作成 文献のクリティークと文献のまとめ 抄録・論文作成方法 発表方法				司書 佐藤	
	プレゼンテーション					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 自律的に学習を進めていくことが求められます。論文提出に向けて、各自がどう進めていくのか計画を立てて、実行して行って下さい。 この科目は3単位90時間の内容です。つまり、面接（授業）＋自習時間として、週に3コマ（4.5時間）の学習が求められます。実習や国試勉強など他に必要な学習等も考え、計画的に行ってください。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：看護研究方法で使用したテキスト 参考文献：各担当指導教員にお尋ねください。
成績評価の方法・基準 下記の内容について評価票を用いて評価します。 1. 看護研究への取り組み状況 （60%） 論文作成までの各自の取り組み状況进行评估します。文献検索の学習会への参加状況、面接への参加状況（適切に面接を受けているか、ルールが守られているか）、自主的に自律的に研究を進められているか等进行评估します。 2. 論文 （25%） 論文が提出期限までに提出されないと評価の対象とはしません。論文として必要事項が記されているか、目的、結果、考察に一貫性があるかどうか等进行评估します。 3. プレゼンテーション （15%） 各自、自分の研究成果をまとめ発表します。その発表状況、また他学生の発表への質疑応答状況も評価します。 最終評価は、学生にも評価票を用いて自己評価を行っていただきます。その評価を考慮して、各担当指導教員が評価を行います
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 基本的に個人ないしはグループ面接による指導を行っていきます。したがって、その都度、各自が学修してきた内容については、各担当指導教員からフィードバックがなされ、さらなる課題が課されます。最終的には、6～10枚の論文と1枚の抄録にまとめて期日までに提出してください。さらに、発表会を設けて研究成果をプレゼンテーションします。
担当教員からのメッセージ 看護学研究の流れ、論文の書き方、提出方法等については、4月のガイダンスにおいて「看護学研究の手引き」をお渡ししますので、各自よく読んでそれにしたがって進めてください。また、論文の提出や発表会については、改めてオリエンテーションを行います。進め方について、あるいは論文の執筆方法、提出方法、発表のしかたについて、質問のある方は、科目責任教員や係の教員にお尋ねください。 また、看護学研究を進めるにあたって、困ったことが生じたときには、必要時は科目責任教員や係の教員にもご相談ください。 3年次の看護研究方法をよく復習しておきましょう。随時、必要なオリエンテーションを入れながら、進めていきます。オリエンテーションには必ず参加してください。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護管理論	604	4前	必	2単位 30時間	講義	金1～3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○ 吉川三枝子（YOSHIKAWA, Mieko） m-yoshikawa●saku.ac.jp（研究室 5号館2階202） 内山明子（UCHIYAMA, Akiko） a-uchiyama●saku.ac.jp（研究室 5号館2階208）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
吉川：授業終了後に教室でも受け付けます。あるいは金曜日午後に来室してください。 内山：授業終了後に教室でも受け付けます。あるいは金曜日午後に来室してください。						
授業の概要						
この授業は、看護活動を効果的に進めるための管理的視点を修得します。医療制度の中で看護が担う役割を理解し、看護ケアを効果的に提供するためのシステムやケアの経済的效果などについての理解を深めます。また、看護活動を組織、運営していくために必要な組織論、リーダーシップ論、チームワークのあり方などについて理解し、リスク感性についての理解と技術についても学修し、最終的に看護管理にかかわる今日的課題について考察していきます。						
到達目標						
この科目では、以下の4つを目指します。 1. 良質な看護サービスの提供を保証するために必要な管理の役割・機能を理解することができる。 2. 医療チームの一員として良好な人間関係を構築するために必要な知識・スキルについて説明することができる。 3. 近年の保健医療福祉政策の動向を踏まえた看護政策や看護経営のありかたを理解することができる。 4. 事例検討を通して既習の知識を統合し、自らの看護管理的視点を説明することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
この授業は、これまでの授業・実習を通して身につけてきた知識・スキル・態度の統合をする科目となっています。これまでの「豊かな人間性と幅広い教養」「学問を深め真理を探究していく態度・能力」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「看護実践能力の基盤」「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」の学びをふりかえり、効果的・効率的および高品質な看護サービスを提供するために必要なマネジメントについて理解を深め、「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を学修する授業科目となっています。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1, 2	保健医療システムと看護の役割について学ぶ。	講義	吉川 内山			
3, 4	看護組織と看護サービスの管理について学ぶ。	講義	吉川 内山			
5, 6	看護管理過程と看護部門の運営について学ぶ。	講義	吉川 内山			
7, 8	看護の質と看護管理スキルについて学ぶ。	講義	吉川 内山			
9, 10	看護職と生涯学習について学ぶ。	講義	吉川 内山			
11, 12	看護と経営/看護と法律について学ぶ。	講義	吉川 内山			
13-15	演習：看護の場における管理課題と対策について、これまでの知識を裏付けてまとめる。 全員で発表する。	演習	吉川 内山			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

●事前レポート提出

これまでの実習をふりかえり、「私が実習中に体験した看護管理とそこからの学び」と題して、レポート1枚を提出してください。表紙は不要。課題名と学籍番号、氏名はヘッダーに記載してください。レポートは授業初日に提出してください。

●授業開始後

近年の保健医療福祉政策は激しく変化しています。各自で、どのような変化があるのか、それは何ゆえか、そして今後どのような課題が発生する可能性があるのかを、新聞やニュースで考察しておいてください。また、これまでの既習学習や既習実習で気づいた看護管理に関する疑問をノートにまとめておいてください。授業中に活発に発言することを期待しています。

毎回の授業のあとで、「復習シート」を提供します。授業内容とテキストを活用し、理解を深めてください。テキストは毎回単元に合わせた内容部分を読解し、復習してください。（毎回30～60分）

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：ナースিং・グラフィカ『看護管理 第3版』メディカ出版, 2017

参考文献：必要時プリント配布

成績評価の方法・基準

下記の基準を参考にしてください。

1. 授業参加状況（20％）
 - ①毎回、教師から投げかけられる問に対して誠実に向き合える。また活発に発言する。
 - ②グループワークでは積極的に提案をする。グループをまとめる行動をとることができる。
 - ③グループワークの発表では積極的に課題をまとめる。
 - ③20分以上の欠席や早退は欠席とする。
2. 筆記試験（70％）

期末試験においては70％の換算をする。
3. レポート（10％）

初回のレポートが期限内に提出でき、内容が課題に沿っている。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ①初回レポートについては教員が確認後に各自に返却します。それをグループワークで活用してください。
- ②復習シートは各自テキストを活用して記入してください。また友人とも相談しあってください。疑問な点があれば教員に質問してください。
- ③グループワークの発表に対しては、その場で教員から評価を伝えます。

担当教員からのメッセージ

看護管理は、看護師が対象者に最適・最良の看護が提供できるように資源を効果的に活用し、成果を出すよう調整を図ります。そのためには、まず皆さんが「看護とは何か」を明確にしておく必要がありますので、文章化しておくことで授業が理解しやすくなります。

そして自分たちが目指す看護をどのようにすれば、効果的かつ効率的に達成できるのかを主体的に発言してください。一緒に考えていきましょう。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
看護リスクマネジメント	605	4後	必	1単位 15時間	講義	金1, 金2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○内山明子（UCHIYAMA, Akiko） a-uchiyama●saku.ac.jp（研究室 5号館2階208） 吉川三枝子（YOSHIKAWA, Mieko） m-yoshikawa●saku.ac.jp（研究室 5号館2階202）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
内山：授業終了後から18時、研究室 質問はメールでも可能です。オフィスアワー以外の面談はメールで予約してください。 吉川：授業終了後から17時、研究室						
授業の概要						
ヒューマンエラーの定義を学び、人がなぜ間違いを犯すのかを理解し医療安全を学ぶことの意義を認識する。「安全」については、患者の安全と同時に医療を提供する者や施設を利用する人全ての安全について理解する。また、事故防止の考え方を学ぶために、リスクの回避方法の原則について理解を深め、医療現場で起きている事故事例から看護におけるリスクマネジメントについて考察する。						
到達目標						
1. 医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向を理解することができる。 2. 医療におけるリスクマネジメントの方針と国・組織の安全対策を理解することができる。 3. ヒューマンエラーとマネジメントの考え方を理解することができる。 4. 看護業務における事故対策について説明することができる。 5. 医療事故後の対応と紛争化の防止対策について理解することができる。 6. 事例をもとに医療事故を分析し、発生要因と防止対策を述べることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
本科目は、「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「看護実践能力の基盤」「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」を統合し、臨床で活用する「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を養うための必修科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	コースガイダンス：科目の概要と授業の進め方 医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向を学ぶ。 1) 法律と医療安全 2) 国内における医療事故の概要			講義	内山 吉川	
2	医療におけるリスクマネジメントの方針と国・組織の安全対策を学ぶ。 1) 医療安全に関する国の取り組み ① 国の医療安全取り組みの経緯 ② 医療安全対策の考え方 2) 医療機関における安全管理体制 ① 医療安全対策の法的義務付けと実際			講義	内山	
3	ヒューマンエラーとマネジメントを学ぶ。 1) 医療事故発生のメカニズム ① ヒューマンエラーと人間特性 ② ヒューマンファクター工学のモデル 2) 医療事故対策の考え方 ① リスク低減の考え方 ② エラープルーフ ③ リスクマネジメント			講義	内山	
4	看護業務における事故対策を学ぶ。 1) 看護業務と医療事故発生要因 2) 医療事故の種類、分析と対策 ① 誤薬 ② 患者間違い ③ 針刺し 3) 専門側としての個々の備え（看護職賠償責任保険制度）			講義	内山	

5	医療事故後の対応と紛争化の防止対策を学ぶ。 1) 日本医療機能評価機構と医療事故・インシデント報告 2) 医療事故調査制度 3) 医療事故紛争化の防止 ①コンクリフトマネジメント ②ADR（裁判外紛争処理）とメディエーション	講義	内山
6	危険予知力を身につける。 1) KYTとは 2) イラストを使用したリスクセンストレーニング（個人ワーク） 3) 動画を用いたKYT（グループワーク）	講義・演習	内山
7, 8	事事故例の分析を学ぶ。 1) 事故分析方法の特徴 ①事故発生後の原因分析（SHEL, 4M-4E, RCA） ②危険個所の特定と事故発生予防分析（FMEA） 2) 課題レポート事例を用いて、グループで事故分析を行う。	講義/グループワーク	内山 吉川
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
【予習】 1. 授業開始前に新聞報道や文献を参考に、近年の医療事故について概観しておく。（30分程度） 2. テキストの関連箇所を読み、理解できない箇所には付箋等を付けておき、授業中に解決できるようにしましょう。（30分程度）また、日ごろから新聞やニュース等で、医療事故などに関心を持ちましょう。 【復習】 授業で配布した資料と、テキストの関連箇所を読み直して、理解できているかどうかを確認してください。（30分程度） 国家試験の過去問を解いてみるなどして、知識の定着を評価してみてください。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
【テキスト】 松下由美子, 杉山良子, 小林美雪編(2016). ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 第3版. メディカ出版 【参考文献】 相馬孝博著(2016). 医療安全BOOKS2 ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド. メディカ出版 川村治子(2013). 医療安全ワークブック. 医学書院			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験（70%） 授業終了後試験1回で評価します。全範囲から出題します。合計点の70%を評価の対象とします。 2. 授業参加状況（20%） グループワーク参加度、成果の発表、発表の仕方を評価します。 3. レポート（10%） 課題レポートを評価対象とします。全国の医療機関で起きた医療事故の『状況、要因、対策』について最低1事例をまとめ、初回授業に提出してください。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
事前課題レポートは、提出後評価し7, 8回の授業までに返却をします。（返却したレポートは、7, 8回のグループワークに活用します。）			
担当教員からのメッセージ			
医療安全の基本は「できていて当たり前」でありながら、「当たり前のことを当たり前にする」ことほど難しいものはありません。医療者は「ミスをしたらどうしよう」「どこまで確認すれば大丈夫なのだろう」などの不安や疑問を感じながら、現場で「患者の安全」を守るために日々取り組んでいます。この授業を通して、医療安全がどのように確立されてきたのか、現場ではどのようなエラーがおこっているのか、またその対策はどのように施されているのか、プロフェッショナルとしてどのような力を修得していかなければならなのかなど、「安全に医療を提供するための当たり前のこと」を学ぶ機会としていきたいと思います。 「どんな人間でも、間違いからは逃れられない」ことを意識して、真剣に学習を進めていきましょう。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
災害看護論	606	4前	必	1単位 30時間	講義	金4, 金5 集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小原真理子（OHARA, Mariko） 佐久総合病院佐久医療センター 看護師 中嶋智子（NAKAJIMA, Tomoko） 櫻井綾香（SAKURAI, Ayaka）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
災害が人々の健康と生活へ及ぼす影響について学ぶ。更に災害サイクルに伴い変化する、看護職が果たす役割、医療チームにおける他職種との連携についても学ぶ。具体的には、災害直後・初期に発生する被災者の健康・生活上の問題と対応する看護実践の理解、更に被災者にもたらす中・長期的な身体的、心理的、社会的な影響と看護の役割について学ぶ。また災害への備えとして、防災の視点から自助、共助、公助、地域防災についても学ぶ。						
到達目標						
・災害時に発生する人々のニーズと健康問題を理解し、災害サイクルに伴い被災者にもたらす急性期、中・長期固有の身体的、心理的、社会的な影響と看護職が果たす役割について説明できる。 ・災害への備えとして、自助・共助（地域防災を含む）・公助の意味と具体策について説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力、他職種との連携のあり方」を身につける授業科目であり、急性期の実践能力として、START式トリアージのスキル等を習得することをねらいとしている。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-3	災害の基本 災害看護とは、災害に関する法律、災害の種類と疾病構造、 災害（震災）関連死、災害サイクルと活動の場、災害看護とその役割	講義	小原			
4	被災者特性と看護 要配慮者とは、要配慮者への支援	講義	小原			
5	災害時の心理的影響とケア 被災者や援助者に生じる心理的影響、こころのケアとは	講義	小原			
6-7	避難生活の課題とその対策 避難所や車中避難における健康・生活上の課題とその対策 中長期支援活動の拠点である仮設住宅、災害復興住宅における看護活動	講義	小原			
8	配慮者トリアージ、避難所におけるケア	講義/演習	小原			
9	災害への備えにおける看護の役割、自助・共助・公助との関連、地域防災	講義	小原			
10	災害と倫理 災害における倫理とはなにか、被災者との関係、他職種連携から	講義	小原			
11-15	演習：災害急性期の看護師の活動 災害看護のポイント CSCA3T の視点から急性期、災害現場の他職種連携 START 式トリアージ など	演習	佐久医療 センター看護師			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
テキスト及び講義資料を用いて、学習したことを整理し、復習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『災害看護学 心得ておきたい基本的な知識』第2版、南山堂 『演習で学ぶ災害看護』南山堂
成績評価の方法・基準
筆記試験（80％） 演習参加状況（20％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習時の服装・持ち物については、授業内で周知する。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護教育論	609	4前	選	1単位 15時間	講義	火4, 火5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉田文子（Fumiko Yoshida） fy200●saku.ac.jp（研究室 5号館3階306）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業後～19時（直接研究室306へ訪問可）						
授業の概要						
看護教育の基本となる教育の目的と役割、看護教育の変遷、学習方法やその意義、効果、評価の方法等について理解し、看護教育の現状と課題について考察する。生涯学習が必要な看護の専門性についての理解を深める。						
到達目標						
以下の5つのCourse outcomesを目標とします。 1. 看護職者における継続教育の意義を述べることができる。 2. これまでの大学生活をふりかえり、自己教育力を高める方法を実践することができる。 3. 将来のキャリア開発に役立つキャリアビジョンを描くことができる。 4. 新人看護師・保健師教育の実態と課題・展望についてディスカッションをすることができる。 5. 4年間で各自が抱えてきた課題を明らかにし、それについてプレゼンテーションをすることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
（学生便覧参照のこと） 教育目標 7つのうちの、「Ⅱ群 学問を深め真理を探究していく態度・能力」を培う科目として位置づけられている。特に出口教育となる卒業期の選択科目であり、受講生それぞれにとって「学問への真理探究的姿勢」をより身につけたいと思う人へ提供したい科目である。授業終了後には、授業前には味わえなかった知的満足度が味わえることでしよう。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	授業目的と学修動機の確認からプロジェクトを考える	講義	吉田			
2	自身が受けている教育：カリキュラムの変遷を通して考える					
3	人はなぜ学ぶのか：教育と学習の観点から考える					
4	キャリア開発1：対象理解と自己理解を作業を通して知覚する					
5	キャリア開発2：看護職者の学習ニーズを学び、自身のありかたを考える					
6	新人看護師への教育：複数の医療施設教育プログラムから自身の将来をイメージ化する					
7・8	まとめ：各自が身につけた力の披露としてのプレゼンテーション					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業での疑問をもとにしたアサインメント（宿題）を課しますので、事前学習が必要です。その詳細は、初回授業で提示します。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：杉森みど里・舟島なをみ（2016）. 看護教育学. 医学書院. 参考文献：授業内で提示する						

成績評価の方法・基準
■ アサインメント（20％） アサインメントシートを配付します。 ■ プレゼンテーション（40％） 科目独自の評価票を用いて相互評価をします。 ■ ポートフォリオ（40％） 課題に沿って作成していきます。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
全ての評価は、成績とともにアドバイザー一覧表で返却します。 ■ アサインメント（20％） アサインメントシート内にアドバイスします。 ■ プレゼンテーション（40％） 科目独自の評価票の中でアドバイスします。 ■ ポートフォリオ（40％） 今後の学習・キャリアへのアドバイスを含めたフィードバックをシートに記載し返却します。
担当教員からのメッセージ
この授業では、自身が受けてきた看護学教育をふりかえり、そこで課題を見出し、解決できることを目標としています。例：なぜグループワークは必要かなど教育方法に関すること、大卒看護師と専門学校卒看護師との違いなど教育課程に関すること。 この授業で扱うことを通して、新人看護師・保健師など入職1年目の不安の解消にもなるかもしれません。 考えること、表現することをさらに身につけたい方の受講をお待ちしています。 昨年受講生の声：毎回楽しかった。将来に役立てたい……。苦痛であったという声は全くなし。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
国際看護論	610	4前	選	2単位 60時間	演習	月5 集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○東田吉子（TUKADA, Yoshiko）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
事前連絡による予約制：研究室（5号館2階201）に在室時、又はメールで事前に連絡してください。個別に対応します。 E-mail：y-tsukada●saku.ac.jp						
授業の概要						
国際的な視点から諸外国の健康問題および心身の健康に影響を与える社会・経済、教育、および文化・伝統的な背景を検討しつつ看護活動のあり方を学ぶ。4年次までに講義・実習を通して日本の看護および看護を取り巻く状況を理解してきた。その集大成として、タイ王国で演習を行う。タイの保健医療システム、看護教育制度、看護を取り巻く状況について学び、日本との違い、共通点を見出す。また、実習先である国立ブラパ大学看護学部の学生らと情報交換をする機会を持つことにより、コミュニケーション能力を高める機会とする。						
到達目標						
事前学習の到達目標： 1. 日本の看護教育システムについて、説明できる。 2. 日本の社会の特徴である少子高齢化社会の課題について、グループ学習を通して理解を深める。 3. タイの保健医療について文献により理解する。 現地での講義・演習による到達目標： 1. 日本とタイの相違点、および類似点について、事前学習した範囲において説明することができる。 2. 現地での学習・交流を通してコミュニケーション能力を高め、国際的な視野を広げる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「Ⅵ. 国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を身につける授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション：全体の流れについて説明する。 1) 事前学習について：4月・5月・6月に月1回の事前学習を行う。 （4月末、タイの教員の来日に合わせて事前情報交換会を計画） 2) 現地での生活、および講義、施設見学について。 3) 帰国後のレポート提出について ―4月	講義	東田			
2	日本の看護教育、佐久大学の状況について再確認し、自国の看護教育、社会の状況について調べて発表する。 ―5月	グループ学習、発表	東田			
3	日本社会の特徴である少子高齢化社会、10大疾病、10大死因など、日本の保健医療について学び、タイとの比較ができるようにまとめる。 ―6月	グループ学習、発表	東田			
4, 5	タイの保健医療、看護教育等について文献を通して学習する。 ―7月	グループ学習、発表	東田			
6-11	タイの学生との討議テーマについて集中的に準備をする。 ―渡航前	グループ学習	東田			
12-30	現地集中講義・演習：2018年8月13日（出発）～22日（帰国） ブラパ大学での講義、近隣の第一次医療施設～第三次医療施設の見学、バンセン市における高齢者、および母子の家庭訪問、関連施設、HIV/AIDS関連施設を見学する。講義は、ブラパ大学の教員が担当する。必要に応じて佐久大学の担当教員が通訳をする。					

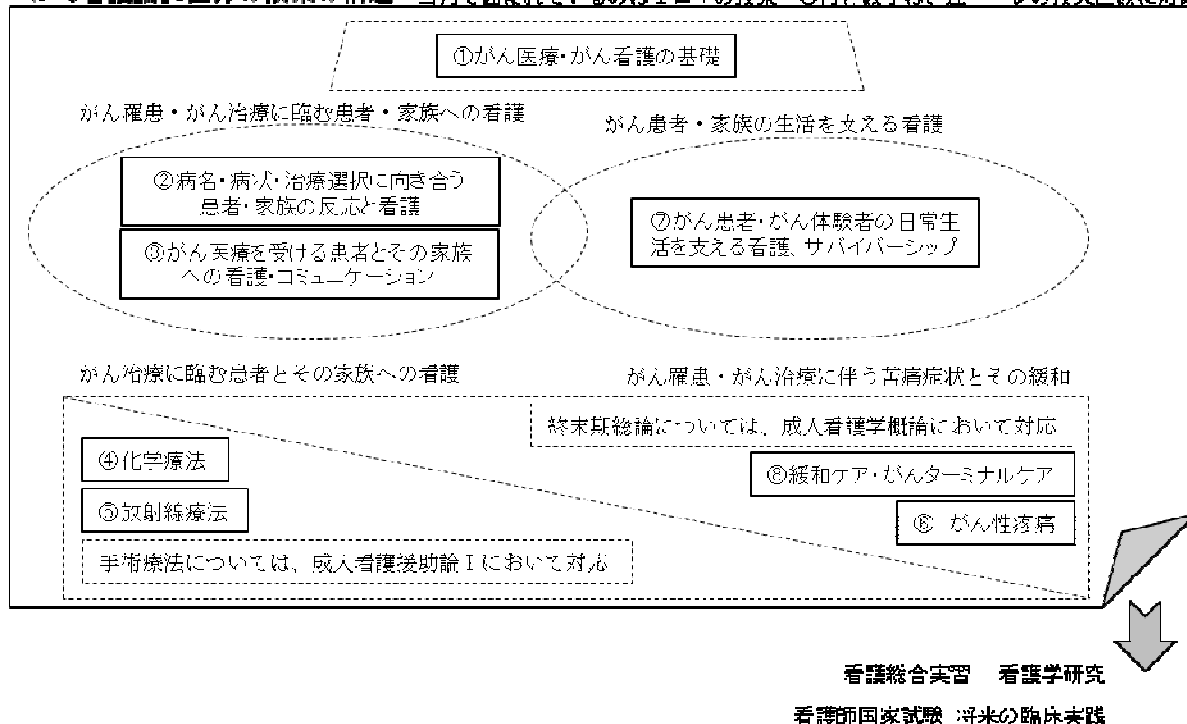
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
グループ学習、発表の準備：日本の看護教育・病院の状況、タイの看護事情、日本の高齢者ケア、母子保健等についてタイと比較できるように準備しておくことが必要であり、個人の学習、グループ学習が必要となります。約10時間位を目安にしています。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
随時、資料を配布します。
成績評価の方法・基準
事前学習、現地での学習に対する参加状況（50%） レポート提出（50%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題提出前にタイ国において、疑問点などを確認するためのミーティングを持つ。 レポートはコメントを付けて返却します。
担当教員からのメッセージ
世界の情報が容易に入手できる時代ではありますが、「百聞は一見に如かず」と言われるように、海外の看護大学の様子、看護事情を実際に見て、感じ、その場で学習することは得難い機会であり、その経験を通して、日本の看護についても気づかされる点が見つかります。視野が広がり、学習への取り組み、自身の看護観、キャリア形成の考え方に刺激を受けます。本学ならではの国際看護論をより多くの学生が履修することを望んでいます。

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
がん看護論	611	4前	選	1単位 15時間	講義	月4
担当教員（○印＝科目責任教員） ○水野照美（MIZUNO, Terumi）、鈴木真理子（SUZUKI, Mariko）、吉岡 恵（YOSHIOKA, Megumi）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 講義の後、教室で質問を受けます。／ 別途面談希望の場合は、対面またはメールで日程調整をします。 水野（5号館2階203）：t-mizuno、鈴木（真）（1号館2階1217）：m-suzuki、吉岡（5号館2階210）：m-yoshioka メールアドレスは、上記の後ろに、●saku.ac.jp						
授業の概要 がんの予防から診断法と最新の治療法、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況について看護の役割を理解する。痛みの緩和法、症状コントロール、化学療法を含めたがんの治療法を知り、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについて学習し、がん看護に関する看護の専門性を理解する。						
到達目標 1. がん患者とその家族のおかれた状況を多面的（身体的・心理社会的・経済的等）に説明できる 2. 癌の特徴、がん治療の特徴、がん罹患とがん治療に伴う苦痛症状の特徴、がん患者の生活状況の特徴等の理解を通して、必要な看護の内容と方法について考えを述べることができる 3. 既習の看護学実習や講義・演習科目などを統合してがん看護における関心領域を探究し、将来の看護実践における課題について述べることができる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「看護の発展と探究」区分の最後に置かれている、統合的な科目です。 カリキュラムマップにおいては、「Ⅴ 多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」の項に配置されており、この内容に最も関わります。臨床における看護実践と強いつながりがあります。 この科目は、「がん」という疾患を切り口にして、年代・健康レベル（急性・慢性・回復・終末など）・治療方法の多様性に触れることから、「Ⅳ 看護実践能力の基盤」の確認につながります。加えて、「がん」という病いを通して、「Ⅲ 命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「Ⅶ 多様な領域の専門家と連携し、協働できる能力」にも関わります。この科目のレポートに取り組むことで、「Ⅱ 学問を深め真理を探究していく態度・能力」の訓練になります。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション がん医療・がん看護の基礎			講義	水野	
2	病名・病状・治療選択に向き合う患者・家族の反応と看護			講義・演習	吉岡	
3	がん医療を受ける患者とその家族への看護・コミュニケーション			講義・演習	水野	
4	がん治療に臨む患者とその家族への看護 1 化学療法			講義	特別講師	
5	がん治療に臨む患者とその家族への看護 2 放射線療法			講義	特別講師	
6	がん罹患・がん治療に伴う苦痛症状とその緩和 がん性疼痛			講義	水野	
7	がん患者・がん体験者の日常生活を支える看護、サバイバーシップ			講義	鈴木（真）	
8	がん患者への緩和ケア、ターミナルケア			講義	水野	
8回分の授業の構造は、右ページの図						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・授業資料や参考文献を確認して、複数回のミニテストに取り組む。（12 時間） ・既習の講義や実習記録の振り返り、読書・TV視聴などを通して、がん看護における関心事をつかむ。（5時間） ・がん看護における関心事について詳しく調べ、がん看護の役割について論述する。推敲・修正する。（13時間）						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト：指定しない（積極的に学びたい場合、下記がお勧めです） 参考文献：小松浩子（2017）. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 第2版. 医学書院 ほか、授業内で紹介	
成績評価の方法・基準	
■ 筆記試験（40%） 到達目標 1, 2に該当 授業時間外の学修として、ミニテストを複数回課す予定です ■ レポート（50%） 到達目標 2, 3に該当 講義終了後に期日を定めて提出する最終レポートです 課題は複数提示しますので、関心のあるものを選ぶことができます 評価基準1：形式が整っている（例 期限内提出、課された課題への応答、文献の引用、など） 評価基準2：丁寧に論述している（例 導入部がある、文章が分かり良い、論理的な展開、剽窃がない） 評価基準3：がん看護について探究している（例 探究した結果がある、結果に基づく考察である、多面的に考察している、看護の役割が述べられている、トピックに独創性がある） ■ 授業参加状況（10%）	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
・ミニテストは採点をし、内容によってはコメントをつけて返却します。 解説が必要な場合は、専任教員の担当時間内に行います。 ・レポートは、コメントをつけて返却します。	
担当教員からのメッセージ	
・日程と学習の順序は初回授業にて説明します。 ・「看護総合実習」において、がん患者さんと接する可能性のある方はぜひ受講しましょう。 ・「看護学研究」において、がん患者さんやそのご家族に関するテーマに取り組む場合、ヒントを得ることができます。 ・看護師国家試験では、領域を超えて広く「がん看護」が出題されますので、準備につながります。 ・将来、ほとんどの方が、がん患者さんやそのご家族とかかわりをもつと思いますのでぜひどうぞ。	

「がん看護論」8回分の授業の構造 四角で囲まれているのは1コマの授業 ○付き数字は、左ページの授業回数に対応



2018

授業科目別シラバス

－ 専門教育科目 －
(実 習)

佐久大学看護学部

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
EBN（Evidence-Based Nursing）実習Ⅰ	404	2前	必	1単位 45時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）			オフィスアワー／連絡先と連絡方法			
○宮原香里（MIYAHARA, Kaori） 吉川三枝子（YOSHIKAWA, Mieko） 八尋道子（YAHIRO, Michiko） 吉田文子（YOSHIDA, Fumiko） 内山明子（UCHIYAMA, Akiko） 二神真理子（FUTAGAMI, Mariko） 小野美香子（ONO, Mikako） 柳澤佳代（YANAGISAWA, Kayo） 森本 彩（MORIMOTO, Aya） 田中高政（TANAKA, Takamasa）			宮原／k-miyahara●saku.ac.jp ・実習開始前のオリエンテーション終了後に 教室で質問を受け付ける ・随時メールで質問を受け付ける			
授業の概要						
本実習は最初の看護学実習となるため、臨地実習における学習の仕方の習得をめざす。具体的には対象者を中心とした看護について、事前学習をもとにテーマを決めて新たな自身の学習課題を明確にし追求する。臨地では、医療施設や介護サービス施設において、さまざまな健康課題をもつ人々や看護職および関連職員と実際に接し対話力を高めながら、看護について理解を深め、EBNについて考察する。						
到達目標						
1. 臨地実習における学習の仕方を習得することができる。 自律性のある学習：経験のふりかえりから課題を出して、それを調べ、経験と統合させる。 その内容を相手に説明することができる。 2. 看護職の役割をチームメンバーと協働しながら追求することができる。 3. 健康課題を持つ人々や看護職と対話することができる。 4. 相手を尊重した適切な言葉遣いや態度をとることができる。 5. 自分の考えや思いを他者に表現することができる。 6. 課題に沿って実習をふりかえることができる。（reflection）						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」を身につけるための授業科目である。						
授業計画						
1. 実習期間 平成30年5月21日（月）～5月25日（金） 5日間 2. 実習施設 浅間総合病院、佐久医療センター、シルバーランドみつい、シルバーランドきしの 3. 実習方法 実習1日目 学内にて、看護の定義をもとにEBNについて事前学習をし学習課題を明確にする。 実習2日目 医療施設において、病院長・看護部長の講義と病院見学を通して、看護の場を知る。 実習3～4日目 医療施設や介護サービス施設にてさまざまな健康課題をもつ人々や看護職および関連職員と実際に接し対話力を高めながら、看護職の役割について理解を深める。 実習5日目 学内にて、提示されたクリティカルシンキングの課題について学びを共有する。 EBN実践に向けての課題を明らかにする。						
※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
本実習はチームで学習課題を明確にして実習に臨む。そのため、実習開始前までに「事前学習シート（個人）」を記載し、看護について知りたいこと、疑問に思ったことを書き出す。さらに、看護の定義をもとにEBNについて、チームと共有したい学習課題を明らかにする。詳細は、実習開始前のオリエンテーションで説明する。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			成績評価の方法・基準			
特になし			EBNⅠループリックに従う			
課題に対するフィードバックの方法						
最終レポートは原則コメントを書いて返却する。 実習記録の返却日は、manabaまたはオクレンジャーにて周知する。						
担当教員からのメッセージ						
実習開始前にオリエンテーションを行います。詳細はmanabaまたはオクレンジャーで確認してください。						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
EBN（Evidence-Based Nursing）実習Ⅱ	405	2通	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）			オフィスアワー／連絡先と連絡方法			
○宮原香里（MIYAHARA, Kaori） 八尋道子（YAHIRO, Michiko） 田中高政（TANAKA, Takamasa） 二神真理子（FUTAGAMI, Mariko） 柳澤佳代（YANAGISAWA, Kayo）			吉川三枝子（YOSHIKAWA, Mieko） 吉田文子（YOSHIDA, Fumiko） 内山明子（UCHIYAMA, Akiko） 小野美香子（ONO, Mikako） 森本 彩（MORIMOTO, Aya）			
宮原／k-miyahara●saku.ac.jp ・実習開始前のオリエンテーション終了後に 教室で質問を受け付ける ・随時メールで質問を受け付ける						
授業の概要						
実習病院において患者を一人担当し、患者とその家族から生活者としての視点で系統的に得た情報のもつ意味を追求し、その患者にとって最善のエビデンスを用いて看護を行う。より良い看護実践になるよう提示される「EBN実習用ルーブリック」を指標にしながら知識・技術・態度の統合をはかる。						
到達目標						
1. 患者に関心を持ち、相手の立場に立ってコミュニケーションをとることができる。 2. 日常生活から気がかりを見出し、患者の個別性を配慮した看護計画が立案できる。 3. 患者の反応をもとに言葉をかけながら援助することができる。 4. 自身が実践した看護について、患者の反応をもとに分析・記録できる。 5. 看護実践のふりかえりを通して、自己の行動特徴を洞察できる。 6. 実習体験から看護の独自性や役割について意見を持つことができる。 7. 必要な知識を探索し、記録上で活用することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」を身につける科目である。 ＊先修科目：生活援助論Ⅰ・Ⅱ、EBN実習Ⅰ、フィジカルアセスメント						
授業計画						
1. 実習期間 EBN実習ⅡはEBN実習Ⅱ①とEBN実習Ⅱ②で構成され、①は6月の5日間、②は11月の5日間である。 学生は前半・後半グループに分かれる。6月に前半グループだった学生は、実習時期の公平性を保つため、11月の実習では後半グループとなる。 EBN実習Ⅱ① 前半グループ 平成30年 6月14日（木）～ 6月20日（水）の5日間 ① 後半グループ 平成30年 6月21日（木）～ 6月27日（水）の5日間 EBN実習Ⅱ② 前半グループ 平成30年11月 8日（木）～11月14日（水）の5日間 ② 後半グループ 平成30年11月15日（木）～11月21日（水）の5日間						
2. 実習施設 浅間総合病院、浅間南麓こもろ医療センター、東御市民病院、丸子中央病院、川西赤十字病院						
3. 実習方法 成人・老年期で日常生活援助（特に清潔の援助）を必要とする慢性期にある患者1名を担当する。						
※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
実習前までに、フィジカルアセスメントおよび生活援助論Ⅰの看護技術について患者に実践できるレベルまで練習しておく。また、看護展開論で学んだ内容についても十分復習しておく。学生配置発表後は、実習病棟の特徴に合わせた事前学習をすすめておく。 実習中は、担当患者の主な疾病に関する形態機能、病態生理、主要症状・検査・治療とその一般的な看護について学習するとともに、患者にとっての最善のエビデンスを調べ、計画を立てる（毎日1～2時間程度）。 実習後は、提出期限までに文献を用いて最終レポートをまとめる。実習で明らかとなった自身の課題に対し、目標を定め、計画的に行動をする。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			成績評価の方法・基準			
特になし			EBNⅡルーブリックに従う（EBN実習Ⅱ①とEBN実習Ⅱ②の配点が異なるため、必ず確認すること）			
課題に対するフィードバックの方法						
学生は日々の実習計画を立案し、指導者や実習担当教員が毎朝内容を確認しその場でフィードバックをする。 毎日提出する実習日誌は、教員が口頭もしくはコメントを書いてフィードバックをする。 実習記録は担当教員と面接をしながら返却する。						
担当教員からのメッセージ						
実習開始前にオリエンテーションを行います。詳細はmanabaまたはオクレンジャーで確認してください。						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護学実習Ⅰ（急性期）	504	3後	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）			オフィスアワー／連絡先と連絡方法			
○鈴木真理子（SUZUKI, Mariko） 水野照美（MIZUNO, Terumi） 小山智史（KOYAMA, Tomonori） 吉岡 恵（YOSHIOKA, Megumi） 塩入とも子（SHIOIRI, Tomoko） 阿藤幸子（ATOH, Sashiko） 宮澤美帆（MIYAZAWA, Miho）			実習終了後および学内日またはメール 鈴木：1号館2階1217 m-suzuki@saku.ac.jp 塩入：5号館2階助手室 t-shioiri@saku.ac.jp			
授業の概要						
成人期（急性期）にある対象を科学的視点でアセスメントする能力を習得し、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した知識や技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。						
到達目標						
急性期にある成人患者とその家族に必要な看護を理解し、看護過程を用いて対象の病状や経過に合った看護を実践する以下の基本5つを習得する。 1. 急性期にある患者とその家族の理解に基づく看護 2. 急性期の患者を中心とした人間関係の構築に基づく看護 3. 医療チームの一員である自覚 4. 急性期患者の受け持ち看護学生として相応しい倫理・態度 5. 健康状態が急激に変化する患者とその家族の看護を探求する態度						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」と「看護実践能力の基盤」での学び、さらに「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」として成人看護援助論等で修得した知識・技術を実践に生かしていく実習科目である。 ＊先修科目：E B N実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ						
授業計画						
実習方法：急性期（主に周手術期）の患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する カンファレンスを活用し、相互に学ぶ 一般病棟、手術室、術後集中管理病棟等において看護の継続性を学ぶ 原則として、実習期間中は受け持ち患者1名を決める 継続して受け持つことができない場合は、複数名の患者を受け持つこともある 実習期間：3週間 実習施設：佐久医療センター、浅間総合病院、浅間南麓こもろ医療センター ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
既習科目（形態機能学、健康障害と治療、フィジカルアセスメント、成人看護学概論等）、特に成人看護援助論Ⅰでの学習内容が実習内容に直結します。 受け持ち患者決定から手術までの期間が非常に短いため受け持ち患者が決まってからの準備では間に合わないこと、さらに成人看護援助論Ⅰが2年次後期の開講科目であったことも踏まえて必ず準備学習を早期から行うこと（領域別実習開始前、すなわち夏期休業中にある程度の準備をしておくこと）。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			成績評価の方法・基準			
参考文献：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ等で活用した文献、資料 鎌倉やよい（2011）．周術期の臨床判断を磨く．医学書院 竹内登美子（2013）．周手術期看護1～3、5 第2版．医歯薬出版株式会社 倉橋順子（2010）．はじめての手術看護．メディカ出版			実習要項に記載する方法・基準による			
課題に対するフィードバックの方法						
事前課題に関しては、領域別実習開始直前に補講（任意参加）を行う予定です。 実習中は、指導者・教員からの助言、実習記録やカンファレンスでのやり取り等を通して、都度気づいたことや必要なことは伝えたいと思います。						
担当教員からのメッセージ						
本実習はクリティカルな状況にある患者を受け持ち、状態の変化が激しく、非常に速い実習展開となります。従って、実習開始前ならびに受け持ち患者決定前からの準備が必須です。成人看護援助論Ⅰの講義・演習内容を中心に急性期（特に周手術期）看護に必要な一般的知識を理解しておいてください。 また、シビアな状況にある患者と向き合い、3週間の実習期間が遂行できるよう、心身両面における自身の健康管理にも十分留意するようにしてください。						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護学実習Ⅱ（回復・慢性期）	505	3後	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）			オフィスアワー／連絡先と連絡方法			
○吉岡 恵 (YOSHIOKA, Megumi) 松下由美子 (MATSUSHITA, Yumiko) 水野照美 (MIZUNO, Terumi) 鈴木真理子 (SUZUKI, Mariko) 小山智史 (KOYAMA, Tomonori) 阿藤幸子 (ATO, Sachiko) 塩入とも子 (SHIOIRI, Tomoko) 宮澤美帆 (MIYAZAWA, Miho)			実習終了後および学内日またはメール 吉岡：5号館2階210 m-yoshioka●saku.ac.jp 阿藤：5号館2階209 s-ato●saku.ac.jp 宮澤：5号館2階助手室 m-miyazawa●saku.ac.jp			
授業の概要						
成人期にある人の特性を理解し、受け持ち患者の病態や症状・徴候、経過、治療法などを学び、健康状態に応じた適切な看護ケアを提供できる基礎的知識、技術、態度を養う。また、保健医療チームの機能や役割、看護職としての機能や役割について学ぶ。						
到達目標						
治療を受ける成人患者とその家族に必要な看護を理解し、看護過程を用いて対象の健康状態や生活に合った看護を実践する以下の基本5つを習得する。 1. 治療を受ける患者とその家族の理解に基づく看護 2. 治療を受ける患者を中心とした人間関係の構築に基づく看護 3. 医療チームの一員である自覚 4. 治療を受ける患者の受け持ち看護学生として相応しい倫理・態度 5. 健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする患者とその家族の看護						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
看護の基本で学んだことを踏まえ看護の展開をしていく実習科目であり、また「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」に関連している。 ※先修科目：E B N実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ						
授業計画						
実習方法： 成人期の患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する。 カンファレンスを活用し、相互に学ぶ。 病棟・外来・リハビリテーション部門において看護の継続性を学ぶ。 原則として、実習期間中は受け持ち患者を決める。患者1名に学生1名。 継続して受け持つことができない場合は、複数名の患者を受け持つこともある。 実習期間：3週間 実習施設：浅間総合病院、佐久総合病院、佐久医療センター、浅間南麓こもろ医療センター ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
事前：患者を受け持って看護展開ができるよう事前に担当教員からオリエンテーションを受け、事前学習を行い実習に臨みましょう。（既習科目の形態機能学・健康障害と治療・フィジカルアセスメント・成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ等で学んだことを復習する） 事後：受け持ち患者に行った看護を実習記録に整理し理解を深め、対象にふさわしい看護を検討していきます。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			成績評価の方法・基準			
テキスト：指定しない 参考文献：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ等で活用した文献・資料			実習要項に記載する方法・基準による			
課題に対するフィードバックの方法						
実習中は指導者・教員からの助言や実習記録のコメントを受けながら、受け持ち患者に看護を展開し実践していきます。						
担当教員からのメッセージ						
1. 患者を受け持って看護学実習を行うため、実習に集中できる環境を整えておきましょう 2. 3週間、医療施設にて実習を行うため、十分な健康管理をしましょう						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
老年看護学実習	513	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○征矢野あや子（SOYANO, Ayako） 5号館3階302 安川揚子（YASUKAWA, Yoko） 1号館2階1213 中嶋智子（NAKAJIMA, Tomoko） 5号館2階208 小野美香子（ONO, Mikako） 1号館3階1312 金澤みどり（KANAZAWA, Midori）		全教員：各クール最終週の金曜日16:00～17:00 その他の時間については、実習期間中は不在が多いため あらかじめメールで在室を確認してください。				
授業の概要						
老年期にある対象の特性を理解し、受け持ち患者における必要なニーズを見出して、今まで学習してきた知識、技術を実際の場面を通じて統合し、適切に看護過程を展開できる技術、能力、態度を養う。						
到達目標						
受け持ち事例を通して、高齢者の個別性に配慮した看護過程の展開ができる。 高齢者の状況や個別性に配慮した日常生活支援技術、コミュニケーション能力が獲得できる。 実習施設を通して、高齢者に提供される医療・介護サービスを理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
老年看護学実習は、「多様な健康のレベルと個別性に対応できる」に位置付けられている科目ですが、学位授与の方針のすべてに関わる学びをします。 ＊先修科目：E B N実習Ⅱ、老年看護学概論、老年看護援助論						
授業計画						
実習方法： 介護老人保健施設、回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟に入院・入所している高齢者1事例を受け持ち、老年看護過程を展開する。 施設で行われているデイケアやレクリエーション・リハビリテーション等を参加見学する。 受け持ちに限らず、多くの高齢者に対するコミュニケーションやケアに参加することで、対象者の個性を理解する。 実習記録やカンファレンスでの意見交換を通じて、思考を整理し、考察を広げたり深めたりする。 実習期間：2週間 実習施設： 佐久総合病院老人保健施設、老人保健施設こまくさ、介護老人保健施設しののめの里、 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟 ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
事前学習： 臨地実習開始の2～4日前に事例を紹介します。テキスト・授業資料等をもとに、病態、症状、疾患が及ぼす日常生活への影響等について調べ、関連図等で学んだことを整理しておいてください。また、介護老人保健施設または回復期リハビリテーション病棟の役割やそこで働く他職種の役割について、復習しておいてください。 実習中： 看護過程の展開とレポート作成。レポートは文献を用いつつ実習で得た学びについて考察してください。 実習終了後： 実習仲間の事例にも関心を持って学び、終了直後に国家試験の準備学習に取り組んでください。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準				
指定しない		実習要項に記載する方法・基準による				
課題に対するフィードバックの方法						
実習終了時に個別面談し、到達目標の到達度、記録やカンファレンスで表せなかった疑問や実習の喜びなど、看護過程を進めるうえでの未解決の疑問等について、学生と教員が共に考えます。						
担当教員からのメッセージ						
皆さんが実習する施設はそれぞれに特性があります。実習仲間たちと学びを共有してください。 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院の実習生は医師住宅に宿泊可能です（宿泊費の自己負担なし）。						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
精神看護学実習	523	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○柿澤美奈子（KAKIZAWA, Minako） 坂江千寿子（SAKAE, Chizuko） 篠崎一栄（SHINOZAKI, Kazue）		原則、実習期間内の学内日および実習終了後 オフィスアワー以外の面談予約はメールで可能である。 柿澤：m-kakizawa●saku.ac.jp 5号館2階207 坂江：chi-sakae●saku.ac.jp 5号館3階307 篠崎：k-shinozaki●saku.ac.jp 5号館2階助手室				
授業の概要						
精神看護の特性と看護ケアの特殊性を理解し、適切に看護を展開するための知識、技術、態度を統合する。治療的コミュニケーションの技法やその他の精神療法について理解を深め、精神疾患をもつ方への看護援助の実際を学ぶ。						
到達目標						
1. 患者一看護師関係の成立過程を理解し、治療的コミュニケーションの基礎的能力を身につけることができる。 2. 急性期・回復期あるいは慢性期にある患者を受け持ち、精神症状によって影響されているセルフケア能力や生活上の困難に視点をあて、看護過程を用いて対象に応じた看護の実践ができる。 3. 社会復帰に関する諸活動に参加して、現在の精神障がい者の置かれている立場を理解し、保健医療福祉チームの一員として、果たすべき役割を論述することができる。 4. 看護場面で生じる倫理的な課題を患者中心の視点から認識し、自己の倫理観を育成することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」「看護実践能力の基盤」を基に、「多様な健康レベルと個性性に対応できる看護実践能力」を身につける授業科目であり全て実習という授業形態である。「様々な領域の専門家と連携し協働できる能力」の行動の基盤となる。 ＊先修科目：E B N実習Ⅱ、精神看護学概論、精神看護援助論						
授業計画						
実習方法： 〈病棟〉 1. 看護過程を用いて受け持ち患者の看護を実践する。 2. 治療プログラムに参加し働きかけの実際を学ぶ。 3. 看護場面の再構成を記述しコミュニケーションの傾向を自己評価する。 4. 看護場面における倫理的な課題をとりあげアサーションを意識しながら検討する。 〈精神科デイケアまたは就労継続支援B型事業所〉 1. 精神科デイケア等のプログラムに参加し、当事者が地域生活を維持するための支援や課題を考察する。 実習期間：2週間 実習施設： 〈病棟実習〉 北アルプス医療センターこころのホスピタル、小諸高原病院、佐久総合病院本院、千曲荘病院 〈精神科デイケアおよび就労継続支援B型事業所〉 北アルプス医療センターメンタルケアセンターあづみ、各病院精神科デイケア、佐久の泉共同作業センター、ワークポート野岸の丘、等 ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
効果的に実習ができるよう事前学習を十分しておく。 日々の実習をよくふりかえり、自己の成長につなげる努力をする。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			成績評価の方法・基準			
テキスト： 岩崎弥生/渡邊博幸編(2015). 精神看護学① 精神看護学概論, 精神保健, メジカルフレンド社. 岩崎弥生/渡邊博幸編(2016). 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護, メジカルフレンド社. 参考文献： 精神看護学概論、精神看護援助論で使用した資料等			実習要項に記載する方法・基準による			
課題に対するフィードバックの方法						
原則、事前課題やレポート、記録等は実習評価後、コメントして返却する。						
担当教員からのメッセージ						
医療にかかわるものとしての自覚と責任を持って実習に臨みましょう。臨地指導の方々や教員を活用しながら、精神看護について、感じ考え学び合ひましょう。						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
小児看護学実習	533	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○小林 睦 KOBAYASHI, Mutsumi 5号館2階207 橋本佳美 HASHIMOTO, Yoshimi 5号館3階308 鈴木千衣 SUZUKI, Chie 5号館3階307 石坂俊也 ISHIZAKA, Toshiya 1号館2階1221		実習期間内の学内日・相談があるときは適宜 アドレスは実習要項を参照ください				
授業の概要						
健康や発達に生じた障害が、子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもの成長発達及び健康レベルに応じた看護実践に必要な基礎的能力を養う。 また、小児期に受傷し障害を抱え成長発達してきた人々や家族の健康・生活を理解し、必要な支援について学ぶ。						
到達目標						
1. 健康な子どもの成長発達と日常生活（生活リズム、遊び、基本的な生活行動など）について理解する。 2. 子ども（対象者）や家族との相互作用を通して、個々の子ども（対象者）や家族の理解を深める。 3. 健康障害や医療が、子ども（対象者）や家族に及ぼす影響を把握し、必要な援助を理解する。 4. 健康障害をもつ子ども（対象者）や家族に必要な援助を実施・評価できる。 5. 子ども（対象者）の健康障害が家族にどのような影響を及ぼしているか理解を深める。 6. 保健医療チームの役割が理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」を基に、「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」に関連する。 ※先修科目：E B N実習Ⅱ、小児看護学概論、小児看護援助論						
授業計画						
【幼稚園・保育園実習】 実習方法：各クラスの保育活動に参加し、子どもたちと積極的にコミュニケーションをとりながら、子どもや保育士の関わりを観察し、理解を深める。 実習期間：平成30年9月3日～4日 実習施設：佐久幼稚園 佐久南幼稚園 小雀保育園 【病棟実習、小児科外来・クリニック実習】 実習方法：病棟実習では、一人の子ども（対象者）を受け持ち看護過程を展開しながら、成長発達・健康レベルに応じた看護を指導を受けながら実践する。 小児科外来・クリニックでは、外来受診する子ども・家族の看護課題に対し、指導を受けながら看護を実践する。 実習期間：2週間 実習施設：佐久総合病院本院小児科外来 佐久中央医院 佐久医療センター小児科外来 吉田子ども医院 浅間総合病院小児科外来 三才山病院 3・5病棟 信州上田医療センター小児科外来 東長野病院 のぞみA・B病棟 ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
実習オリエンテーションを聞き、各自が必要と考える事前学習をする。 実習中は日々の振りかえりを行い、教員の助言を受けて翌日の計画につなげる。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準				
小児看護学概論・小児看護援助論で使用したテキスト 授業で配付した資料 その他、適宜提示します。		実習要項に記載する方法・基準による				
課題に対するフィードバックの方法						
実習中、口頭あるいは実習記録への適宜コメントにより指導する。また実習評価終了後、課題レポート・実習記録にコメントをつけて返却する。						
担当教員からのメッセージ						
・実習目標を明確にして実習に臨んでください。 ・不明点等は速やかに教員と相談して解決しましょう。 ・感染症に罹患しないように、体調管理・清潔行動をきちんととってください。						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
母性看護学実習	543	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○櫻井綾香 SAKURAI, Ayaka 弓削美鈴 YUGE, Misuzu 中田覚子 NAKATA, Satoko		原則、授業日の18時迄とする 授業終了時にアポイントをとり行うこと 弓削：m-yuge●saku.ac.jp 櫻井：a-sakurai●saku.ac.jp 中田：s-nakata●saku.ac.jp				
授業の概要						
母性の特性と看護ケアの特殊性を理解し、適切に看護を実践するために必要な知識、技術、態度を修得する。 妊娠・分娩・産褥期にある母子と家族への援助について学ぶとともに、次代を育む家族機能と支援について学ぶ。						
到達目標						
1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児と家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 対象の健康上の課題・強みについてアセスメントし、計画立案、実践、評価ができる。 3. 対象を全人的に理解し、共感的にかかわることができる。 4. 医療チームの役割、社会的視点を理解し、継続看護の在り方を考えることができる。 5. 母性看護学実習を振り返り、自己の母性観・父性観を深めることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
母性看護学概論及び母性看護援助論での学習を特に周産期の対象をとおして、その身体、心理、社会面の特徴の理解を深め、多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力を修得する。 ＊先修科目：E B N実習Ⅱ、母性看護学概論、母性看護援助論						
授業計画						
実習方法						
1. 褥婦と新生児の一組を担当し、一連の看護過程を展開する 2. 受け持ち褥婦をとおして、地域社会、関連季刊との連携について学ぶ 3. 妊婦健康診査の見学、一部実践、保健指導の見学をとおして、妊婦の看護を学ぶ 4. 助言を受けながら産婦の看護を実践し、産婦の看護を学ぶ 5. 出生直後の新生児の観察とケアを見学する						
実習期間 2週間						
実習施設 浅間総合病院 佐久医療センター 上田市立産婦人科病院 北信総合病院						
※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
母性看護援助論で学ぶ知識と看護技術の復習と整理 実習オリエンテーション時の沐浴、褥婦の情報収集のための準備						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準				
特に指定はない		実習要項に記載する基準による				
課題に対するフィードバックの方法						
実習期間内に随時個別指導を行う。						
担当教員からのメッセージ						
・健康管理に努め、健康上問題がある場合には早急に相談すること（看護者として倫理的問題である） ・母性看護学概論及び母性看護援助論の講義資料等をまとめ活用すること ・母性看護技術の練習を十分に行い、技術を身に付けて実習に臨むこと						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
在宅・地域看護学実習	556	3後	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○鶴岡 章子/Tsuruoka, Shoko 関本真奈美/SEKIMOTO, Manami 高木 琴代/TAKAGI, Kotoyo 細谷たき子/HOSOYA, Takiko 佐藤美由紀/SATO, Miyuki 依田 明子/YADA, Akiko 他		学内日および実習終了後またはメール 関本：m-sekimoto●saku.ac.jp 1号館3階1312 依田：a-yoda●saku.ac.jp 1号館2階1214				
授業の概要 療養者や障害者とその家族が、療養あるいは介護予防をしながら、在宅で希望する生活を継続するための健康支援の方法を、訪問看護ステーションと関連する保健医療福祉機関（施設）で実習する。在宅看護の対象の理解とヘルスアセスメントの基本知識と技術、効果的な看護を展開するための方法を、訪問看護師との同行訪問、同一事例への継続訪問を通して学ぶ。さらに、訪問看護師が病院や地域包括支援センターの保健師や看護師、他職種と連携してケアを提供し、あるいは地域ケアを充実させるために果たす役割について、ケアカンファレンス等への参加を通して理解する。						
到達目標 1. 在宅療養者と家族の生活面から健康課題を把握し、看護過程を展開できる。 2. 訪問看護師と同行し、在宅療養者とその家族に個性のある適切な看護援助ができる。 3. 在宅療養者の健康状態を維持するために、訪問看護師が、病院や地域の保健医療福祉の専門職と連携して行う看護活動を説明できる。 4. 地域で生活する人々の健康を維持し、生活を支える地域の保健活動と看護職（保健師、看護師）の役割を説明できる。 5. 療養者とその家族を支える在宅ケアの質を高める看護職（保健師・看護師）のあり方を説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 ・多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力 ・地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力 ・他領域で学んだ看護技術を在宅に応用し看護過程を展開する ＊先修科目：E B N実習Ⅱ、地域看護学概論、地域看護援助論Ⅰ						
授業計画 実習方法・内容・場所 ・訪問看護ステーション：訪問看護師と同行訪問し、様々な対象者への在宅看護の実践を学ぶ。 また、同一事例への継続訪問を通して看護過程を展開し、在宅における総合ケアの視点を明確に持ち、よりよい在宅ケアを推進させる看護の知識・技術・態度を養う。また、訪問診療等在宅ケアチームでの多職種連携の実践を体験し、そこでの看護職の機能と今後のあり方を考察する。 ・ <u>デイサービス（通所介護）</u> ：デイサービスのプログラムに参加し、利用者や家族にとっての意義と課題について考える。また、利用者の心身機能や興味・関心に基づく健康教室を実施し、利用者の健康意識を高め心身活性化をもたらす援助の方法を学ぶ。デイサービスにおける看護職・介護職の役割と連携のあり方を学ぶ。 ・ <u>高齢者保健福祉事業への参加</u> ：高齢者を主な対象として、療養生活を豊かにし、要介護状態への移行を予防し、あるいは健康な高齢者の生活機能を維持するための保健福祉事業に参加し、保健師の役割や他職種との協働のしかたを学ぶ。 ・ <u>地域包括支援センター</u> ：地域包括支援センターの組織や機能、在宅ケアとの連携、あるいは地域の高齢者が健康で尊厳のある生活を送るための活動を理解し、保健師あるいは看護師の役割と他職種との協働について学ぶ。 実習期間：平成30年9月～平成31年2月（3週間） ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 関連科目の講義内容を復習するとともに、在宅・地域看護学実習の事前学習課題について、十分に学修しておくこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準				
参考文献：地域看護援助論Ⅰ、地域看護学概論、保健衛生学で使用したテキストおよび資料		実習要項に記載する方法・基準による				
課題に対するフィードバックの方法 1. 臨地での個別指導 2. 学内カンファレンスでの集団指導 3. 実習記録およびレポートにコメントを記入する						
担当教員からのメッセージ この実習では、様々な健康状態やそれぞれの環境で生活する療養者や家族に関わることで対象者を主体としたケアのあり方を学びましょう。また、在宅ケアを支えるケアシステムの理解と様々な保健医療福祉の場で活躍する看護職（保健師、看護師）と在宅ケアチームとの連携のあり方を現場から積極的に学ぶ態度で実習に臨みましょう。						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域看護学実習	557	4後	自 (保) 必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○佐藤美由紀（MIYUKI, Sato） 細谷たき子（HOSOYA, Takiko） 依田明子（YODA, Akiko） 他		学内日、実習終了後またはメールにて 佐藤美由紀 m-sato●saku.ac.jp 細谷たき子 t-hosoya●saku.ac.jp 依田明子 a-yoda●saku.ac.jp				
授業の概要						
広域のかつ専門的な保健福祉の専門機関（保健所、精神保健福祉センター、児童相談所等）や産業・学校の場における保健活動の特徴と支援方法を学び、保健師の役割を理解する。保健所における保健事業計画の策定プロセスと法令や県の保健福祉計画との関連を学び、保健福祉計画と保健事業との整合性、施策化に向けた保健師の役割を理解する。継続訪問の実践を通して、対象者とともに長期的に健康問題の解決を図っていく保健師の個別支援の特徴と技術を学ぶ。						
到達目標						
1. 保健所と管轄市町村との広域的な保健福祉システムおよびそこでの保健師の役割を説明できる。 2. 感染症、難病、災害等の健康危機の予防と対応等、専門的な対応が必要な健康課題について、保健所が国や市町村と連携して行う活動の内容と保健師の役割を説明できる。 3. 地域保健の根拠となる法律や制度を理解し、広域的な保健福祉事業の計画立案、評価の方法について、事例に即して説明できる。 4. 産業・学校等対象者の特徴に合わせた保健活動と、対象者の生涯にわたる公衆衛生看護活動を支援する看護職の役割を理解する。 5. 管轄市町村において、総合実習で訪問した家庭の継続訪問を行い、対象と家族の健康課題の変化を把握し、必要な支援を考察することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題をとらえる能力」を身につける授業科目であり、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」「さまざまな領域の専門家と連携し協力できる能力」にも関連する。 *先修科目：看護総合実習						
授業計画						
実習方法： 1) 保健福祉事務所を中心に県の関連施設（保健所、本庁、児童相談所、精神保健福祉センター等）での実習・見学 2) 継続訪問事例の展開（支援計画の実施、保健指導の実施、保健活動の評価） 3) 産業保健・学校保健の現場の見学						
実習期間：3週間						
実習場所： 佐久保健福祉事務所、上田保健福祉事務所、長野保健福祉事務所、北信保健福祉事務所、長野市保健所、飯山市、中野市、上田市、東御市、小諸市、佐久市、ミネベアミツミ、佐久市内小中学校 他						
※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テキストや授業資料等により実習において実施する事業や保健活動について調べる。実施後の評価及び復習。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準				
テキスト・参考文献：地域看護学概論、地域看護援助論、保健衛生学、保健医療福祉行政論で使用したテキストや資料		1. 実習における主体的な態度 35% 2. 実習記録 50% 3. 課題レポート 15%				
課題に対するフィードバックの方法						
レポートや記録等は実習評価後コメントをつけて返却する。						
担当教員からのメッセージ						
この科目の履修は、保健師科目選択者に限ります。						

【專門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
看護総合実習	591	4前	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）		オフィスアワー／連絡先と連絡方法				
○吉岡 恵（YOSHIOKA, Megumi）、他専任教員		領域ごとのオリエンテーションでお知らせします。				
授業の概要 基礎看護学実習を含め、各領域の実習の集大成としての実習を行う。さまざまな状況下、さまざまな健康問題を持ち、健康レベルにある対象者について、今までの学習を応用して適切に、効果的に看護を展開する能力を養い、実践に必要な総合的実践能力を養う。						
到達目標 1. 対象者の安全を保証するために、状況に応じた適切な看護上の判断を行い、指導の下に看護実践できる。 2. 看護チームの一員として、複数の対象者に対するケアの優先度を判断し、指導の下にケアを計画・実施できる。 3. 臨地の看護状況の特徴を把握し、指導の下に問題解決に向けた看護が実践できる。 4. 看護実践の場において、各専門職と連携・協働して指導の下に看護を展開することができる。 5. 対象者の健康生活を総合的に支援するチームの一員として、地域の関係者と連携できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」と「看護実践能力の基盤」、「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」での学びをふまえ、「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を実践に生かしていく統合的な実習科目である ＊先修科目：成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、精神看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、在宅・地域看護学実習 地域看護学を選択した場合：上記科目に加え、地域看護援助論Ⅱ・Ⅲ、地域看護システム論						
授業計画 実習方法： 基礎総合看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、地域看護学の実践の場において、実習目標を総合的に達成する実習課題と実習計画を学生が主体的に設定して実習する。 具体的には、3年次2月の看護総合実習全体オリエンテーションで、各領域から提示される実習要項をもとに、希望領域でどのような実習を行いたいかを考え、第4希望までを所定の用紙に記入し期日までに提出する。学生の希望をもとに実習施設に関する配置等を決定し、4年次4月の前期履修ガイダンス時に各学生に実習領域を発表する。学生は配属になった領域担当教員と相談し、各自の実習計画に沿って主体的な学習をする。 但し、保健師国家試験受験資格取得要件科目履修者は、地域看護学（市町村における地域健康支援実習）とする。 実習期間：平成30年7月2日～7月27日までの間で各領域が定める3週間 実習施設：各看護学実習施設及び関連施設 ※詳細は看護総合実習全体オリエンテーションで配付される各領域の実習要項を参照のこと。						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 既習科目及び実習についてふりかえり、必要な知識や看護技術について十分復習しておくこと。 実習する領域ごとに実習方法や実習期間が異なるので、事前に掲示される連絡事項や各領域の実習前オリエンテーションの内容には細心の注意をして実習準備をすること。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等		成績評価の方法・基準				
テキスト：使用しない 参考文献：領域の専任教員が紹介する。		実習要項に記載する方法・基準による				
課題に対するフィードバックの方法 事前課題に関しては、領域ごとに実習開始前にオリエンテーションがあります。 実習中は、指導者・専任教員からの助言、実習記録やカンファレンスを通して伝えられます。						
担当教員からのメッセージ 関心のあるテーマを選んで取り組む3週間の実習です。すでに学んだ知識や技術を統合して臨むことが求められるこの実習は、少人数のグループに分かれて実施します。担当教員に相談しながら、看護に携わるプロフェッショナルとして社会に一步踏み出すその前の実習として、どのような実習にしたいか・何ができるか等、課題を具体的に考え、自分自身の目的とゴールを明確にして臨みましょう。						